

【資料】

【資料Ⅰ-1】平成20年度口腔医学カリキュラム作成担当学会議議事録（第1～3回）

【資料Ⅰ-2】平成21年度口腔医学カリキュラム作成担当学会議議事録（第4～17回）

【資料Ⅰ-3】平成22年度口腔医学カリキュラム作成担当学会議議事録（第18～29回）

【資料Ⅰ-4】8大学医学系授業科目一覧表

連携大学実施担当者・カリキュラム作成担当者に対するアンケート集計結果

【資料Ⅰ-5】口腔医学カリキュラム作成に向けてのアンケート調査

【資料Ⅰ-6-①】医歯学連携演習シラバス

【資料Ⅰ-6-②】平成22年度テレビ授業連携表

【資料Ⅰ-6-③】テレビ配信授業に関する取り決め

【資料Ⅰ-7】医歯学連携演習講義風景写真

【資料Ⅰ-8】医歯学連携演習テレビ授業アンケート（毎回）用紙

【資料Ⅰ-9-①】医歯学連携演習テレビ授業アンケート（終了後）用紙

【資料Ⅰ-9-②】医歯学連携演習テレビ授業アンケート（終了後）集計結果

【資料Ⅰ-10】平成23年度テレビ授業連携表(案)

【資料Ⅰ-11-①】耳鼻咽喉科シラバス

【資料Ⅰ-11-②】眼科シラバス

【資料Ⅰ-11-③】小児科シラバス

【資料Ⅰ-11-④】精神医学シラバス

【資料Ⅰ-11-⑤】皮膚科シラバス

【資料Ⅰ-11-⑥】産婦人科シラバス

【資料Ⅰ-12】医科隣接6科目ワーキンググループ(案)

【資料Ⅰ-13-①】耳鼻咽喉科モデルシラバス(案)

【資料Ⅰ-13-②】眼科モデルシラバス(案)

【資料Ⅰ-13-③】小児科モデルシラバス(案)

【資料Ⅰ-13-④】精神医学モデルシラバス(案)

【資料Ⅰ-13-⑤】皮膚科モデルシラバス(案)

【資料Ⅰ-13-⑥】産婦人科モデルシラバス(案)

【資料Ⅰ-14-①】基礎医学科目(組織学)ワーキンググループ表(案)

【資料Ⅰ-14-②】組織学モデルシラバス(参考：福岡歯科大学)

【資料Ⅰ-14-③】組織学モデルシラバス

【資料Ⅰ-15】組織学モデルカリキュラム(案)

【資料Ⅰ-16】基礎医学科目(病理学)ワーキンググループ表(案)

【資料Ⅱ-1】海外大学の授業カリキュラム(分類別)

【資料Ⅱ-2-①】平成20年度欧州歯科大学視察報告

【資料Ⅱ-2-②】平成20年度米国中部海外大学視察報告

【資料Ⅱ-2-③】平成20年度北米歯科医学教育視察報告

- 【資料Ⅱ-3】平成20年度海外視察報告会次第
- 【資料Ⅱ-4】海外大学における歯学教育カリキュラム
- 【資料Ⅱ-5】平成21年度海外視察報告会次第
- 【資料Ⅱ-6-①】平成21年度北米視察資料
- 【資料Ⅱ-6-②】平成21年度中国視察報告書
- 【資料Ⅱ-7】平成22年度海外視察報告会次第
- 【資料Ⅱ-8-①】平成22年度南カリフォルニア大学視察資料
- 【資料Ⅱ-8-②】平成22年度ケースウエスタンリザーブ大学・ボストン大学視察報告書
- 【資料Ⅲ-1】平成20年度口腔医学シンポジウム プログラム・抄録
- 【資料Ⅲ-2】平成21年度口腔医学シンポジウム プログラム・抄録
- 【資料Ⅲ-3-①】平成22年度口腔医学シンポジウム プログラム・抄録
- 【資料Ⅲ-3-②】日本歯科医学教育学会雑誌第26巻3号
- 【資料Ⅲ-4-①】口腔医学国際シンポジウム プログラム・アブストラクト
- 【資料Ⅲ-4-②】口腔医学国際シンポジウム Proceedings
- 【資料Ⅲ-5】平成20年度口腔医学シンポジウムアンケート集計結果
- 【資料Ⅲ-6】平成21年度口腔医学シンポジウムアンケート集計結果
- 【資料Ⅲ-7】平成22年度口腔医学シンポジウムアンケート集計結果
- 【資料Ⅲ-8】口腔医学国際シンポジウムアンケート集計結果
- 【資料Ⅳ-1】平成21年度第1回FDワークショップ報告書
- 【資料Ⅳ-2】平成21年度第2回FDワークショップ報告書
- 【資料Ⅳ-3】平成22年度第1回FDワークショップ報告書
- 【資料Ⅳ-4】平成22年度第2回FDワークショップ報告書
- 【資料Ⅴ-1】平成20年度SD研修プログラム
- 【資料Ⅴ-2】平成21年度第1回SD研修報告書
- 【資料Ⅴ-3】平成21年度第2回SD研修報告書
- 【資料Ⅴ-4】平成22年度第1回SD研修報告書
- 【資料Ⅴ-5】平成22年度第2回SD研修報告書
- 【資料Ⅴ-6】平成20年度SD研修アンケート集計結果
- 【資料Ⅵ-1】教員短期研修派遣名簿
- 【資料Ⅵ-2】職員短期研修派遣名簿
- 【資料Ⅶ-1-①】日本歯科新聞（平成20年11月4日）
- 【資料Ⅶ-1-②】日刊歯科通信（平成20年11月5日）
- 【資料Ⅶ-1-③】西日本新聞（平成20年12月21日）
- 【資料Ⅶ-1-④】教育学術新聞（平成21年1月21日）
- 【資料Ⅶ-1-⑤】日本歯科新聞（平成21年2月10日）
- 【資料Ⅶ-1-⑥】日刊歯科通信（平成21年2月24）
- 【資料Ⅶ-1-⑦】日本歯科新聞（平成21年2月24）
- 【資料Ⅶ-1-⑧】教育学術新聞（平成21年2月25）

- 【資料Ⅶ-1-⑨】週刊文春広告（平成21年3月26日）
- 【資料Ⅶ-1-⑩】西日本新聞（平成21年3月29日）
- 【資料Ⅶ-1-⑪】神奈川新聞（平成22年3月30日）
- 【資料Ⅶ-1-⑫】日本歯科新聞（平成22年4月20日）
- 【資料Ⅶ-1-⑬】教育学術新聞（平成22年4月28日）
- 【資料Ⅶ-1-⑭】教育学術新聞（平成22年11月10日）
- 【資料Ⅶ-1-⑮】西日本新聞（平成22年11月28日）
- 【資料Ⅶ-1-⑯】読売新聞（平成22年12月5日）
- 【資料Ⅶ-1-⑰】日本歯科新聞（平成22年12月21日）
- 【資料Ⅶ-1-⑱】教育学術新聞（平成23年1月12日）
- 【資料Ⅶ-2-①】平成20年度版代表校HP「平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業」
- 【資料Ⅶ-2-②】私立大学協会加盟大学専用サイトHP「口腔医学シンポジウム」
- 【資料Ⅶ-2-③】私立大学協会加盟大学専用サイトHP「SD研修」
- 【資料Ⅶ-2-④】平成21年度版代表校HP「平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業」
- 【資料Ⅶ-2-⑤】連携8大学のホームページでの情報発信に関する状況調査結果
- 【資料Ⅶ-2-⑥】平成22年度版代表校HP「平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業」
- 【資料Ⅶ-2-⑦】私立大学協会加盟大学専用サイトHP「医歯学連携演習開講」
- 【資料Ⅶ-2-⑧】私立大学協会加盟大学専用サイトHP「口腔医学国際シンポジウム開催」
- 【資料Ⅶ-3】大学教育改革プログラム合同フォーラム・ポスターセッション参加時ポスター
- 【資料Ⅶ-4-①】平成20年度口腔医学シンポジウムポスター
- 【資料Ⅶ-4-②】平成21年度口腔医学シンポジウムポスター
- 【資料Ⅶ-4-③】平成22年度口腔医学シンポジウムポスター
- 【資料Ⅶ-4-④】口腔医学国際シンポジウムポスター
- 【資料Ⅶ-5-①】Q-Links キックオフ・シンポジウムポスター
- 【資料Ⅶ-5-②】Q-Links Q-conference 2010ポスター
- 【資料Ⅶ-6】「口腔の病気と全身の健康」「歯科医学教育の将来像」
- 【資料Ⅷ-1】テレビ会議システム全体システム構成
- 【資料Ⅷ-2】平成20年度テレビ会議システム使用一覧
- 【資料Ⅷ-3】平成21年度テレビ会議システム使用一覧
- 【資料Ⅷ-4】平成22年度テレビ会議システム使用一覧
- 【資料Ⅷ-5】平成20～22年度各会議開催実績
- 【資料Ⅸ-1】e-learningシステムについてのアンケート調査

口腔医学カリキュラム作成担当学会議要旨

第1回「口腔医学カリキュラム作成担当学会議」

日時：平成20年11月4日（火）13:30～16:30

場所：福岡歯科大学 第3会議室

議題

1. 口腔医学カリキュラム作成についての計画案

期 間：平成20年～平成22年の3年間

組 織：口腔医学カリキュラム作成委員会担当学会議の構成員の報告があった。

助成金：概要についての報告があった。

TV会議：同システムの利用開始時期と、その利用方法の説明があった。

講義形式：8大学間での口腔医学に関する講義形式の方向性についての立案の開始の説明があった。それに関して、各大学から大講義室、PCルームなどの使用は可能との発言があった。

スケジュール：8大学での口腔医学教育の方向性の議論があった。同日、同時間での共通講義を行うのか、DVD利用での8大学での講義形式で行うのかの方向性を討論した。平成21年度の9月、10月頃までには平成22年度開始に向けての立案を行うとの討論結果であった。

2. その他

第2回「口腔医学カリキュラム作成担当学会議」

日時：平成21年1月22日（木）10:00～12:30

場所：福岡県歯科医師会館 第3会議室

議題

1. 口腔医学カリキュラムの作成について

1) 連携8大学医学系授業科目一覧：

内科学など医学系授業内容とコマ数の報告と確認があった。

2) 海外視察

北米グループの視察報告と感想、助言があった。他のグループの打ち合わせを行った。

2. その他

次回開催からTVモニターを利用した会議を行うとの報告があった。毎月、第1木曜日の18:00から行うこととなった。

第3回「口腔医学カリキュラム作成担当学会議」

日時：平成21年3月5日（木）18:00～19:30

各大学TV会議用会議室

議題

1. 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の第1次報告について

大学視察報告：ヨーロッパ

米国中部

アンケート調査：鶴見大学の子島先生から歯科医師の内科医学的知識の重要性についてのアンケート調査を行ってはその意見があった。「一般歯科医（特に開業歯科医師）における歯科診療時に必要な口腔医学教育」

2. その他：次回の日時の確認

***海外視察報告会（TV会議）**

日時：平成 21 年 3 月 23 日（月）15：00～17：00

場所：各大学TV会議用会議室

議題

1. 海外視察報告

①北米

- Harvard School of Dental Medicine
- Tufts University

②ヨーロッパ

- University of London, (King's college)
- Charles University in Prague
- University of Louis Pasteur in Strasbourg

③アメリカ中西部

- University of Missouri, Kansas City School of Dentistry
- University of North Carolina
- University of Kentucky

2. 上記報告の後、「海外の状況をふまえて、口腔医学カリキュラムのあるべき姿を検討する」という方向性を 8 大学のカリキュラム作成担当者と確認した。

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 4 回口腔カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日:平成 21 年 4 月 2 日 (木) 18:05～19:07
場 所:各大学 TV 会議用会議室
出席者:別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1.口腔医学カリキュラムの学習目標(到達目標)について (資料)

議長から、口腔医学カリキュラムを作成するに当たり、学習目標を定める必要があるが、米国 ADEA や英国 GDC が作成した資料を参考に、資料のような原案を作成した。ついては各委員において各項目相当する学習目標を 20 個以上作成願い、その中からまとめることとしたい。ついては、4 月 20 日までに提案願いたい旨の説明があった。

2.口腔医学カリキュラム作成のためのアンケート調査(資料)

議長から、開業医に対し口腔医学に関するアンケート調査を実施したいと考えている。ついては、調査項目がこれでいいのか、追加するとすればどのような項目があるのか検討願いたい旨の説明があった。種々検討したが、次回再検討することとなった。

3.医科系授業科目の共有 TV 講義について(資料)

議長から、医科系隣接科目について TV または VD による共有講義を実施したい。ついては、各大学が利用したい科目について報告願いたい。なお、各大学の医科系教員の在籍状況については資料のとおりである旨の説明があった。これに関連し、福岡歯科大学北村学長から、隣接科目の割合はどの程度必要なのか。福岡歯科大学では現在 6 パーセント(400h)であるが、これを 10 パーセントまであげる予定である。そのために、口腔医学に関する PT を設置し検討を開始した旨の発言があった。これを受け、PT の責任者である岡部学生部長から本学の取組み状況が紹介された。

4.その他

福岡歯科大学北村学長から、平成 21 年度も海外視察を予定している。実施担当者会議の了承を得て実施したい。今回は、去年の経験者に再度お願いしたいと考えている旨の発言があった。

.その他

①次回の開催予定について

次回の第 5 回テレビ会議は 5 月 7 日(木)18 時から 1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 5 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 5 月 7 日(木) 18:00～19:08
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 口腔医学カリキュラム作成のためのアンケートについて (資料 1)

議長から、第 2 回会議以降検討してきた、口腔医学カリキュラム作成のためのアンケートについて審議願いたい旨の説明があり、資料 1 をもとに種々議論した結果、次のとおり意見を取りまとめた。

- (ア)アンケートは記名とする。
- (イ)設問項目は大筋了承。
- (ウ)対象は各大学の歯科医師臨床研修受入機関及び同窓会とする。
- (エ)実施時期は 6 月から 7 月に実施、回収し分析。今年秋までにまとめる。
- (オ)実施方法はペーパーによる。
- (カ)アンケートはタイトルを付ける。
- (キ)アンケート配布は各大学で行い、回収したものは福岡歯科大学へ送付し福岡歯科大学で集計しまとめる。
- (ク)実施に当たっては依頼状を含め、実施担当者会議に諮り、各大学の下承を得る。

2. 口腔医学重点講義(案)について (資料 2-1～2-3)

議長から、各大学、昨年視察した海外の大学、「平成 19 年歯科医学教授要綱」等を参考にし、資料のとおり「口腔医学重点講義(案)」を作成した。検討を重ねた結果、21 年 5 月 1 日バージョンが最新版である。福岡歯科大学としては、対象を 4 年後期から 5 年を考慮しており口腔医学を学び直すことを目標としており、来年度のカリキュラムに反映させる予定である。各大学においてもカリキュラム改正の際の参考にされたい旨の説明があった。その後、この案に対次のような意見がだされた。

- ・ 4・5 年を対象となっているが、高学年でこれだけの時間が確保できるだろうか。
- ・ 内科に関しては、現行の授業内容とかなり重複しているが。

以上のような意見交換の後、福岡歯科大学の岡部学生部長から、各大学で参考にされる場合は位置付けにより内容は変わるだろうし、それぞれの実情にあった形で活用願えれば良いのではないかと。福岡歯科大学においても他科目との調整はしていない。更に検討を加え、次回まとめることとしたいので、意見を寄せていただきたい旨の発

言があった。

なお、福岡歯科大学北村学長から、各大学においても資料 2-3「口腔医学確立に向けた新カリキュラム作成方針」についてを参考していただき、実施可能なカリキュラム作成について検討願いたい旨の発言があった。

3. 医科隣接科目の講義共有化に向けて(資料 3)

次回検討することとした。

4. その他

①FD の開催予定について

福岡歯科大学岡部学生部長から、8 大学連携事業では、FD を実施することとしており、7 月 11 日(土)に福岡市(福岡歯科大学担当)において、また、11 月 13 日(金)に横浜市(神奈川各大学担当)で開催を予定している旨の発言があり、7 月 11 日開催予定の FD の実施内容案について詳細な説明があった。また、この FD は開催に当たり事前に各大学教員へのアンケートを実施することとしており、実施担当者会議の了承を得た上で各大学へ依頼する予定である。FD の開催については、後日改めて正式な案内をしたい旨の説明があった。この後、事前に実施予定のアンケートについて、福岡歯科大学から WEB によるアンケート方式について説明があった。また、このアンケートは各大学担当者から学内関係者へ配信することとし、回収率を考慮し無記名とする予定である旨の補足説明があった。

②平成 21 年度海外視察について

福岡歯科大学北村学長から、平成 21 年度も昨年同様に海外視察のための予算を確保している。視察の時期は海外の大学の事情も考慮し秋期を予定している。視察国は欧州(ドイツ、スペイン、イタリア)、アメリカ、中国の 3 地区を考えている。アメリカについては昨年も実施しており今回は更に深いレベルでの視察となる。視察に当たっては、昨年視察をお願いした方以外の方でも差し支え無いが、視察内容を更に深めるためにも、可能であれば昨年視察経験のある先生をお願いしたい旨の説明があり、実施担当者会議の了承を得て実施予定である旨の発言があった。

その他

①次回の開催予定について

次回の第 6 回テレビ会議は 6 月 4 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 6 回口腔医学カリキュラム作成担当学会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 6 月 4 日(木) 18:00～19:05
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

紹介 福岡歯科大学北村学長から、今回の会議からオブザーバーとして参加することとなった島根大学医学部歯科口腔外科学講座関根浄治教授の紹介があった。

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

5. 口腔医学重点講義(案)について (前回資料 2-1～2-3)

議長から、本件については前回からの継続審議とし、各大学に意見を求めているものであるが、これまでに意見は出されていない。口腔医学重点講義学習目標として確定することとしたい旨の説明があり、了承された。おつて議長から、福岡歯科大学は、平成 22 年度のカリキュラムにこの学習目標等を盛り込んだ系統的医・歯学共通科目として、5 学年後期に 15～20 コマ程度設定することを計画している旨の発言があった。また、これに対する各大学の検討状況について報告があり、各大学の実情に応じ、実施担当者等とも協議の上対応することとなった。

6. 医科隣接科目の講義共有化に向けて(前回資料 3 及び 今回資料 1)

議長から、各大学の耳鼻咽喉科と眼科の講義内容は資料 1 のとおりであり、この 2 科目については 8 大学の共有授業科目としてビデオによるテレビ講義が可能ではないかと考えている。福岡歯科大学では、既に耳鼻咽喉科学のモデル学習目標の作成を開始した。平成 22 年度から実施の予定で進めており、次回、モデルとなるシラバスを提示したい旨の説明があった。さらに議長から、眼科学についても耳鼻咽喉科学と同様に共有授業科目としてのモデルシラバスを作成することとしたい旨の説明があり、眼科の常勤医師を有する鶴見歯科大学が担当することとなった。

3. 平成 21 年度海外視察について

議長から、今年度も昨年同様に海外視察を実施する。実施に当たっては、先に視察地域と視察グループを示していたが特に意見もなかったので次のとおり実施

することとしたい旨の説明があった。

A グループ：中居(岩手)、前田(鶴見)、喜久田(福大) →中国（北京首都医学院他 2 校程度）

B グループ：片岡(昭和)、李(神奈川)、池邊(福歯) →アメリカ(ミズリー大学他 2 校程度)

C グループ：安彦(北医)、自見(九歯)、鴻江(福歯) →欧州（ドイツ・ミュンスター大学他 2 校程度）

おって議長から、今回の視察は現場の実地視察が主目的であること、視察大学は 6 月中には決定したいので視察候補大学があれば早めに推薦願いたい旨の説明があった。

4. その他

①アンケート調査について

議長から、臨床研修協力施設等へのアンケート調査に当たっての質問がいくつかあったが、それぞれ回答したところであるが、早めの手配をお願いしたい旨の依頼があった。また、7 月 11 日開催の FD ワークショップのための各大学教員に対するアンケート調査について、福岡歯科大学担当者から、調査に当たっての協力者が決まっていない大学 3 校については早急に選考願いたい旨の依頼があった。

②基礎医学について

福岡歯科大学岡部学生部長から、基礎系学問分野については現在まで科目の医・歯共有等の検討は全く行っていないが今後検討する必要性が生じると考える。このことは単にカリキュラム作成担当者会議だけの問題ではなく、実施担当者会議や学長・学部長会議の意見を踏まえる必要がある。ついては、各大学の実情を伺いたい旨の発言があった。これに対し各大学から概略次のような報告があった。

- ・ 医学部が設置されている岩手医科大学は今年度から化学、生物、物理が共有化された。昭和大学は現在、一部学部横断科目があるが、共有化されたものはない。基礎教育研究センターの設置が計画されており、そこで統合される予定。
- ・ 他の大学は歯科衛生士養成等の短大が併設されているが、共有化は実施されていないが、一部の科目では可能性はある。但し、質の確保という問題がある。

③ 福岡歯科大学北村学長から、眼科及び耳鼻咽喉科学についてはモデルシラバスを提案願いたい。また、それ以外の医科隣接科目についても検討願いたい旨の発言があった。

④ 福岡歯科大学北村学長から、基礎系科目や一般教育等は臨床の基礎となるものであり重要である。共有化について議論を深めていただきたい。また、解剖や生理等の医学と共通の基礎科目については岩手医科大学と昭和大学で検討いただきモデルシラバスを示していただきたい。このことについては実施担当者会議にも提案してい

きたい旨の発言があった。

- ⑤ 島根大学医学部口腔外科学講座関根教授から、島根大学の歯学教育の現状について紹介があった。また、医・歯学科目の共有化について各大学と意見の交換があった。
- ⑥ 議長から、第 9 回会議は本会議として、8 月 21 日(金)に北海道医療大学において開催すること、日程等詳細については改めて通知することが報告された。

○次回の開催予定について

次回の第 7 回テレビ会議は 7 月 2 日(木) 18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 7 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 7 月 2 日(木) 18:15～18:55
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 医科隣接科目の共有授業科目について(資料 1)

議長から、資料 1 に基づき、連携 8 大学共有授業科目として福岡歯科大学において検討を進めている耳鼻咽喉科学講義のシラバスについて説明があり、福岡歯科大学としては今後、学内手続きを経て 21 年度カリキュラムに盛り込む予定である旨の発言があった。

また、各大学でも TV あるいはビデオ授業として実施していただきたいので、実施可能なユニットあるいはコマを次回会議までに知らせていただきたい旨の依頼があった。

眼科学講義については担当する鶴見大学から、検討の進捗状況が報告され、おって議長から、この 2 科目以外にも共有講義を増やしていきたいので、適当な科目があれば提案願いたい旨の発言があった。

2. 医・歯共有基礎科目について

福岡歯科大学岡部学生部長から、今後、医・歯共有基礎科目の検討を進めていく上で参考としたいとして、各大学における一般基礎科目と口腔基礎科目の実施状況について報告が求められ、各大学から現状説明があった。この報告を受け、福岡歯科大学岡部学生部長から、この報告を参考にして基礎科目の組みなおし、統合等について検討し、次回会議で福岡歯科大学の考え方を提示したい旨の発言があった。

3. 平成 21 年度海外視察について(資料 2)

議長から、今年度の海外視察は資料 2 のとおり決定したい。前回提示したものから B グループと C グループの間に人員変更があったので確認願いたい旨の説明があった。

さらに、議長から、訪問大学へのアポイント等はそれぞれのチームで担当を決めて進めていただきたい、訪問期日が決定した段階で福岡歯科大学から正式な依

頼状を発出するとともに、旅費の支出手続きを行うこととしたい旨の発言があった。

4. 「歯学部における医学教育のあり方」に関するアンケートについて

議長から、アンケート調査の第1回締め切りを6月末までとしていたとして、7月2日現在の回収状況について報告があり、現在、最高で75パーセントの回収率であり、少なくとも80パーセントは回収したい旨の説明があり、各大学に対し、未提出者宛に再度アンケートの回答を要請願いたい旨、更なる協力依頼があった。

5. その他

- ① 福岡歯科大学池邊教授(FDワークショップ担当)から、7月11日開催のFDワークショップの参加者が決定した旨の報告があり、ワークショップのためのアンケート調査の結果は当日報告し、充実したワークショップとしたい旨の発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第8回テレビ会議は8月6日(木)18時から、1時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 7 回戦略連携事業実施担当者会議および第 8 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議
合同 TV 会議 議事録

期 日：平成 21 年 8 月 6 日(木) 18:00～
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 医科隣接科目の共有授業科目について(追加資料)

追加資料に基づき、鶴見大学 子島教授より眼科講義(案)についての説明があり、歯学部で現在行っている眼科講義に手を加え、各論で口腔と眼科の接点がある講義を計画している旨の発言があった。

議長より、モデルシラバスについて次回会議までに検討していただき、補足・改良点等がある場合は福岡歯科大学か鶴見大学に知らせていただきたい旨の依頼があった。

議長から各大学の共有講義のビデオ等の導入についての考えを確認した。

北海道医療大学 溝口教授

現時点ではまだ教授会等で検討に入っていない。DVD 等を使えるよう今後進めていきたい。

岩手医科大学 中居教授

眼科、皮膚科、産婦人科、小児科は現在ビデオ収録を行っているので提供することは可能。内科も順次作製予定である。ビデオ作製は戦略的大学連携支援事業の一環として先月から医学部に協力してもらい作製している。

昭和大学 片岡准教授

教授会等で検討を始めている。その中で、いかに歯学部の学生に隣接医学を学ぶ重要性を理解させるかが問題提起されている。学生が興味を持つ講義があれば共有講義として検討していきたい。昭和大学から共有講義の発信は現時点では難しい。

神奈川歯科大学 森實教授

眼科の教授に依頼して、眼科講義(案)の中のいくつかのユニットをビデオ、DVD に収録することは可能。神奈川歯科大学の現状の隣接医学の中の眼科のユニットは、

数が少ないため整合性が取れない。このための眼科講義のいくつかのユニットをお願いすることを検討している。耳鼻咽喉科の教授に依頼して一部を担当することは可能。

鶴見大学 前田教授

隣接医学では内科と眼科の教授がいるが、それ以外は非常勤の教員が対応している。今年度からは産婦人科と小児科も開始する。

鶴見大学で足りない講義については共有化が可能、鶴見大学が既に実施していて提供できる講義については検討の余地がある。

九州歯科大学 自見教授

本日欠席の柿木教授に後日確認を取る。

福岡大学 出石教授

後期の3年生の授業で眼科、耳鼻咽喉科の講義を実施予定。モデルシラバスと合致するコマがあれば、TV授業システム等を活用して提供することは可能。

島根大学 関根教授

医学部4年生のチュートリアル講義の中で、耳鼻咽喉科、眼科、口腔外科がひとつとなり感覚器コースができています。3科が1週間ずつ講義。医学部の中での学生教育において、3科はひとつのユニットとしてまとめられている。3科内の共通講義のコマ、教材の共有は現在はありません。

議長より、感覚器コースのシラバスの提供を依頼し、島根大学から了承を得た。

2. 平成21年度海外視察について(資料①)

各グループより視察日程調整の進捗状況の報告があった。

Aグループ 正式な承諾はまだもらっていない。日程調整のみ終了。

Bグループ ミズーリ大学から訪問の承諾はもらっている。現在日程調整中。

Cグループ サンチャゴ・デ・コンポステーラ大学から訪問の承諾はもらっている。
ミュンスター大学からの回答待ち。

3. 歯学部における医学教育のあり方に関するアンケート結果について(資料②-1、②-2)

福岡歯科大学 晴佐久講師より、資料に基づきアンケート結果の説明があった。

アンケート結果についての意見は以下のとおり。

神奈川歯科大学 森實教授

予想に近い結果が出ている。16-15)の意見を踏まえ、今後の新しいカリキュラムの在り方については、教科単位のカリキュラムではなく、臨床像、症例に基づいた

カリキュラムの検討が必要。

島根大学 関根教授

歯学部から医科を取り入れたいというのはよく理解ができる。医学部の中で口腔医学を展開し、正しい歯科の知識を医科の中で広めたい。歯学部の中で医科を取り入れる、医科の中で歯科を広げていくというコンセプトで展開していきたいと考えている。

福岡大学 喜久田教授

歯科医師として働いていく上には高度な医療を提供している時代になっているので、アンケート調査のような **under graduate** で教育しなければならないことを再確認した。医学部の中で働いている者としては、それは当然としか言えないのが現状である。

4. FDワークショップの実施報告(資料③)

福岡歯科大学敦賀准教授より 7 月 11 日に開催されたFDワークショップの概要について報告があった。また、内藤准教授よりウェブアンケート結果を踏まえ、ディスカッション等を実施したとの説明があった。

5. SD研修の実施報告(資料④)

福岡歯科大学香月総務課長より、7 月 23 日に開催されたSD研修について資料に基づき報告があった。次回SD研修は11月に神奈川歯科大学にて開催される旨、付言した。

6. TV授業システムについて(資料⑤)

福岡歯科大学香月総務課長より、TV授業システムの工期について資料に基づき説明があった。鴻江教授より 8 月 31 日(月)13:00～検収を実施するが、その際に各大学 10 分間のミニ模擬講義を実施していただきたい旨の依頼があった。テーマについては後日連絡することとなった。

7. その他

北海道医療大学溝口教授より、DVDに収録している講義時間について質問があり、岩手医科大学中居教授は短いものは 60 分、長いものは 150 分と回答した。

8. 次回の開催予定について

次回会議の開催予定は以下のとおり。

- ・第9回口腔医学カリキュラム作成担当学会議

8月21日(金) 14:30～ 北海道医療大学 総合図書館会議室

議長より、当日はTV会議システムを通じて同時配信予定なので出席者以外の方も会議参加は可能。各大学に周知を依頼した。

- ・第3回学長・学部長会議および戦略連携事業実施担当学会議 合同会議

9月5日(土) 13:30～ 岩手医科大学 創立60周年記念館

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 9 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 21 年 8 月 21 日(金) 14:00～16:25
場 所：北海道医療大学 総合図書館会議室
出席者：別紙のとおり

代表校挨拶

福岡歯科大学の北村憲司学長から挨拶があった。

開催校挨拶

北海道医療大学の有末 眞歯学部長から挨拶があった。

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 口腔医学重点講義について(資料 1)

議長から、資料①は 6 月の第 6 回会議で了承された口腔医学重点講義のカリキュラムで、福岡歯科大学は平成 22 年度に第 5 学年に開設する予定で進めている。福岡歯科大学では、今後、この口腔医学についてどのように展開していくのかについて、プロジェクトチームを設け検討しているところである旨の説明があり、福岡歯科大学の晴佐久講師から、福岡大学医学部のカリキュラムを参考とした今後のステップ 1 からステップ 4 までの展開案が紹介された。

その後、概略次のような意見交換があった。

- ・ 口腔医学とは隣接医学と考えていたが、概念が変わったのか。
 - 一元論が根底にあるので、このような形になる。隣接医学、口腔医学、人間教育が三本柱となる。
- ・ 歯科医師法等の現行法ではどのようなになるのか。
 - 現行法では対応できないものは法改正ということも見据えての検討も必要。
- ・ 医科の授業の充実が必要と考えられるが。
 - 福岡歯科大学では内科 5 名、外科 5 名、心療内科 2 名、耳鼻咽喉科 3 名等の専任教員を配置した体制で充実を図っている。
- ・ 一元論については賛成である。個人的意見としては医、歯の教育は 2 年までは共通にすべきであるとする。

つづいて、平成 22 年度の口腔医学重点講義の取り込み状況について各大学から次のとおり検討状況が報告された。

(岩手医大) 3～5 年の隣接医学を統合して実施することが決定している。

(鶴見大) 現在担当している授業の中で実施したい。婦人科、耳鼻科等は担当教員にお願いする予定。

(神奈川歯大) 内科、外科を中心にどれだけ実施可能かについて前向きに検討したい。

(九歯大) 現行の各講義の中で実施し、それ以外の科目は 5～6 年の臨床講義の中でやれたらという方向で検討中。

(福岡大) GIO に「歯科診療時に・・・」、「歯科診療上・・・」等が記載されているので、関係の医師がそのことを踏まえて方向性を違わずにできるのかどうかについて考えている。

議長から、各大学の実状にあわせいろいろな形態での実施をお願いしたい。実施に当たっては、医師と歯科医師の 2 人で実施できれば充実したものとなる旨の発言があった。また、低学年での医科の実習について意見交換があった。

2. 医科隣接科目の共有授業科目について

議長から、連携 8 大学医科隣接科目の共有授業科目として、耳鼻咽喉科学と眼科学講義のモデルシラバスを作成したところであるが、今後更に、小児科、皮膚科、精神科、産科等の講義を考えているが、このことについて各大学の意見を伺いたい旨の説明があった。

これを受け、岩手医科大学から、8 大学で利用することは講師である医学部医師の了解は得ているとして、21 年度中にビデオ収録予定の医科系授業科目の紹介があった。

また、昭和大学(TV 会議参加)からも医科講義の収録を 8 大学へ配信することは可能だと考える旨の発言があった。

福岡歯科大学の北村学長から、同時実施講義がベストであるが、実施可能な方法から実行すべきと考え、授業の DVD 収録からスタートするのが実質的である。今後はそのようなことを検討していくことも必要ではないかとの発言があった。

ついで議長から、来年度は DVD による講義を作っていくこととしたい旨の発言があり、医学部併設の大学と医師が多数在籍する大学への協力依頼があった。また、著作権の保護についても何らかの取り決めを定めておくこととなった。

3. TV 授業システムによる模擬授業について(資料 2)

議長から、今月 31 日に行われる TV 授業システム検収時に実施する「口腔医学に関するミニ模擬講義」について、各大学に対し協力依頼があった。

4. その他

①海外視察の進捗状況について

議長から、視察大学との調整がまとまったら随時知らせていただきたい旨の依頼があった。

②第2回FDワークショップについて

議長から、第2回のFDワークショップは神奈川歯科大学の当番で11月13日(金)に開催される予定である。今回のテーマは当会議で検討している「口腔医学カリキュラム」であり、どのようにしたら良い講義ができるのかについて議論したいとのことである。そこで、本会議のメンバーからタスクフォースとして5名以上の協力のお願いがあった。可能な限り協力願いたい旨の発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第10回会議はTV会議とし、9月3日(木)18時から、1時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 10 回口腔医学カリキュラム作成担当学会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 9 月 3 日(木) 18:03～18:55
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

7. 医科隣接科目の共有授業科目について(資料①)

議長から、各大学に対し、連携大学に提供可能な科目について現状説明を求めた。これに対し各大学から大要次のような説明があった。

北海道医療大→医科系科目の講義は全て外部講師であり、現状では該当科目はない

岩手医科大 →今年度は資料①のとおり、6 ユニットの収録を計画し、既に皮膚科(2 ユニット)と呼吸器(1 ユニット)は収録済である。配信方法については事務的に詰めたいと考えている。

昭和大 →附属病院が 8 施設あり、医学部の各講座には依頼している。現在の医科系講義には改善の余地があるので、そこをクリアーにしてからというのが本学の現状認識である。

神奈川歯大 →22 年度カリキュラムへの共有科目導入の協議を進めているところである。大学によっては重複する科目もあるが。

鶴見大 →眼科は提供可能であり、教授会の了解を得る予定である。
(睡眠時無呼吸の講義を DVD で収録願いたいとの発言に対し)
→補綴科等を交えて検討したい。

九州歯科大 →隣接医科科目は全て外部講師のため、提供は無理である。

福岡大(医) →教授会に諮り、医学部全講座に対し調査を行い、歯学教育に利用できるものをまとめることとしている。

福岡歯科大 →精神身体医学が提供できるのではと考え、DVD 収録を検討している。

島根大(医) →医と口腔のリレーションをよく理解してもらうことが重要である。

福岡歯科大学の北村学長から、シラバスが作成された後は、①どの大学が担当するのか、②科目の全部を利用しない場合どのコマを利用するのか、③科目数を

増やしライブラリーとしていく、④一通りの科目が揃ったら、授業内容が異なるものを作る、というようなことも今後は検討していくことが必要である旨の発言があった。

議長からも、特徴のあるものを作っていきたい旨の発言があった。

8. その他

- ① 島根大学から提供されたチュートリアルシラバス(追加資料)について、島根大の関根教授から、頭頸部でユニットととしてまとめたシラバスである旨の説明があり、全体で 19 ユニットがあり、チューターは担当科以外の科で担当すること等の紹介があった。
- ② 海外視察の進捗状況について、次のとおり報告があった。
 - ・ 中国 →おおよそ日程が確定した。
 - ・ アメリカ →ミズリー大はほぼ確定。もう一大学は調整中。
 - ・ ヨーロッパ→サンチャゴ大は 10/31-11/8 の間で了解済、ミュンスター大もこの日程の中で調整中。

○次回の開催予定について

次回の第 11 回テレビ会議は 10 月 1 日(木)18時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 11 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 10 月 1 日(木) 18:04～18:55
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 医科隣接科目の共有授業科目について

議長から、眼科学と耳鼻咽喉科学のモデルシラバスは福岡歯科大学と鶴見大学で作成したところであるが、更に、小児科学、皮膚科学、精神科学、産婦人科学についても同様に口腔医学を踏まえた観点からのモデルシラバスを作成したい。作成に当たっては、医学部が併設されているか、該当の診療科が設置されている大学にお願いしたい旨の説明があり、了承された。

次いで議長から、皮膚科学については神奈川歯科大学で、産婦人科学は岩手医科大学で、小児科学は福岡大学で担当願いたい旨の依頼があり、各大学とも学内のコンセンサスを得た上で進めることとなった。

2. 基礎科目講義の見直しについて(資料①、②)

議長から、資料①は 8 月 21 日開催の第 9 回会議において紹介した、福岡歯科大学で検討中の「口腔医学」教育の概念図を更にブラッシュアップしたものである。まだ正式に学内合意を得たものではないが、平成 22 年度は、この内容で組み込む予定である。なお、本会議で既に合意を得ている「口腔医学重点科目」は、福岡歯科大学では「医歯学演習」として 5 学年に設定している旨の紹介があった。

次いで議長から、口腔医学を進めるに当たっては、基礎医学を充実させることも重要である。今回は一例として、資料②のとおり「解剖学」について各大学の開講状況をまとめてみた。他大学を参考とし、自大学の実施状況についての評価をお願いしたい旨の説明があった。

その後、各大学から実施状況の説明と他大学との比較した感想等が報告され、質疑応答があった。

なお、今回の「解剖学」については、解剖実習に関する質問事項を整理し(献体数、教員数、ホルマリン対策等)、再度照会することとした。

3. 平成 21 年度海外視察について(資料③)

議長から、平成 21 年度の海外視察は資料③のとおり、ほぼ日程も確定し 10 月下旬からスタートする予定である。昨年同様、報告会を年内に実施する予定であり、あらためてお知らせすることとしたい旨の説明があった。

○次回の開催予定について

次回の第 12 回テレビ会議は 11 月 5 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 12 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 11 月 5 日(木) 18:05～19:05
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

9. 基礎医学教育の充実について(資料 1-1,1-2)

議長から、前回議論した「解剖学」講義について、追加質問事項も含め、再度各大学の実施状況を調査させていただいた。調査結果は資料 1-1,1-2 である旨の説明があり、各大学から資料に基づき補足説明があった。

議長から、福岡大学医学部のコマ数が目標であるが、時期、部位等をどうするかが今後の検討課題である。今回は「病理学」について検討することとしたい旨の発言があった。

なお、各大学の説明の後、次のような質疑応答があった。

- ・ 1 年次に実施している場合、2 年次編入学生に対してはどのように対応しているのか
→ 夏または春に集中的に実施している。
- ・ 実際の実習と三次元的実習を組み合わせた教育も必要ではないか。
→ 過去に実施した経験があるが、良い効果があったと感じている。
- ・ 福岡歯科大は 6 年次で実習を 20 時間実施しているが、効果はあるのか。
→ 6 年生になるとモチベーションが高く、非常に良い効果がでている。

10. 医歯学連携演習(口腔医学重点講義)のシラバス追加事項について(資料-PC で提示)

議長から、資料のとおり、既に本会議で了承を得ている「口腔医学重点講義」に、「睡眠時無呼吸症候群」について 1 コマ追加して全体で 18 コマとすることについて了承願いたい旨の説明があり、了承された。なお、講義内容は鶴見大学の子島委員が担当することとなった。

また議長から、口腔医学に関する医科系講義については、8 大学の関係教員による TV 講義の実施について検討を進めることとしたい旨の発言があった。

1 1. 平成 21 年度海外視察報告(第 1 報)について

北米、(アメリカ、カナダ)視察が 10.21-10.29 で終了したとして、メンバーである福岡歯科大学の晴佐久講師からパワーポイントによる視察状況報告があった。

おって議長から、正式な報告会は TV 会議ではなく 8 大学の関係者が参加する場で実施したい。候補としては来年 1 月 9 日開催のシンポジウムに併せて実施する方向で考えている旨の発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第 13 回テレビ会議は 12 月 3 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 13 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 21 年 12 月 3 日(木) 18:05～19:07
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 基礎医学教育の充実について(資料①)

議長から、前回の「解剖学」に続き、今回は「病理学」講義について検討することとしたい。資料①が事前に調査項目について回答いただいたものをまとめたものである旨の説明があった。ついで、各大学から資料に基づき説明があり、実習内容等について意見交換があった。その後、議長から、各大学の状況について、開講時期としては概ね 3 年次で、大学によっては 2 年次後期のところもある。コマ数についてはそれぞれで異なっている。各大学においても参考としていただきたい旨の発言があった。

2. 医歯学連携演習(口腔医学重点講義)TV 講義の実施について(資料②)

議長から、福岡歯科大学では、平成 22 年度から「医歯学連携演習」として開講することとしており、16 コマ目の「睡眠時無呼吸症候群」についてはTV 講義とし、鶴見大学の子島先生によるリアルタイムのTV 講義を実施する予定である旨の説明があり、鶴見大学への協力依頼があった。

ついで福岡歯科大学の北村学長から、九州歯科大学は平成 22 年度に 15 コマとして開講予定とのことであり、できれば本学とオンラインで結びTV 講義として実施できればと考えている。他大学で平成 22 年度前期に実施を計画されている大学は本学と九州歯科大学との連携に合わせて検討願いたい。また、後期実施予定の大学においても個別実施ではなく複数の大学と協同して実施していただきたい。このことは、次週の実施担当者会議でも協力をお願いしたいと考えているので、その際各大学の平成 22 年度の実施計画を報告願いたい。また、先般行われた行政刷新会議の事業仕分け作業では、本事業は本来は大学が自前でやるべきことと評価された。事業の最終年度となる平成 22 年度も必要な予算を獲得するためにも実績を出すことが重要である旨の発言があり、実施へ向けての協力要請があった。

3. その他

1) 海外視察報告会の開催について

議長から、今年度の海外視察報告会は、既に案内しているとおり、来年の 1 月 9 日(土)午後、福岡県歯科医師会館で開催される「口腔医学シンポジウム」に合わせ、同日の午前10時30分から同会場で実施することとした。各グループ30分の報告後、質疑応答10分としている旨の説明があり、多数の参加をお願いしたい旨の依頼があった。

○次回の開催予定について

次回の第14回テレビ会議は1月7日(木)18時から、1時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 14 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 22 年 1 月 7 日(木) 18:07～18:55

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：別紙のとおり

○ 新年に当たり、代表校である福岡歯科大学北村学長から挨拶があった。

協議事項

議事に先立ち、神奈川歯科大学の委員が森實委員から久保田委員(学長)に交代となったことの紹介があり、久保田委員から挨拶があった。

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1 2. 医歯学連携演習(口腔医学重点講義)TV 講義の実施について(資料①)

福岡歯科大学の医歯学連携演習実施責任者である小島教授から、各大学に対し平成 22 年度の口腔医学重点講義の TV 授業の受講計画について照会したところであるとして、回答を得ていない大学に対し受講計画を確認した。

- ・ 岩手医科大学 → 岩手医科大学歯学部全体のシラバスと評価の関連で平成 22 年度の実施は困難。平成 22 年度、歯科内科（口腔医学）として 3 学年で独自の口腔医学重点講義を実施する予定。なお、聴講の可能性については今後つめていく予定である。
- ・ 昭和大学 → 22 年度実施は難しい。VD 講義であれば可能だが。
- ・ 神奈川歯科大学 → （委員の交代があり、状況が不明）
- ・ 鶴見大学 → 6 年の月曜 1 限が 14 コマ対応可となった。内容は今後つめる予定。

おって小島教授から、来週 14 日の実施担当者会議に各大学の状況を一覧として提出したいので、それまでに連絡調整してまとめたい。なお、22 年度授業時間割確定のことも踏まえ、1 月中には確定したい旨の説明があった。

福岡歯科大学北村学長から、22 年度は一部の大学間での実施であるが、23 年度は 8 大学共同の演習ができよう協力願いたい旨の発言があった。

その後、次のような意見交換があった。

- ・ 島根大学 → 5,6 年のポリクリの学生にモニターさせることは可能。タイミングが合えば是非参加したい。
- ・ 鶴見大学 → 教材はどうするのか。
- ・ 福歯大 → 現在は特定のものとは想定していない。PP を利用し参考プリン

トとして配布することを考えている。今後、教材についても検討を進めていただきたい。

- ・ 鶴見大学 → 6年1限の「睡眠時無呼吸症候群」を配信したい。

1 3. 医科隣接科目の共有授業科目シラバス作成の進捗状況について(資料②)

議長から、医科隣接科目のうち小児科については福岡大学医学部において資料2のとおり案を作成願った。各大学において検討いただき、次回改良されたものとしてほしい。また、残りの皮膚科、産婦人科、精神科についても1月21日までに原案を提出願いたい。次回、小児科も含めて検討することとしたい旨の説明があった。

また、福岡歯科大学岡部学生部長から、これらのモデルシラバスも医歯学連携演習と同様に各大学で共有できるものにしていきたい旨の発言があった。

3. その他

①学外実習の状況について

福岡歯科大学小島教授から、本事業の来年度予算要求に当たり文科省のヒアリングが実施されることとなった。その対応の一つとして学外実習の状況を報告する必要がある旨の説明があり、各大学から状況報告があった。

②口腔医学シンポジウム等について

議長から、1月9日に福岡市で開催される「口腔医学シンポジウム」並びに「海外視察報告会」への出席依頼があった。

○次回の開催予定について

次回の第15回テレビ会議は2月4日(木)18時から、1時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 15 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 22 年 2 月 4 日(木) 18:01～18:58
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 平成 22 年度医歯学連携演習(口腔医学重点講義)TV 講義の実施について(資料①)

福岡歯科大学の医歯学連携演習実施責任者である小島教授から、平成 22 年度受講予定であるがまだ期日が決定していない神奈川歯科大学に対し照会があり、4 月 5 日の 1 限及び 4 月 19 日の 1 限を受講すること、また、その他のコマについては録画し 6 学年の授業に利用する予定であることを確認した。

さらに小島教授から、TV 講義の実施に当たって、①受講大学のシラバスに授業担当者名が記載可能か、②授業の資料は第 1 回を除き学生には 1 週間前に配布する予定であるため、授業担当者の資料提出日を講義日の 2 週間前とすることが可能か、③授業に対する学生の評価方法(問題作成、評価基準等)はどのようにするか、について各大学の意見を伺いたい旨の発言があり、各大学から種々意見が出されたことを踏まえ、このことは整理した上で次週の実施担当者会議に、TV 講義実施に当たっての「取決事項」として提案したい旨の説明があった。

なお、福岡大学からは、医学部の学生も受講していることも踏まえた上で講義されることをお願いしたい旨の発言があった。

2. 医科隣接科目の共有授業科目シラバスについて(資料②)

議長から、医科隣接科目のうち小児科、産婦人科、皮膚科、精神科、耳鼻咽喉科及び眼科の 5 科目についてはモデルシラバスの素案を作成したところである。平成 23 年度実施へ向けて、平成 22 年度中にブラッシュアップすることとしいので、医科隣接科目についての意見を伺いたい旨の説明があった。各大学から出された意見は次のとおり。

(北) 最低限のコマ数で提案いただければ利用しやすいのではないかと。

(岩) 歯科のコアカリキュラムに準じたものが望ましい。医学部と内容が異なっても良いのではないかと。今後、学内の医科隣接医学担当教官と協議していきたい。

(昭) 現在 3-4 学年で実施しているが、5 年で復習することを予定している。歯

学部としての必要な修得内容であり、今後、医学部と詰めていく予定。

一般病院での実習を増やすことや学部間共有授業科目の実施を進める。どのようにすれば効果的教育ができるのかを考えていきたい。

(鶴) 各担当講師に紹介し、参考としてもらおうと思っている。歯学部の特化したものにするとすれば、その旨伝える必要がある。

(神) 産婦人科と小児科は以前は非常勤講師で実施していたが、卒前研修に振り替えた経緯がある。今後、学部教育として見直す必要がある。23 年度の医科系隣接科目はコマ数を増やす方向である。今回のシラバスは医科のコアカリキュラムに則った内容であり、歯科のコアカリキュラムに準じたものにしてはどうか。

(九) 担当の非常勤講師の意見を聞き検討したい。

(福) 各大学でコマ数がばらばらである。例えば医学部のコマ数の 1/3 とか、基準を決めてはどうか。

これらの意見を踏まえ議長から、歯科医として臨床の場で必要となる医学教育のミニマムリクワイアメントとなるのか。科目毎に担当できる者と本会議メンバーとで検討することとしたい旨の発言があった。

また福岡歯科大学の北村学長から、医科隣接科目については歯学教育の一部としてみるのか医学教育の中の一部としてみるかによって考え方が違ってくる。今回の 8 大学連携の理念を考えると、福岡歯科大学としては最低限の教育を行えば良いとは思っておらず、どこまで一般医学教育を充実させられるかが大事だと考えている。5 年から 10 年後に学生が必要と思えることが大事なことである。本学の 63 コマ(内科、外科を除く)でも福岡大学の 1/3 である。どの科まで必要かを考える必要があるが、限定して考えるとあまり効果が上がらないと思う。基本的概念、意味を理解できることが必要である。スタート時点で広範囲な形でやっていくことが大事だと思う旨の発言があった。

3. その他

議長から、今後、卒後教育として医学教育を取り入れていく必要があると思われる旨の発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第 16 回テレビ会議は 3 月 4 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

また、3 月に福岡大学を会場として開催する本会議は、3 月 23 日(火)14 時から開催することとなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 16 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 22 年 3 月 4 日(木) 18:02～19:01

場 所：各大学 TV 会議用会議室、TV 授業対応講義室

出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)欠席のため、福岡歯科大学岡部学生部長及び福岡歯科大学 TV 授業責任者小島教授の司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 医科隣接科目の共有授業科目シラバスについて(資料①)

福岡歯科大学岡部学生部長から、医科隣接科目 6 科目のモデルシラバス素案は各大学の協力を得て作成された。この 6 科目を平成 23 年度から実施したいと考えている。実施までには、教授会審議等の手続きが生じることとなり、そのためには今年の夏前までにモデルシラバス素案をブラッシュアップし 8 大学間での合意を得ておくことが必要となる。このブラッシュアップのための方策として資料①のとおり、次の提案をしたい旨の説明があった。

- 1) ワーキンググループを設置して作業する。
- 2) メンバー構成は、「主任」としてシラバス素案作成者等の関係者を、「コーディネーター」として福岡歯科大学口腔医学 PT メンバー1 名を含む若干人で構成する。
- 3) 「主任」、「コーディネーター」と本学 PT とでコンセプトを設定しその後メンバー全員で作業に当たる。

これに対し、関係大学において該当者との調整を行った上で次回までに WG の具体案をまとめることとなった。なお、眼科については、鶴見大学子島委員が主任となっているが、専門が異なるため調整することとなった。

2. 平成 22 年度医歯学連携演習(口腔医学重点講義)TV 講義の実施について(資料②)

福岡歯科大学の医歯学連携演習実施責任者である小島教授から、平成 22 年度医歯学連携演習の連携表に基づき、受講大学の確認があり、また、本日の模擬授業に合わせ、「テレビ授業システムの手順書」を作成し配布していること、11 日の実施担当者会議時に 2 回目のミニ模擬授業、12 日に 1 時間程度の最終模擬授業を予定している旨の説明があった。

3. その他

①模擬授業

福岡歯科大学の晴佐久講師が、福岡歯科大学からの配信による模擬講義を実施した。その際、音量、カメラ切替等々の不具合が生じ、また、これに関して受信する各大学についても調整に不具合が生じた。そのためこの不具合について、納入元である日立電線に報告し、対処することとなった。

○次回の開催予定について

次回の第 17 回会議は 3 月 23 日(火)14 時から、本会議として福岡大学におい開催することとなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 17 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 22 年 3 月 23 日(火) 14:00～16:17
場 所：福岡大学医学部本館 A 会議室
出席者：別紙のとおり

代表校挨拶

福岡歯科大学の北村憲司学長から挨拶があった。

開催校挨拶

福岡大学医学部の喜久田利弘教授から挨拶があった。

協議事項

議長(福岡歯科大学 鴻江教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 平成 22 年度「医歯学連携演習」の実施について(資料 1-1, 2)

1) 「大学間で実施する TV 配信授業に関する取り決め事項」について

主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、学長・学部長会議及び実施担当者会議の了承は得られているとして資料 1-1「大学間で実施する TV 配信授業に関する取り決め事項」について、項目ごとに確認がなされた。その際、授業資料の取り扱いについて質疑応答があり、「取り決め事項」6⑥に定める紙媒体の資料は学内限りの利用は可とし、e-learning で用いる場合は PDF で改ざんされない状態で利用することが確認された。また、TV 授業アンケート用紙については日付を平成 22 年とし実施日まで記入することとする、6 月以降の用紙は 1 限 2 限を明記するものとする事とした。

2) TV 配信終了後の時間帯について

主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、「医歯学連携演習」は 1 コマ 70 分で構成される。今回受講する大学の 1 コマの授業時間の 1 例は資料 1-2 のとおりである。毎回行うアンケートは授業開始時に配布し、授業終了後速やかに回収することとしても残りの時間が生じるが、この時間をどのように取り扱うのか取り決めておきたい旨の説明があり、①授業終了後 10 分程度を質問の時間としその後の時間は各大学が個別に使用する、②質問は授業終了後 10 分とするが、講師の了解が得られている場合は、資料に講師の e-mail のアドレスを記載し対応できるものとする、ことが確認された。

2. 医科隣接科目共有シラバスについて(資料 2-1,2)

1)医科隣接 6 科目ブラッシュアップのための WG について

福岡歯科大学の岡部学生部長から、医科隣接 6 科目ブラッシュアップのための WG の主任、コーディネータの選考状況について資料 2-1 に基づき説明があり、眼科の主任は鶴見大学の後藤准教授に替えて北海道医療大学から推薦すること、産婦人科の主任は岩手医科大学の杉山教授となっているが、実質的には同大学の小山助教が担当することで了承された。また、皮膚科の主任については昭和大学から推薦することが確認された。

2)作業方法等について

福岡歯科大学の岡部学生部長から、医科隣接科目を平成 23 年度から導入するとなれば、今年夏頃までには作業を終える必要がある。作業に当たっては科目毎に学習目標を定めておくことが重要であるとして資料 2-2 について説明があった。これに関連して次のような意見が出された。

(岩手)医科隣接科目については、医学部との関係があり、配慮が必要。医学部長、歯学部長宛に正式依頼を頂きたい。

(福岡)岩手医科大学や昭和大学はそれぞれ医学部と連携されているので効果の上がる良いところを紹介してもらいたい。また、例えば、眼科が得意な大学があれば担当してもらいたい。また、最初から授業コマ数を決めて進めるのではなく、検討の結果、20 コマ必要な科目であれば 20 コマのシラバスを作成していただきたい。

(北医療)アメリカと日本の教育の違いかもしれないが、アメリカでは臨床薬理が大きなウェイトを占めているが、隣接科目に含めてはどうか。

(福岡)内科に含めるのか、独立した科目とするのか等種々検討願いたい。

以上のような意見交換の後、福岡歯科大学の岡部学生部長から、WG の主任及びコーディネーターが決まったら、最低毎月 1 回の打合せとカリキュラム作成担当者会議への進捗状況の報告、8 月末までにシラバス作成をお願いしたい旨の依頼があった。

3. 平成 23 年度以降の TV 授業の実施計画について

福岡歯科大学の岡部学生部長から、今回の「医歯学連携演習」を受講しない大学は平成 23 年度の受講について調整願いたい旨の要請があり、昭和大学から、平成 23 年度は第 4 学年の 1 限目を予定しているとの報告があった。

また、福岡歯科大学の北村学長から、医科隣接科目の次は基礎系共通科目につ

いて検討を進めていただきたい旨の発言があった。

4. その他

1)平成 22 年度の会議日程について(資料 3)

資料 3 により平成 22 年度の会議日程が確認された。

2)福岡歯科大学カリキュラム作成担当者の鴻江教授から、本年 3 月末をもつて退職する旨の挨拶があり、後任の委員(議長)として福岡歯科大学内科学大星教授の紹介があった。

○次回の開催予定について

次回の第 18 回 TV 会議は 4 月 1 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 18 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 22 年 4 月 1 日(木) 18:02～18:47

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：別紙のとおり

○福岡歯科大学大星教授から、議長としての新任挨拶があった。

協議事項

1. 医歯学連携演習の準備状況について

福岡歯科大学晴佐久講師から、4 月 5 日(月)の第 1 回「医歯学連携演習」について、以下のとおり説明と確認がなされた。

- ①授業資料は、授業前配布資料と授業終了後配布資料の 2 種類あるので留意すること。
- ②アンケートは授業開始前に配布し、授業終了後に回収すること。
- ③授業日当日は、午前 8 時 20 分にシステムを起動し、午前 8 時 30 分から配信調整作業を行う。

上記の説明に続き、鶴見大学子島教授より、4 月 12 日の第 2 回目の授業資料についての提出報告があった。また、議長から配信予定大学に対し、授業資料は原則として授業 2 週間前に提出するよう要請があった。

2. 基礎医学科目のモデルシラバスについて(資料①-1, 2)

福岡歯科大学の敦賀准教授から、基礎医学科目についてのモデルシラバスについての説明がなされた。一般医学教育ならびに全体の強化と、低学年(1,2 学年)を対象とした基礎医学科目の充実につなげるため、第 1 案として、各大学の「組織学」における行動目標と福岡大学医学部のシラバス中のキーワード等をベースとして作成した「組織学総論」のモデルシラバス素案(資料①-2)が呈示され、今後、各大学の授業担当の先生の協力を仰ぎつつ、今後のブラッシュアップを図りたい旨の提案があった。これに関し、神奈川歯科大学の久保田学長並びに岩手医科大学の中居教授から、各大学独自の既存の基礎医学系カリキュラムとの整合性ならびに運用面での混乱の可能性を問う質問があった。これに対し福岡歯科大学の岡部学生部長から、既存の各大学独自のカリキュラムを十分踏まえつつ、8 大学で共有可能な基礎医学に関するシラバスの完成を目指したい旨の補足説明があった。おって、このモデルシラバス素案について各大学の授業担当者から意見を求めることとなった。

2. 医科隣接科目ワーキンググループについて（資料②）

議長から、主任の選定について説明並びに確認があった。これに関し、北海道医療大学の溝口教授より、眼科については、新任者の北市先生を主任とする可能性を模索しつつ内部調整を試みたが、所属長である病院長の判断で、診療以外の業務への就任は難しいという結論に達した旨の報告がなされた。産婦人科に関して、岩手医科大学の中居教授より、主任候補者である杉山教授と連絡がまだとれないため、同大学産婦人科学の福島先生がオブザーバーとして会議に参加している旨の発言があった。皮膚科については、昭和大学の片岡准教授より、皮膚科の秋山准教授と現在折衝中である旨の報告があった。

議長並びに福岡歯科大学の岡部学生部長から、4 月中にメンバーの選定を終了し、7 月 25 日開催の学長・学部長会議（於岩手医科大学）を目途にカリキュラムを作成し、11 月頃までに各大学での運用に関して教授会などでの議論が進められるような日程で検討を進めていただきたい旨の説明があった。

3. その他

岩手医科大学の中居教授より、時期などの詳細については内部調整が必要であるものの、本年度の医歯学連携授業について、2～3 コマ（5 年生）参加可能性がある旨の発言があった。これに対し、議長から、カリキュラム上本年度の参加が当初難しかった大学についても、可能であればフレキシブルな対応をお願いしたい旨の発言があった。

○ 次回の開催予定について

次回の第 19 回 TV 会議は 5 月 13 日(木)17 時から、実施担当者会議との合同で開催することとなった。

以 上

平成 22 年 5 月 13 日

第 16 回戦略連携事業実施担当者 TV 会議及び 第 19 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議記録

日 時 平成 22 年 5 月 13 日（木）17 時 00 分～18 時 15 分
場 所 福岡歯科大学 本館 8 階第 3 会議室他 各大学 TV 会議室
出席者 （福岡歯科大学）岡部幸司 教授、大星博明 教授、小島寛 教授、稲光哲明 教授、
谷口省吾 教授、稲井哲一郎 教授、米田雅裕 准教授、敦賀英知 准教授、柳田
憲一 講師、萩家康弘 講師、晴佐久悟講師、豊村研吾 助教、向野利一郎 助教、
石橋企画課長、野田学務課長、檜崎企画課係長、林係員、吉関係員
（北海道医療大学）安彦善裕 教授、柴田孝典 教授（代理出席者）
（岩手医科大学）小豆嶋正典教授、中居賢司 教授、福島明宗 准教授
（昭和大学）向井美恵 教授、片岡竜太 准教授
（神奈川歯科大学）木本茂成 教授、久保田英朗 教授
（鶴見大学）前田伸子 教授、小林 馨 歯学部長、子島 潤 教授、
朝田芳信 教務学生部長、阿部 講師
（九州歯科大学）自見英治郎 教授、柿木保明 教授
（福岡大学）出石宗仁 教授、喜久田利弘 教授 （以上 36 名）

欠席者 （福岡歯科大学）北村憲司 学長、（北海道医療大学）古市保志 教授
（オプザーバー：島根大学）関根浄治 教授

（議題）

1. 協議事項

①医科隣接科目共有シラバスWGについて（資料①）

福岡歯科大学・大星教授から資料①に基づき、WGメンバーの変更点について説明があった。大星教授は、九州歯科大学に耳鼻咽喉科、鶴見大学に眼科のメンバーを追加してほしい旨依頼し、両大学とも検討する旨回答した。よって大星教授は、5 月中にカリキュラムの形にする予定である旨説明した。

岩手医科大学・福島准教授より、産婦人科メンバーに昭和大学・大槻克文講師を加えた旨の報告があり、了承された。

②精神科・心療内科のモデルシラバスについて（資料②-1、②-2）

福岡歯科大学・晴佐久講師、福岡歯科大学・稲光教授から資料②-1、②-2 に基づき説明があった。

これについて岩手医科大学・中居教授より、①従来歯学部にあるコアカリキュラムとの整合性についておよび②今後の実施運用の考え方について質問があり、これに対し、稲光教授は①について、医学部カリキュラムを元に作成し、歯学部に必要な事項の不足部分を補った形で作成したと回答した。②について福岡歯科大学・岡部教授から、隣接医学6科目については各大学においても運用の仕方が様々であるため、医歯学連携演習とは異なった考え方で運用していく予定である。カリキュラム作成にとどめて、各大学が必要なコマ数でシラバスを構成するか等については、今後提案していきたいと考えている旨回答した。また、今後医科隣接6科目については、モデルカリキュラムを夏休み前までに作成する予定であること、来年度の運用については10、11月くらいまでに決めて、より多くの大学が利用できるようにしたい旨付言した。

福岡大学・喜久田教授より、他のWGと内容がだぶる項目もあるので、他のWGのシラバスも見ながら作成すればよいのではとの意見があり、大星教授は、コーディネータより順次他のWGに資料として配信していきたい旨回答した。

③基礎医学科目のモデルシラバスについて（資料③-1、③-2、③-3）

福岡歯科大学・敦賀准教授より、資料③-1、③-2、③-3に基づき説明があり、福岡歯科大学作成のシラバス（資料③-2）を参考に各大学の状況を作成してほしい。提出されたものを基にモデルシラバス（案）を今後作成していきたい旨付言した。

岡部教授は、シラバスの運用については今後検討することとしたい旨付言した。

④平成22年度FDワークショップについて（資料④）

北海道医療大学・安彦教授より、平成22年度FDワークショップの実施予定について資料④に基づき説明があった。申し込みについては、今後メール等で案内することとなった。

⑤医歯学連携演習の実施状況について

福岡歯科大学・小島教授より、医歯学連携演習の実施状況の報告について、講師の話すペースが速いという学生からの意見等があったので、講師の先生方にフィードバックしていく旨報告した。なお、受講大学の感想は以下のとおり。

九州歯科大学・柿木教授

レーザーポインタが画面の中を動き回って見づらい。

神奈川歯科大学・久保田教授

動画の動きがぎこちない。機会があれば、録画したものを学生に見せたい。

鶴見大学・子島教授

6年生が対象になっているので、すでに習った授業だと多少問題がある。

福岡大学・出石教授

概ね好評であった。

昭和大学・片岡准教授

今年度は聴講できなかったもので、録画したものを学生に見せたい。

福岡歯科大学・晴佐久講師

今後著作権の問題等を検討し、DVDでの配付およびインターネット上に公開することを検討したい。

⑥平成22年度教員短期研修派遣について

岡部教授より、教員短期研修派遣について説明があった。研修の具体案として、医科系の臨床実習の見学、TV授業に参加できていない大学が、参加校に来て見学する等が挙げられた。

その他の意見は以下のとおり。

鶴見大学・子島教授

各会議担当者以外の教員を研修させる予定である。

岩手医科大学・小豆島教授

歯科内科で臨床実習の見学、1年生が医学・歯学・薬学で合同の医科3科目のうち2科目の実習を共同で実施するのでそれを見学することは可能。

昭和大学・片岡准教授

今年度より医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部の4学部連携で病棟実習を開始したので、それを見学することは可能。

九州歯科大学・自見教授

若い教員に募集をかける予定である。

神奈川歯科大学・久保田教授より、他大学の受入プログラムを一覧表にしてほしい旨依頼があり、岡部教授は、フォームを送るので研修概略を記入して福岡歯科大学へ提出してもらうよう依頼した。

⑦平成２２年度海外視察について（資料⑤）

岡部教授より、平成２２年度海外視察について資料⑤に基づき説明があり、各グループ１大学に絞って視察することとし、してほしい旨依頼があっているので、今後視察候補大学を検討していく旨付言した。

視察候補として次の案が出された。

北村学長の視察候補大学

ハーバード大学、ケンタッキー大学（医学部が併設されている）

ミズーリ大学（晴佐久講師・稲光教授・片岡准教授）

口腔医学という意味で参考になったが、すでに２回訪問しているので、別の大学の方がよいのでは。

北海道医療大学・安彦教授

ケースウエスタンリザーブ大学、ボストン大学（米東海岸は口腔医学教育が盛ん）

九州歯科大学・柿木教授

ルーベン大学、サンチャゴデコンポステーラ大学、ロンドン大学

鶴見大学・子島教授

ハーバード大学（１、２年生が医学部・歯学部で同じ授業を 90%受講）、メディカルアンドデンタルスクール（ニュージャージー）

２．その他

①次回開催予定日時について

第２０回口腔医学カリキュラム作成担当者ＴＶ会議は６月３日（木）１８：００～、第１７回戦略連携事業実施担当者ＴＶ会議は６月１０日（木）１７：００～開催することとなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 20 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 22 年 6 月 3 日(木) 18:01～18:58
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 医歯学連携演習の準備状況について

福岡歯科大学の医歯学連携演習 TV 授業責任者である小島教授から、各講師に一定数の客観試験問題の作成を依頼し、6 月下旬には取りまとめる予定である旨の説明があった。また、6 月 7 日から授業は 1、2 限連続して実施されるが、6 月 7 日は 2 限目の開始が 10 時 45 分となっていることについての確認があった。その後、連携演習について意見交換があり、学生の講義に DVD を使用したいとの要望があり、対応を検討することとなった。

2. 医科隣接科目共有シラバス WG について(資料①)

議長及び各 WG メンバーから、医科隣接科目 6 科目 WG の進捗状況について次のとおり報告があった。

- ・ 精神医学 →行動目標、キーワード等を含んだモデルカリキュラムが作成された段階
- ・ 小児科学 →各大学のシラバスをまとめ、モデルカリキュラムを作成中
- ・ 耳鼻咽喉科学→モデルカリキュラムを作成中
- ・ 眼科学 →モデルカリキュラムの原案ができている
- ・ 産婦人科学 →各大学のシラバスをまとめ、モデルカリキュラムを作成中
- ・ 皮膚科学 →行動目標までのモデルカリキュラム原案ができ、モデルシラバスは近々作成予定

議長から、各 WG には次回会議までにモデルシラバスの原案を作成して頂くことをお願いし、シラバスは各大学の実情に応じ使用できるものとしてほしい旨の説明があった。

福岡歯科大学の岡部教授から、来年度(平成 23 年度)どの程度まで運用できるかが重要である旨の発言があった。

なお、運用に関し次のような各大学の現状に関する意見が出された。

- ・ 外部講師との調整

- ・ 医学部併設校の特殊性

これを受けて議長より、e-learning や DVD 等の活用による運用も今後検討して頂きたい旨の発言があった。

3. 基礎医学科目のモデルシラバスについて(資料②)

福岡歯科大学の敦賀准教授から、前回提出したカリキュラム案に対する各大学の意見や実施状況を踏まえ改定案(資料②)を作成した。各大学からの意見は最大限取り入れている旨の説明があり、ついで福岡歯科大学機能構造学分野の稲井教授から資料に基づき改定内容について説明があった。

福岡歯科大学の岡部教授から、各大学においては、授業に反映させる等して運用していただきたい旨の発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第 21 回テレビ会議は 7 月 1 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 21 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議(TV 会議) 議事概要

期 日：平成 22 年 7 月 1 日(木) 18:01～18:54

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 医歯学連携演習の試験問題について

福岡歯科大学の医歯学連携演習 TV 授業責任者である小島教授から、前回依頼した試験問題は、7 月 5 日の最終回分を除き、提出いただいた。形式をチェックの後、各大学へ送付する予定である。また、試験結果の取扱いについて諮られ、各大学の意見を伺いたい旨の説明があった。

その結果、各大学とも、試験結果については作成者へフィードバックしたほうが良いとの意見であった。

これを受け小島教授から、取り扱いについては、実施担当者会議、学長・学部長会議の了承を得た上で実施することとし、今回の取りまとめは福岡歯科大学の TV 授業責任者が担当することとしたい旨の説明があった。

2. 医歯学連携演習ビデオの配信について

福岡歯科大学の晴佐久講師から、福岡歯科大学が録画している医歯学連携演習の閲覧について、①8 大学のみ閲覧とする。他大学からはアクセス不可 ②各大学にはパスワードを付与する ③著作権保護のためダウンロード不可とする、旨の技術面での説明があった。

大星議長から、この対応について 8 大学及び授業担当者の承認を得て実施することについて授業を担当願った各大学の意見を伺いたい旨の発言があった。

これに対し、各大学とも特に問題はない等の発言があり、大星議長から、授業担当者からの承認は各大学のカリキュラム作成担当者をお願いしたいこと、配信は実施担当者会議、学長・学部長会議の了承を得た上で実施することとしたい旨の説明があった。

3. 医科隣接科目共有シラバス WG について(資料①)

大星議長から、今回は、モデルコアカリキュラム 6 科目全てと産婦人科学、皮膚科学と眼科学の三科目のモデルシラバスを資料①として提示した。モデルシラ

バスについては、十分に検討がなされたものではないことと、医科科目を他大学や医学部等をお願いしている大学もあるものの、来年度のシラバスに反映させていただきたい旨の説明があった。

また、福岡歯科大学の岡部教授からも同様な説明があり、医歯学連携演習のビデオ利用や e-learning での共有化等で連携の実績を残したい。このことについては次回 7 月 25 日の本会議で各大学としての意見を伺いたい旨の発言があった。

なお、このことについての各委員の意見等は次のとおり。

(九歯大) 正規授業に組み込めない場合は補助的に利用する方向で検討したい。

(北医大) 今回説明の主旨を正委員に伝える。

(岩医大) 医歯学連携演習の医学部への説明と、歯学部内の意見を集約して報告したい。

(昭和大) 岩手医科大と同様である。今年夏に実施する、全教授が参加する WS で検討したい。

(神歯大) 資料の活用、DVD の利用について検討したい。コマ数の問題等は若干時間を要するが学内の委員会で検討したい。

(鶴見大) 形に残すということはシラバスに掲載することで良いのか。TV 授業のように実際の講義を見ながらであれば効果的だと思うが。

→ 申出があれば検討したい。ただし、TV 授業が可能な講義室の確保等調整が必要な事項がある。視覚素材として記録することも可能である。本学から画像資料をどれだけ配信可能か検討したい。

○次回の開催予定について

次回の第 22 回会議は 7 月 25 日(日) 9 時 30 分から、本会議として盛岡市で開催することとなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 22 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 22 年 7 月 25 日(日) 9:30～11:56
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING
出席者：別紙のとおり

代表校挨拶

福岡歯科大学の大星教授から挨拶があった。

開催校挨拶

岩手医科大学の小豆嶋教授から挨拶があった。

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

3. 医歯学連携演習について(資料)

1) 試験とその結果の扱いについて

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、今年度の授業が各大学の協力により無事終了したことに対し謝辞が述べられた。

小島教授から、試験問題は全大学に配布し利用については各大学の判断に委ねることとしたこと、毎回の学生アンケートについては、学長・学部長会議等の了承を得た上で授業担当者にフィードバックすることとしたい旨の説明があった。

これに関し、鶴見大学から、試験日が大学によって異なるが、試験を進級要件とする場合、他大学から試験内容が洩れる可能性があれば問題である旨の発言があった。これに対し、試験を実施する各大学から、試験問題は回収した、回収予定との説明があり、今後、問題が生じた場合は改善していくこととした。

2) ビデオ配信について

福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、平成 22 年度の「医歯学連携演習」の収録ビデオは、著作権問題が解決できることを前提として、学長・学部長会議等の了承を得た上で次のとおり取り扱うこととしたい旨の説明があった。

- ① パソコンでの閲覧とする。
- ② 閲覧のためのパスワードを各大学へ付与する。
- ③ 内容のダウンロードは不可とする。

3) 平成 22 年度 TV 授業の総括について

福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、毎回の授業アンケート結果を質問事項別にまとめた資料が提出され、講義資料の 2 週間前までの提出は講義担当者に対しては大変厳しいお願いであったが、アンケート結果では予習した学生が多数いたので効果があったと思っている旨の説明があった。なお、各大学からは次のような報告があった。

福岡大→大きなトラブルもなく遂行できた。歯科に関連が強いトピックスを取り上げるのが医歯学連携演習と認識している。小児科、皮膚科に関連したトピックスなど不足しているものもある。

福 大→2 コマ受講した。医学部の学生にとっては復習的なものであり判り易く受講できたと思う。講義としては良い印象であった。国試への出題を働きかけていくことも学生にとっては重要なことである。

九歯大→聞いている範囲では好評である。ただ、アンケートの回収率が 5 割程度というのが気がかりである。

鶴見大→具体的内容が少し入ったほうが良かったと思うが、一般的で良かった。受信大学側の学生にアピールして興味をもってもらえるような TV 授業システムになればと感じた。6 学年に受講させたので、学生からはどうしてこの時期にこの授業なのかという意見が出たので、国試にも出るような内容であると説明した。医歯学連携演習の内容が国試に出るような取り組みや関係方面への働きかけをお願いしたい。もう一度見たいという学生もいたので、学生にパスワードを渡して TV 授業を閲覧することが可能かどうか検討願いたい。

神歯大→他大学の教室の様子に感心していた。関係教員も参加していたので他大学の授業方法が参考になった。TV 授業の受講数を増やしてほしいとの意見もあった。

昭和大→今回は参加できなかったが、歯科の視点からみた有病者の取扱いを再考。カリキュラムに DVD をブロックとしてスポット的に取り入れる等現状を見直している。

岩医大→ビデオでの医学部との歴史が長いので TV 授業は難しい。モデルシラバスをもとに来年度のシラバスの見直しや WEB でのビデオ配信も利用したいと考えている。

北医大→学生からの評価はよかった。講師の声が小さいことが一度あった。情報量が多く講義スピードもはやいので予習しない学生にはきつかったかなという印象。福大や鶴見大が提案された国試への働きかけの話は興味深い、国試のブループリントで各領域の出題割合が決められているので、この先 4 年間は国試出題のはたらきかけは困難かもしれない。

い。教員からは良い評価であった。

大星議長から、カメラワーク等改善しなければならない問題点を洗い出し、改善していきたい。また、カリキュラム作成担当者会議としての提言をまとめることも必要ではないかとの発言があった。

4) 平成 23 年度 TV 授業について

福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、学長・学部長会議等で次年度も TV 授業として実施するという事になった場合、内容のブラッシュアップを 11 月までにとりまとめ、12 月の学長・学部長会議等に諮りたい旨の説明があった。

大星議長から、診察風景も取り入れる等、学長・学部長会議等の意見も踏まえ実施したい旨の発言があった。

また、福岡大学から、見直す場合、ボリュームの問題、学生と教員とのやり取りについても検討願いたい旨の要望があった。

2. 医科隣接科目共有シラバス WG について(資料 1)

大星議長から、資料 1 は各 WG で検討された 6 科目のモデルカリキュラムとモデルシラバスで、シラバスは福岡歯科大学の様式でまとめている。各大学の実情に応じ次年度のシラバスに応用いただきたい。本日の学長・学部長会議等の了承が得られれば現状のコマ数を更に増やし充実させたい旨の説明があった。

この提案について各大学から次のような予定等について意見が出された。

- ・ 九歯大→全て取り入れることは難しいが、できる範囲で実施したい。
- ・ 鶴見大→眼科、皮膚科についてはある程度可能。
- ・ 神歯大→現在、皮膚科、眼科、耳鼻科しか開講していないので、それ以外の科目については今後の実施に向けて検討したい。
- ・ 昭和大→医学部との関係で実情としては難しい。時間が必要である。
- ・ 岩医大→次年度シラバスの参考にしたい。
- ・ 北医大→各大学と同様な状況。コマ数が増えることが問題であり、ユニットで取り入れることとなる。

ついで大星議長から、このモデルシラバスの運用について、e-learning や TV システムの活用等で、授業時間枠を増やすことについて意見を伺いたい旨の発言があり、各大学から次のような意見が出された。

- ・ 福岡大→正規の授業として認められるのかの確認が必要。

(出欠、試験等必要なことを行えば問題ないはずとの意見あり)

カリキュラムを増やせば、減らすものも必要となるが。

- ・九歯大→管理をきちんとやれば教員の時間の省力化という点では良い。
- ・鶴見大→TV の場合、臨場感をどうやって高めるか、メールなどで質問ができるシステムが必要。また、アウトカムの総括も考える必要がある。
- ・神歯大→やれば増やしたい。
- ・昭和大→学生が質問したくなるような授業を心がけたい。正課授業での実施も検討するが、正課でない学生に活用していきたい。
- ・岩医大→教育に情熱のある教員でやってもらえれば。
- ・北医大→将来的には 4、5 学年に活用できればと考える。リアルタイムでなければまだ可能性がある。連続受講しないと理解できないというより、コマでとれるような一回完結型であれば利用しやすい。

大星議長から、臨場感などの観点からはリアルタイムの受講が一番である。実際の雰囲気に関係者が知りたい場合は、眼科や耳鼻科の授業を受講してもらうことも可能である。現状では福岡歯科大学から隣接医学の全科目を TV 配信する予定は無いので、各大学の現状にプラスする場合に活用いただきたい。TV、DVD、e-learning の活用も踏まえ来年度の運用について今後検討していきたい。また、新規授業の枠取りの問題は、福岡歯科大学でも検討を進めている旨の説明があった。

また小島教授から、TV 配信する場合、2 限目以降になると大学によって授業開始時間が異なること、サーバの容量等システム上の問題等解決しなければいけない点がある旨の補足説明があった。

3. その他

1) 医歯学連携演習の授業資料の取扱いについて

福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、医歯学連携演習の授業資料は、パワーポイント形式で提出いただいているので、今年度実施予定の e-learning のコンテンツに含め学生に配布したいと考えている。各大学の意見を伺いたい旨の説明があった。

関係大学からは問題ないのではとの解答があったが、著作権の問題をクリアにすることが必要との意見が出され、連携 8 大学として著作権を有する方法も含め、検討することとなった。

○次回の開催予定について

次回の第 23 回 TV 会議は実施担当者会議との合同会議として、8 月 5 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 22 年 8 月 5 日

第 19 回戦略連携事業実施担当者 TV 会議及び 第 23 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議記録

日 時 平成 22 年 8 月 5 日（木）18 時 00 分～18 時 40 分
場 所 福岡歯科大学 本館 8 階第 3 会議室他 各大学 TV 会議室
出席者 （福岡歯科大学）北村憲司 学長、大星博明 教授、小島寛 教授、池邊哲郎 教授、
坂上竜資 教授、米田雅裕 准教授、晴佐久悟講師、柳田憲一講師、石橋企画課
野田学務課長、檜崎企画課係長、林係員、吉開係員
（北海道医療大学）溝口到 教授、
（岩手医科大学）小豆嶋正典教授、中居賢司 教授
（昭和大学）向井美恵 教授、片岡竜太 准教授、
（神奈川歯科大学）木本茂成 教授、本間義郎 講師（代理出席者）、
（鶴見大学）前田伸子 教授、山根 教授、阿部 講師
（九州歯科大学）柿木保明 教授
（福岡大学）出石宗仁 教授、喜久田利弘 教授
（オブザーバー：島根大学）成相義樹 講師（代理出席者） （以上 27 名）

欠席者 （北海道医療大学）古市保志 教授、（神奈川歯科大学）久保田英朗教授、
（鶴見大学）子島潤教授、（九州歯科大学）自見英治郎 教授、
（オブザーバー：島根大学）関根浄治 教授

（議題）

1. 協議事項

①医科隣接科目【一般医学授業科目】共有シラバスWGについて（資料①）

福岡歯科大学・北村学長は、7/25 学長学部長・実施担当者合同会議の際に、「医科隣接科目」という呼び方を「一般医学科目」または「一般医学授業科目」のように「隣接」を外すということで概ね承諾をもらっている、今後は「一般医学授業科目」に統一する旨述べた。

福岡歯科大学・大星教授から資料①に基づき説明及び 7/25 カリキュラム作成担当者会議の報告と確認があった。7/25 カリキュラム会議資料として配付しているモデルシラバス・モデルカリキュラムを参考に、各大学で次年度に向けて充実したシラバスを作成してほしい旨依頼しており、各大学からは作成に向け努力したいとの回答をもらっている。特に、医歯学連携演習のように IT を使った TV 授業や DVD、ビデオ等の応用が可能になれば充実が図れるのではないかと 7/25 カリキュラム作成担当者会議で概ね

意見がまとまっている。その際に TV 授業は正規の授業として認められるのかとの質問があったが、大学設置基準第 25 条に多様なメディアを高度に利用して授業を行うことが規定されているため、法令的にも認められている旨回答した。

②平成 22 年度医歯学連携演習の試験結果報告

福岡歯科大学・小島教授から平成 22 年度医歯学連携演習の試験結果の取り扱いについて説明があった。試験結果を主管校である福岡歯科大学で取りまとめ、出題者へフィードバックするため、使用した問題用紙及び各選択肢の回答数の回答依頼を後日 TV 授業責任者へメールにて依頼を予定している。次年度の TV 授業の打ち合わせは、9/2 のカリキュラム作成担当者 TV 会議から検討を始めたいので、8 月中に回答の提出をお願いしたいが、9 月以降に試験する大学については、後日状況の確認をすることとした。

③平成 23 年度医歯学連携演習について

小島教授より、平成 23 年度医歯学連携演習について、学生へのアンケート結果、試験結果を加味し、次年度の授業の進め方及び授業内容を、9/2 以降カリキュラム作成担当者会議において協議していきたいこと、またご意見があれば 8/25 頃までにいただきたい旨依頼した。後日、カリキュラム作成担当者へメールにて回答を依頼する予定である。

北村学長より次年度は岩手医科大学、昭和大学もぜひ参加いただきたい旨付言した。

④平成 22 年度教員短期研修派遣について（資料②）

北村学長より、平成 22 年度教員短期研修派遣について資料②に基づき説明があった。

昭和大学・向井教授より、研修の具体的な日程について説明があった。日程は以下のとおり。

・学部連携病棟実習（附属病院 12 病棟）

①10 月 18 日(月)～22 日(金) 7 病棟、 ②10 月 25 日(月)～29 日(金) 5 病棟

北村学長より、受入は 1 週間可能であるか、3 名同日に研修しなければならないか、との質問があり、片岡准教授は、受入期間については 1 週間で 9/7 学部連携運営委員会に諮り了承をとる予定である。向井教授は、受入日程は基本的には研修希望者にあわせ、個別に対応したいと回答した。

また、病棟の具体的な診療科が分かるのはいつ頃かとの質問に対して、片岡准教授は、福岡歯科大学及び研修希望者 3 名にメールにて後日連絡すると回答した。

北村学長より、福岡大学へ受入可能時期について質問があり、福岡大学・出石教授は実習期間内であれば、見学内容にもよるが何名か一緒に、または、個別に研修者の希望に対応できると回答した。北村学長は、福岡歯科大学の研修希望者より希望日程及

び見学希望内容を出石教授へ連絡させると付言した。

⑤e-learning システムについてのアンケート調査(資料③)

北村学長より、e-learning システムについてのアンケート調査について資料③に基づき説明があった。現在は各大学が異なるソフトやシステムを使って e-learning を利用しているが、医歯学連携演習や一般医学授業科目、基礎医学カリキュラム等を共通教材として利用できるようにするために、調査を行いたいので各大学へ協力を要請した。アンケート実施については 7/25 学長学部長・実施担当者合同会議で了承をもらっており、既に実施担当者と事務担当者へ依頼状を送付している旨付言した。

⑥平成 23 年度予算案作成について(資料④)

北村学長より、平成 23 年度予算案作成について資料④に基づき説明があった。文科省の助成は今年度で終了するが、事業は 10 年程度実施するため、来年度以降は各大学の事情に合わせた予算の中で実施することとなる。7/25 学長学部長・実施担当者合同会議で協議した TV 会議・授業システム保守料等は最低限の予算として確保をお願いしたい。また、10 月末までに予算案をご提出いただき、次年度の予算として今後承認を得たい旨付言した。

2. その他

①次回開催予定日時について

第 24 回口腔医学カリキュラム作成担当者 TV 会議は 9 月 2 日(木) 18:00～、
第 20 回戦略連携事業実施担当者 TV 会議は 9 月 9 日(木) 17:00～開催することとなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 24 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 22 年 9 月 2 日(木) 18:02～18:38
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 平成 22 年度医歯学連携演習の試験結果について(資料-1)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、今年度の医歯学連携演習の試験問題利用について各大学の状況が確認された。その結果、現在は未だ試験が実施されていない大学もあり、利用大学全てのデータが揃った段階で担当教員へフィードバックすることとなった。

2. 平成 23 年度医歯学連携演習の実施について(資料-2)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、今年度実施した医歯学連携演習を総括する予定で各大学の意見を求めたが、本学以外には意見が出されていない。本学の意見は資料 2 のとおりである。次年度実施に当たっては、今年度の実施方法等に少しでも工夫を加えより充実したものとしたい。そのためには、来年度のシラバス作成の時期までには方向性がまとまっている必要がある。次回、再度検討したいので、忌憚のない意見をいただきたい旨の説明があった。

また、大星議長から、今年度参加されなかった大学においては、次年度は関連授業に 1 コマでも組み込んでいただければ、8 大学全てが参加することとなる。関係部署での検討をお願いしたい旨の協力依頼があった。

3. 平成 23 年度一般医学授業科目について(資料-3)

大星議長から、資料は既に提示している精神科と眼科のモデルシラバスである。福岡歯科大学は、来年度、精神科は前期、眼科は後期に実施する予定で、どちらも本学の専任教員が担当する。一般医学の授業はビデオ収録の予定であり、医歯学連携演習と同様、連携大学間でサーバーから視聴可能である。TV 授業としての同時配信は予定していないが、このビデオを利用願いたい。各大学のご意見を伺いたい旨の説明があった。各大学からは次のような意見が出された。

- ・神歯大 → シラバス作成までに検討したい。

- ・鶴見大 → 眼科は専任でありある程度取り込むことが可能だが、精神科は非常勤講師であり難しい。ボリュームのある内容だが、福歯大は実施するのか。
- ・北医大 → 一般医学は3～4 学年に配置しており、眼科は3 学年に配置している。眼科担当にお願いする。
- ・九歯大 → 関係委員会で検討する。
- ・福 大 → シラバスがよくできているので、各大学で利用願いたい。福大医学部でも利用できればと思う。
- ・岩医大 → 現在、口腔医学は3 学年、一般医学(隣接医学)は5 学年に配置している。歯学部教務委員会にはかり、検討する。

以上のような意見に対し、大星議長から、正規の授業としての取り込みが最善であるが、副教材としても利用願いたい。各シラバスを検討願い、少しでも次年度のカリキュラムに反映させていただきたい。カリキュラム内容の変更にもなるので学内で十分検討していただきたい旨の依頼があった。

また、福岡歯科大学の岡部学生部長から、福岡歯科大学ではできるだけ取り込む方向で調整する予定である。取り入れることにより、他の科目を削減することも考えられるが、臨床系実習の枠が大きいのでそこが調整できればと考えている旨の発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第25回TV会議は、10月7日(木)18時から1時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 25 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 22 年 10 月 7 日(木) 18:10～18:50
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 平成 22 年度医歯学連携演習の試験結果について

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、今年度の医歯学連携演習の試験実施について関係者に対し謝辞が述べられ、結果については授業担当者へフィードバックすることとしたい旨の説明があった。なお、鶴見大学は試験が全て終了していないので、現時点での結果で報告することとした。

また、大星議長から、次回までには試験結果の解析が報告できると考えている旨の発言があった。

2. 平成 23 年度医歯学連携演習の実施について(資料)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、平成 23 年度の「医歯学連携演習」の参加予定について資料に基づき説明があり、12 月 4 日の本会議までには確定したい旨の説明があった。また、実施に当たっては、1)各大学からの意見もあるが今年度の内容を踏襲すること、2)コマの順番の入れ替えは検討すること、3)講師は専門性の高い方をお願いしたいこと、今年度以上に多くの大学の教員に担当いただきたいことについて説明があり、各大学の意向を踏まえ次回までに概要をまとめたい旨の発言があった。

また、大星議長から、授業は双方向が望ましいとのご意見もあるので、岩手医大の中井教授による内科の授業、福岡大の小児科、九歯大の耳鼻科等で充実した授業が実施されている大学の参画を検討いただきたい旨の発言があった。

3. 平成 23 年度一般医学授業科目について

- 1) 大星議長から、福岡歯科大学では、現在、眼科の講義をビデオ収録中である。2 回目に収録したものを再生するのでご覧頂きたい旨の案内があり、福岡歯科大学の晴佐久講師から内容説明があった。このデモンストレーションに対し、画像については特段の指摘もなく、双方向が可能か、視覚素材を用いた解りやすい講義等の意見が出された。

大星議長から、TV 配信すれば臨場感も上がると思うが、このような状況でのビデオ配信は可能であり、補助的な教材としての利用も考えられる旨の説明があった。

2) 大星議長から、一般医学をカリキュラムに組み込むことについて各大学の状況報告を求められ、それぞれ次のような報告があった。

- ・北医大 →5 年前期の 2 か月間で実施している。コマ数の増は難しい。

(大星議長→他学年、補助教材も含め検討願いたい。)

- ・岩医大 →なるべく取込むよう相談したい。基礎系の授業は医、歯、薬の 3 学部共同でやることになっているので、良い結果ができれば報告したい。

- ・昭和大 →学生にとっては実施してやりたいが、時間枠がタイトである。

- ・鶴見大 →学生の負担を減らす方向なので、内科、外科以外の眼科を考えている。事前にビデオを見せてもらい、良ければ使いたい。

(大星議長→事前にみていただくことはできると思う。)

- ・神歯大 →内科の時間数を増やした。隣接医学に精神科を加える予定。

- ・九歯大 →内科、外科以外は非常勤講師で実施している。23 年度カリキュラムに正式に組み込むことは、まだ時間的には可能。

- ・福岡大 →特になし。

○次回の開催予定について

次回の第 26 回 TV 会議は、11 月 4 日(木)18 時から 1 時間程度行うこととなった。

また、12 月はシンポジウムが開催される 12 月 4 日(土)に第 27 回本会議として開催することが確認された。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 26 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 22 年 11 月 4 日(木) 18:05～18:28
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)欠席のため、福岡歯科大学小島教授司会の下、次の事項について協議がなされた。

4. 平成 23 年度医歯学連携演習について

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、平成 23 年度の「医歯学連携演習」は、今年度と同内容のシラバスで平成 23 年 4 月 11 日から 6 月 27 日まで実施する。時間は 5 月までは第 1 限、6 月からは第 1 限と第 2 限で行うこととしたい旨の説明があり、了承された。なお、この連携演習への参加については、次回(12 月 4 日)の本会議であらためて確認することとなった。また、授業担当者については、今年度は、鶴見大学、九州歯科大学と福岡大学の協力を得たが、来年度は北海道医療大学からも一部担当が可であるとの連絡を受けているとの報告があり、他大学においても検討願いたい旨の依頼があり、次回、あらためて確認することとなった。

各大学の状況は次のとおり。

- ・鶴見大 →1 限のみならば全期間参加可能。授業担当者については、今年度と同程度程であれば可能。
- ・神歯大 →2 コマ以上は参加したい。2 班に分けて参加させる予定であり、ビデオでの対応について配慮願いたい。授業担当者が出せるかどうかは未定。
- ・九歯大 →授業参加と担当者については今年度に準じた方向で検討中。

以上のような報告を踏まえ、小島教授から、平成 23 年度の医歯学連携演習には授業担当者も含め、今年度より多くの大学の参加をお願いしたい旨の依頼があった。

5. 平成 23 年度一般医学授業科目について

福岡歯科大学小島教授から、口腔医学を確立していくためには医科科目の授業を増やすことが望ましい。ついては、各大学の平成 23 年度の一般医学授業科目の実施予定について伺いたい旨の説明があり、各大学から次のような報告があった。

- ・ 岩医大 →本会議でまとめたモデルシラバスに沿った内容で実施するよう関係者と調整する予定。
- ・ 昭和大 →一般医学のシラバスを見直す予定であり、モデルシラバスを取り入れることについて関係者と調整中。
- ・ 鶴見大 →眼科は可。内科、外科についてはある程度取り入れられそうであるが、小児科、婦人科、耳鼻科については不明。
- ・ 神歯大 →内科は時間数を今年度の 1.5 倍に増。第 4 学年の隣接医学に「精神医学」を新設予定。
- ・ 九歯大 →今年度と同程度で実施する可能性が大きい。

3. その他

福岡歯科大学小島教授から、11 月 30 日に、「戦略的大学連携支援事業」の文部科学省の実地調査が行われることとなった。当日は、学長・学部長会議が TV 会議で開催される予定であり、これに合わせ、授業の相互配信を計画しているので協力願いたい旨の依頼があった。

○次回の開催予定について

次回の第 27 回会議は、国際シンポジウムに合わせ 12 月 4 日(土)9 時 30 分から福岡市の「アクロス福岡」で本会議として開催することが確認された。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 27 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 22 年 12 月 4 日(土) 9:30～11:20
場 所：アクロス福岡 6F 609 会議室
出席者：別紙のとおり

代表校挨拶

福岡歯科大学の大星教授から挨拶があった。

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

6. 平成 23 年度医歯学連携演習について(資料 1)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、資料 1 は平成 23 年度の授業日程で、既に 8 大学で了承されているものである。参加については検討いただくこととしていたが、来年度のカリキュラム作成の時期にきているので、確認したい旨の説明があった。

これを受け各大学から次のような説明があった。

- ・ 北医大→4 月 11 日から 5 月 23 日は 5 年生が受講予定。5 月 30 日は臨床実習が開始されるので未定。6 月 27 日の授業は、本学の麻酔科で担当が可能である。
- ・ 岩医大→4 月 18 日と 5 月 9 日は 5 年生が受講可能。現在、3 年生に「口腔医学」を講義しているが、内科としての有病者の歯科治療を 60 分 2 コマのビデオを作成しているので配信したいと考えている。また、5 月 23 日の 3 年生の授業を「医歯学連携演習」に合わせて同時配信は可能である。
- ・ 昭和大→シラバスの見直しは継続して検討中であるが、正課として参加することは現状では困難である。補助教材としてストーリーミングで受講させることは可。
- ・ 鶴見大→次年度受講予定の 5 年生は臨床実習の最後の時期であり、6 年生よりも興味深く受講できる。1 限目は全コマ受講できそうである。授業担当については、4 月 18 日であれば可能である。
- ・ 神歯大→今年度と同様に 5 年生に 2 コマ組み込んでいる。授業担当については、5 月 23 日精神医学の 1 コマを本学非常勤講師でできないか検討中。

- ・ 九歯大→今年度と同コマ数でほぼ確定。また、授業担当についても今年度と同様と考えている。
- ・ 福岡大→医学部のカリキュラムに同様な授業を組み込んでいるので受講は不可。授業担当は今年度と同程度は可能と考える。当職が担当することは可能であり、医学生への講義という目線で行える。

福岡歯科大学の小島教授から、「医歯学連携演習」は共有する方法をTV授業に絞るものではない。共通のシラバスを各大学の実情に合わせて実施しても連携授業といえる。しかし、TV授業を共有することで専門性の高い講師に講義を担当してもらうメリットも生じる。担当が可能な授業に是非参画願いたい旨の発言があった。

この後、医師、歯科医師それぞれの立場からの連携授業に関する意見交換が行われた。

7. 一般医学授業科目について

大星議長から、口腔医学にとっては一般医学の充実が重要であり、連携事業としてのこれまでの成果として医科 6 科目のモデルシラバスを作成した。福岡歯科大学では、平成 23 年度は可能な限りこのシラバスを取り入れる予定で進めている。そのうち眼科学については既にビデオ収録済みであり、各大学でも利用いただければと考えている。また、各大学で医科の専任教員が在籍であれば、ストリーム配信を検討いただきたい旨の説明があり、各大学から平成 23 年度の医科科目の取り込み取り状況について説明があった。

- ・ 北医大→一般医学科目の内科学の時間数増は検討中であるがその他の科目数、時間数増は難しい。モデルシラバスは授業担当者に取り込むよう依頼したいと考えている。ビデオ配信の利用は検討中である。
- ・ 岩医大→隣接医学は医学部講師のものを 5 年生に受講させている。そのうち皮膚科学はビデオ収録済みで、産婦人科学も 2 コマ程度収録予定である。
- ・ 昭和大→医科科目の授業時間数の見直しについては継続して検討中である。モデルシラバスの取り込みについては医学部と調整中。モデルシラバスの到達目標と昭和大のそれとが一致すれば同時またはストリーム配信は可能である。
- ・ 鶴見大→眼科学は専任教員が在籍しているのでモデルシラバスの取り込みはほぼ可能である。皮膚科学と外科学についてもある程度可能だと考えている。
- ・ 神歯大→外科学 30 時間、内科学は 45 時間、新たに精神医学を 15 時間 + α の

予定である。

- ・ 九歯大→一般医学は全て非常勤講師であり、モデルシラバスの取り込みは可能である。23 年度のカリキュラムが決定した上で調整したい。ビデオ教材が利用できるようになれば非常勤講師ではなくビデオによる授業に変わる可能性も考えられる。耳鼻咽喉科学の授業配信については実施担当者と相談する必要がある。

大星議長から、ビデオは来年度配信予定であるが次年度以降のビデオ配信の利用も検討願いたい。また、福大の小児科等医学部が設置されている大学においては医科授業の配信も検討いただきたい旨の発言があった。

また、福岡歯科大学の小島教授から、モデルシラバスを達成するためには e-learning のコンテンツを順次作成していくことも必要と考えているので次回このことについては提案したい旨の発言があった。

8. 基礎医学専門科目について

大星議長から、口腔医学を進める上で一般医学を充実させることが必要だが、そのためには基礎医学も重要である。基礎医学はこれまで「組織学」のモデルカリキュラムを作成したところである。次は一般医学の充実には欠かせない「病理学」を取り上げ、各大学の病理学担当者の協力を得てモデルカリキュラムを作成したい。口腔病理は整っていると思われるので一般病理を充実させたい旨の説明があった。

9. 海外視察報告(資料 2)

大星議長から、今年度の海外視察は資料 2 のとおりのメンバー、日程で実施された。正式な報告会は 12 月 21 日に開催されるがカリキュラム作成担当者会議としての報告を行うこととしたい旨の説明があり、A、B 両グループから簡単な報告があった。

視察後の感想として、口の中を診ることは全身が判るということ、口腔に関するスペシャリストになることが口腔医の確立であるということを目標に進める必要があるとの意見が出された。

○次回の開催予定について

次回の第 28 回 TV 会議は来年 1 月 6 日(木)18 時から、1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 28 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 23 年 1 月 6 日(木) 18:00～18:52
場 所：各大学 TV 会議用会議室
出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 平成 23 年度医歯学連携演習について(資料 1-1,1-2)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、資料 1-1 の各大学の TV 授業担当者及び「取り決め事項」6①と 8②について、平成 22 年度との変更の有無を確認したい旨の説明があり、それぞれ次のとおりであった。

1)TV 授業責任者、2)TV 授業配信調整担当者、3)TV 授業事務連絡担当者

北海道医療大学を除き変更なしであったが、事務連絡担当者は 4 月の異動もありうる。また、北海道医療大学は 1 月中に回答することとなった。

4)授業資料配布のタイミング

「取り決め事項」6 の①のとおりで実施することとなった。

5)授業アンケート

「取り決め事項」8 の②の毎回の授業終了時に行うアンケートは、今年度と内容を少し変更することとし、変更案は次回提案することとなった。

2. 平成 23 年度医歯学連携演習授業担当者について(資料 2)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、資料 2 は、前回会議で伺った平成 23 年度「医歯学連携演習」への各大学の授業参加状況と授業担当可能コマの一覧であり、今回再度確認したい旨の説明があった。その後、関係各大学に確認した結果、次のような意見が出され、各大学は再度担当者に確認し 1 月 27 日までに回答することとなった。

- ・ 北医大)→授業担当日を 6 月 27 日から 5 月 16 日の 1 限に変更したい。
- ・ 岩医大)→中居教授が循環器疾患の講義を担当。日程は、他の授業担当者の日程を考慮して設定する。
- ・ 神歯大)→北里大から非常勤講師に精神医学をお願いする予定。日程は 5 月 23 日から 5 月 30 日を考えている。

大星議長から、正課で受講できない大学は補助教材として活用いただきたいこと、

またそのことをシラバスに記載いただきたい旨の要望が出された。

3. 「医歯学連携演習」のための e-learning コンテンツ作成について

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、平成 22 年度の授業に使用した資料を用いたものをコンテンツとすることを提案したい。その場合、学内利用に限定したいが、著作権等の問題が生じるのかについて検討願いたい旨の説明があった。その後、PDF 化することで 8 大学が共用できるのではないか等の意見が出され、各大学の授業担当者に確認することとなり、次回再検討することとなった。

4. 平成 23 年度一般医学授業科目について

大星議長から、前回会議で 23 年度の取り込み状況を伺ったが、未確認の大学を含め、再確認したい。正課が無理な場合は副科目としての利用も含め検討願いたい。内科、外科も今後充実させることが重要であるとの説明があり、各大学から次のような報告があった。

- ・ 北医大)→現段階では未だ具体的には詰めていない。
- ・ 岩医大)→皮膚科はビデオ収録済みであり教授会の了承が得られれば実施。産婦人科は担当者の了承が得られれば実施。
- ・ 昭和大)→一般医学科目「からだの病気」を「ひとの病気」に変更。現在これに伴う修正中で 23 年度は部分修正で実施予定。取り込みが具体的にになった時点でお知らせする。
- ・ 鶴見大)→眼科はほぼ大丈夫。皮膚科もモデルシラバスの内容で実施するようにしている。産婦人科もお願いしようと考えている。外科の充実は関係科と調整したい。
- ・ 神歯大)→精神科、皮膚科はモデルシラバスの取り込みをお願いしている。
(議長から、精神科の授業配信も検討願いたいとの依頼があった。)
- ・ 九歯大)→今年度と同程度となりそうであり、耳鼻科の授業配信は難しそうだが確認したい。
- ・ 福岡大)→小児科の授業を配信することは担当者に話している。
(議長から、既に担当教授と相談を行なっているが、産婦人科の授業配信もお願いしたいと考えているとの発言があった。)

5. 基礎医学専門科目「病理診断学」モデルシラバスの作成について(資料 3)

大星議長から、資料 3 は前回会議で提案した「病理診断学」モデルシラバス作成検討の担当者名簿である。なお、神奈川歯科大学と九州歯科大学は事情により今回は参加されないとのことである。シラバスの内容は全身の病理診断的なものと考え

ている旨の説明があった。

ついで、コーディネーターである福岡歯科大学病態構造学分野の岡村准教授から、前回の「組織学」と同様な手法で進めていきたい。関係大学担当者の協力を得てまとめたい旨の発言があり、検討状況は随時報告することとなった。

○次回の開催予定について

次回の第 29 回 TV 会議は、2 月 3 日(木)18 時から 1 時間程度行うこととなった。

以 上

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」
第 29 回口腔医学カリキュラム作成担当者会議 議事概要

期 日：平成 23 年 2 月 3 日(木) 18:00～18:40

場 所：各大学 TV 会議用会議室

出席者：別紙のとおり

協議事項

議長(福岡歯科大学 大星教授)司会の下、次の事項について協議がなされた。

1. 平成 23 年度医歯学連携演習について(資料 1,資料 2)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、資料 1 に基づき、福岡歯科大学以外の大学の授業担当について確認され、本日欠席の北海道医療大学、岩手医科大学及び福岡大学産婦人科の宮本教授については小島教授が改めて確認することとなった。なお、大星議長からこの医歯学連携演習のビデオ閲覧に際しては、授業だけでなく、このようなテレビ会議も全てビデオ閲覧が可能であるため、パスワード管理の徹底をお願いしたいとの要請があった。

2. 「医歯学連携演習」授業アンケートについて(資料 3)

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、資料 3 は、平成 22 年度「医歯学連携演習」授業アンケートに寄せられたコメントを参考に修正を加えた平成 23 年度授業アンケート（案）である。4 月から始まる新年度授業に使用したいので検討いただき次回会議で決定することとしたい旨の説明があった。また、大星議長から、授業担当者へのフィードバックも必要なのでよろしくお願いしたいとの発言があった。

3. 「医歯学連携演習」のための e-learning コンテンツ作成について

医歯学連携演習主管大学である福岡歯科大学 TV 授業責任者の小島教授から、「医歯学連携演習」に使用した資料を PDF 化して e-learning のコンテンツとすることについて各大学の意見を聴取したところ、出席の大学は概ね賛成とのことであったのであらためて「取り決め事項」として提案することとなった。また、大星議長から Copyright の問題はクリアにしておく必要があるとの発言があった。

4. 平成 23 年度一般医学授業科目について

大星議長から、前回会議で 23 年度の取り込み状況を伺ったが、その後の進捗状況を

伺いたい。また、このシステムを有効に活用されるよう前向きな検討をお願いしたい旨の説明があり、各大学から次のような報告があった。

- ・ 昭和大)→本学では学部連携教育を充実させることとしており、これに対応するため歯学部のカリキュラムを調整している段階であり、まだ具体的に組み込めない状況である。
- ・ 鶴見大)→外科、眼科、皮膚科は取り込み予定であるが産婦人科はまだである。平成 23 年度の「医歯学連携演習」は 5 学年が受講するのでシラバスに掲載する。
- ・ 神歯大)→精神医学と皮膚科はモデルシラバスに則った内容で実施予定。精神医学の TV 配信についてはまだ授業担当者に伝えていない。
- ・ 九歯大)→耳鼻科の TV 配信は検討中であるが難しそうである。
- ・ 福岡大)→小児科の授業をビデオ配信することは了解を得た。産婦人科についてはまだお願いしていない。
(産婦人科の配信については大星議長が宮本教授にお願いすることとなった。)

5. 基礎医学専門科目「病理診断学」モデルシラバスの作成について(資料 4)

大星議長から、資料 4 は「病理診断学」モデルシラバス作成のコーディネーターである福岡歯科大学の岡村講師が各大学の担当者と情報交換し現段階でまとめたものである。随時意見を出していただきたい。なお、神奈川歯科大学と九州歯科大学は当初参加されないとのことであったが、神奈川歯科大学からは担当者の推薦があった旨の説明があった。

また、福岡歯科大学の岡部学生部長から、モデルシラバスをまとめるために各大学の担当者には専門家としての協力をお願いしたいとの発言があった。

○次回の開催予定について

次回の第 30 回 TV 会議は、3 月 3 日(木)18 時から 1 時間程度行うこととなった。

以 上

8大学医学系授業科目一覧表

常勤:★

科目	岩手医科大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数 *(時間)	九州歯科大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	鶴見大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	北海道医療 大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	神奈川歯科 大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	昭和大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	福岡歯科大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	福岡大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数
内科学	内科学	★	30	内科学I	★	15	内科学I	★	14	内科学	★	30	内科学	★	35				内科学総論	★	13			
	内科学(実習)		*(4)	内科学II	★	15	内科学II	★	14									内科学各論	★	20				
				内科学III	★	15	内科学III	★	14									臨床内科学 講義	★	7				
外科学	外科学		15	外科学I	★	15	外科学I	★	15	外科学		12	外科学	★	29				外科学総論	★	14			
				外科学II	★	15	外科学II	★	14															
小児科学	小児科学		6	小児科学		8				小児科学		7							小児科学		9	小児医学	★	38
皮膚科学	皮膚科学		6	皮膚科学		8	皮膚科学		6	皮膚科学		3	(皮膚科学)	★	2				皮膚科学		7	皮膚科学	★	20
神経 精神医学	神経精神科学		6	精神医学		8							(精神科学)		4				精神医学・ 心身医学	★	7	精神医学	★	28
臨床 検査医学	臨床検査医学		6																		検査診断学	★	15	
																					診断学実習概説	★	21	
整形外科	整形外科		6							整形外科		4							整形外科		6	整形外科	★	28
産婦人科学	産婦人科学		6							産婦人科学		6							産婦人科学		7	産科婦人科学	★	38
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科学		6	耳鼻科学		15	耳鼻咽喉科学		5	耳鼻咽喉科学		4	(耳鼻 咽喉科学)	★	6				耳鼻咽喉科学	★	10	耳鼻咽喉科学	★	24
眼科学	眼科学		6	眼科学		8	眼科学		5	眼科学		6	(眼科学)	★	2				眼科学		7	眼科学	★	24
泌尿器科学	泌尿器科学		6																		泌尿器科学	★	23	
薬	薬局(実習)		*(18)													くすりと体	★	6			薬剤学	★	8	
医学概論													医学概論	★	14				医・口腔医学 概論	★	32	臨床医学入門	★	26
																		(臨床医学概論)	★	15				
薬理学													臨床薬理学	★	14									
生体管理学													生体管理 医学	★	15									
隣接医学																								
循環・呼吸・ 腎臓病学																			(循環・呼吸・ 腎臓病学)	★	14	腎臓・膠原病学	★	32
																						循環器病学	★	32
																						呼吸器病学	★	29
消化器病学																			(消化器病学)	★	14	消化器病学	★	47
腫瘍・炎症学																			腫瘍・炎症学	★	17	腫瘍・輸血・血液学	★	30
画像診断																			画像診断学総論	★	18			
																			画像診断学各論	★	20			
麻酔科学																			麻酔科学総論	★	17			
																			麻酔科学各論	★	22	麻酔科学	★	16
放射線科学																						放射線科学	★	20
内分泌・ 代謝病学																						内分泌・代謝病学	★	34
形成外科																			美容医療学	★	13	形成外科学	★	12
救急 救命医学																						救命救急医学	★	17
脳神経病学																						脳神経病学	★	40
歯学 口腔外科学																						歯科口腔外科学	★	12

科目	岩手医科大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数 *(時間)	九州歯科大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	鶴見大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	北海道医療 大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	神奈川歯科 大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	昭和大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	福岡歯科大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数	福岡大学	常勤 ／ 非常勤	コマ数
体の病気																からだの 病気Ⅰ・Ⅱ	★	92						
																からだの 病気Ⅲ・Ⅳ	★	75						
院外臨床 研修																						院外臨床研修	★	
基礎臨床 統合講義																						基礎臨床統合講義	★	77
臨床修練																						臨床修練Ⅰ		
																						臨床修練Ⅱ		
各科総括 講義																						各科総括講義	★	
感染学																						感染学	★	12
リハビリ テーション学				リハビリ テーション 学		8																		
臨床検査										臨床検査	★	8												
社会医学																						社会医学	★	57
社会と 医学医療																社会と 歯科医療	★	13						

連携大学実施担当者・カリキュラム作成担当者に対するアンケート集計結果

1 口腔医学教育を実施する場合、授業科目として必要と思われるものを挙げてください。

a 歯学部の場合：

教養系教育	生命科学系教育	一般医科系教育	口腔系臨床教育
国語（コミュニケーション学）1 倫理学 1 統計学（推計学）1 法学（医事法学）1 生物学 1 化学 1 物理学 1	解剖学 4、 組織学 3 生理学 4 生化学 4 細菌学（微生物学）4 薬理学 4 病理学 4 生体材料学（理工学：人工臓器学）2 衛生学・公衆衛生学 3 口腔保健学 2 社会歯科学（歯科医療社会学）3 免疫学 3 分子生物学 1 生命科学 1	内科学 8 外科学 8 耳鼻咽喉科学 8 眼科学 7 皮膚科学 6 精神科学 6 産婦人科学 5 小児科学 5 整形外科学 4 脳神経学（神経内科学）3 麻酔学・救急医学、2 再生医学 2 放射線学 1 腫瘍学 1 心療内科 1 法医学 1 社会系医学 1 泌尿器科学 1 臨床検査学 1 循環器 1 消化器 1 腎臓 1 神経 1 呼吸器 1 血液 1 形成外科 1 遺伝子治療 1 医療心理学 1 リハビリテーション学 1 医学総論 1 症候学 1 診断学 1 臨床医学演習（症例ベースのPBLなど）1	口腔外科学 4 歯科放射線学 3 歯科麻酔学 2 歯周病学 2 障害者歯科学 2 修復・歯内療法学 2 補綴学 2 小児歯科学 2 口腔内科学 1 歯科矯正学 1 口腔インプラント学 1 予防歯科学 1 有病者歯科学 1 高齢者歯科学 1 救命救急歯科学 1

現行のすべてが必要であると考えています。（1名）、 回答なし（2名）

頭頸部学、上部消化管病学、上部気道病学、歯周病と全身疾患等の統合講義（1名）

b 医学部の場合：

口腔系臨床科目			
口腔外科学 6	口腔内科学 1	口腔科 1	歯科口腔外科 1
歯周病学 2	歯科保存学 2		
口腔医学総論（特に歯周病、顎顔面補綴、外科的矯正治療など） 2			
歯科補綴学 2			
有病者歯科学 1	高齢者歯科学 1	障害者歯科学 2	
歯科矯正学 1			
予防歯科学 1	口腔保健学 1	社会歯科学 1	
粘膜免疫学 1			
再生医学 1			
歯科理工学 1			

歯周病と全身疾患、頭頸部学等の統合講義（1名）

2 臨床実習を除く総授業時間の中で教養系教育、生命科学系教育（基礎系教育）、一般医科系臨床教育及び口腔系臨床教育（歯科系臨床教育）の比率はどの程度が適当と考えますか。

教養系教育	生命科学系教育	医科系臨床教育	口腔系臨床教育	所属学部
5～20% (10%)	20～40% (30%)	10～40% (20%)	30～60% (40%)	歯学部
20%	35～40%	40%	5%	医学部

参照：現行

教養系教育	生命科学系教育	医科系臨床教育	口腔系臨床教育	所属学部
10～27%	25～35%	2～15%	37～55%	歯学部
18%	40%	40%	2%	医学部

3 補綴・保存修復系口腔医学やリハビリテーション医学の生命科学的基盤をどのように考えますか。

- ・ 保存修復系口腔医学やリハビリテーション医学の理解には生命科学的基盤をしっかりと持ってないと困難。
- ・ 補綴・保存修復系口腔医学の教育は、摂食嚥下やリハビリテーション分野へ発展など、現在よりも生命科学的基盤に立脚した傾向を強めるべき。
- ・ 現在の補綴・保存修復系口腔医学の教育は、あまりにも技術や手技の習得に走り過ぎて生命科学的基盤に立脚していない。
- ・ 歯・歯周組織・顎骨の炎症反応および組織修復・再生機構を生理・生化学的（分子生物学を含む）に詳しく理解した上で、すなわち、この理解を重要な生命科学的基盤として、現行の臨床手技を見直す必要がある。
- ・ 技工を中心としたこれまでの保存補綴医療から口腔組織を中心としたリハビリテーション医療に変更すべきである。
- ・ 口腔のみのリハビリテーション医学は存在できず、全身的な生命科学的基盤に立ったり

ハビリテーション教育が必要。

- ・ 補綴・保存修復系教育だけを行うのであれば、総合的な医科系教育の必要性はない。
- 4 口腔医学の中で補綴・保存系教育の技術教育のあり方をどのように考えますか。
- ・ 学部での技術教育は、シミュレーション教育に中心をおくべき。
 - ・ 基本的な手技（例えば、レジン充填、咬合採得、局所麻酔など）は相互実習で取り入れるべきである。
 - ・ 実際の臨用面では技工士の分業が進んでいるから、卒後の専門家の教育で重点的に行われるべき。
 - ・ 現在の医療事情では、モデル等を使った実習と見学実習にならざるを得ない。技術教育の大半は卒後教育として指導されることになる。したがって、学部教育においては従来よりも技術教育の比重を軽くすべきである。
 - ・ 歯科技工士とのチーム医療を行う上で、非観血的操作については技工士の業務とすることが望ましい。そのため、保存補綴系実習についてはプロセス重視の実習に切り替え、時間短縮を図る必要がある。
 - ・ 医学科の整形外科における講義に義手、義足の実習は入っていないように、歯科の歯冠修復物や義歯などの作成の技術教育のあり方は歯科技工士が行うのが、職域分担として理想的と考える。

- * 歯科治療に特化した技術と考える。
- * 歯科大学・大学歯学部における技術教育の重要性を低く評価すべきでない。この実習がないと、チェアサイドでの調整や修理が多い臨床の現場に対応できず、装置の改良等の進展を期待できない。
- * 補綴・保存系教育は歯科教育の中心をなすもので、不可欠。
- * 口腔医学という枠組みができたとしても補綴・保存系の技術そのものに大きな変化があるとは思えない。保存・補綴系の技術修得が、口腔機能の回復・保全のみならず全身の機能回復にも関与している可能性が高いことを理解したうえで、確固たるエビデンスを構築し、その修得に取り組む必要がある。

5 貴大学では介護施設実習を行っていますか。

1) 回答大学すべてで介護実習を行っている。

(看護実習を行っている大学が1校、病院見学実習を行っている大学が1校)

7 設問5で行っていると回答された先生と設問6で導入する予定があると回答された先生にお聞きします。

介護実習では口腔ケアは目的に入っていますか。

入っている 6大学

入っていない 2大学（関わらせるようにしている 1大学：今後入れる予定 1大学）

8 現在行っているまたは導入を予定している介護実習の実習時間数と具体的な内容をお教えください。

北医大	1 学年 5 学年	半日（見学） 1 日（実習）			臨床実習として実施 （5 学年）
岩手医大	1 学年 5 学年	4 日間 2～3 日	7～8 名 1 年に帯同		入院病棟での実習も あり（1 年）
神歯大	2 学年 5 年次	半日を 2 回 現在は中断（復活 予定） 障害者歯科学の 一環として実施		口腔ケアは見 学	食とコミュニケーションをテーマ 病院実習（5 年次）
鶴見大		1 日間		高齢者の「栄 養」の問題	特別養護老人ホーム 学外実習
九歯大		3 時間（半日）			介護施設、リハビリ テーション病院、老 人病院での介護見学 及び一部介護実習
福歯大	1 学年 3 学年 5 学年	半日（3 回） 1 日（宿泊） 3 日間	5 名 8 名 5 名	体験 食事介助 口腔ケア	
福大	3 学年 3 学年（看護）	3 日間 3 日間	4-6 名 6-8 名		フィールド実習 看護学科介護実習で は口腔ケアの目的が 入る
昭和大	1 学年 2 学年 3 学年 5 学年	3 日間 1.5 日間 2 日間 2 日間	全員 〃 〃 〃	体験 〔口腔ケア 食事介助 一般介護〕	介護施設など 介護施設など 療養施設など 授産施設など

アンケート

以下のアンケートにお答えください。

() には数字あるいは文字のご記入をお願いします。選択肢には○をお付けください。

1) 性別をお答えください。 ☐ 男 ☐ 女

2) 年齢をお答えください。 () 歳

3) 歯学部（歯科大学）卒業後何年目ですか。 () 年目

4) 以下の診療をしていますか（複数回答可）。

☐ 訪問歯科診療 ☐ インプラント治療 ☐ 障害者診療 ☐ 歯科口腔外科 ☐ なし

5) 患者の急変により、診療中に医師や救急車を要請したことがありますか（ある場合は () に具体的にご記入ください）。

☐ ない ☐ ある ()

6) 現在の歯科医師に欠けている資質はどれだと思いますか（複数回答可）。

☐ 臨床の技能 ☐ 医学知識 ☐ 倫理観 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 一般教養

☐ その他 ()

7) 歯科医に医学一般の知識はどの程度必要ですか（回答 1 つ）。

☐ 広範な知識、全般的知識

☐ 歯科診療の現場で頻繁に遭遇する医科疾患の知識。

☐ 国家試験合格に必要な医学一般の知識

8) 歯科診療に必要な医学一般の知識とはどのようなものですか（複数回答可）。

☐ 糖尿病や高血圧症などの Common disease ☐ 緊急時の対応

☐ 薬剤の効能と副作用 ☐ 口腔症状から発見できる全身疾患

☐ 精神疾患 ☐ 妊娠中の管理

☐ 小児疾患 ☐ 感染防止対策

9) 実際の歯科診療中に医学一般の知識がどの程度必要だと感じますか。

診療する患者さんのおよその割合でお答えください（回答 1 つ）。

☐ 0－10% ☐ 10－30% ☐ 30－50% ☐ 50%以上

10) あなたが受けた医学一般の授業の量（時間数）はどうでしたか（回答1つ）。

- ☐ 多すぎる ☐ 適当 ☐ 少なすぎる ☐ わからない

11) あなたが大学で受けた医学一般の授業は現在の臨床に役立っていますか（回答1つ）。

- ☐ とても役立っている ☐ 役立っている ☐ あまり役立っていない ☐ 全く役立っていない

12) 11)で役立っていないと答えた方は、何故ですか（回答1つ）。

- ☐ 授業の内容が不適切だった。
- ☐ 内容を覚えていない。
- ☐ 習った内容と現在の情報が異なる。
- ☐ 上記以外（ ）

13) あなたは「口腔医学」と聞いて、何を連想しますか（いちばん近い回答を1つ）。

- ☐ 医学の一分野
- ☐ 従来の歯学のこと
- ☐ 従来の口腔外科のこと
- ☐ 歯学の発展型
- ☐ 医学全般を充実させた歯学
- ☐ 内科学を充実させた歯学
- ☐ 救急医学を充実させた歯学
- ☐ 有病者に対応できる歯学
- ☐ その他（ ）

14) 20年後の歯科医院ではどのような患者さんが多くなると思いますか（複数回答可）。

- 齲歯の患者
- インプラント希望の患者
- 全身疾患のある患者
- 歯周疾患の患者
- 審美的治療の患者
- その他（ ）

15) その他口腔医学に関してお気づきの点がありましたら、ご記入ください。

医歯学連携演習

後期 18コマ

評価責任者：小島 寛

担当教員：小島 寛、大星 博明、
 廣藤 卓雄、中島與志行
 内藤 徹、坂上 竜資、
 城戸 寛史、永井 淳
 徳本 正憲、稲光 哲明
 池邊 哲郎、米田 雅裕
 山崎 純、谷口 省吾
 篠原 徹雄、萩家 康弘
 畑 快右、原田 博文
 大関 悟
 子島 潤（鶴見大学）
 小川 匠（鶴見大学）
 濱田良樹（鶴見大学）
 宮本新吾（福岡大学）
 中島秀彰（九州歯科大学）
 高橋哲（九州歯科大学）

（一般目標）

口腔医学の観点から歯科診療上重要な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、口腔と全身の関わりを理解する。

（教育方法）

教科書、配布資料、PC を使用しての演習

記録媒体を用いた演習

TV システムを利用した他大学との連携演習

（評価）

演習での授業態度、筆記試験による評価

（参考書）

杉本恒明 他編、「内科学」第9版、朝倉書店、2008（内科学の代表的なテキスト）

井村裕夫 編、「わかりやすい内科学」第3版、文光堂、2008（3 学年で使用した基礎的な教科書）

子島潤 他編、「歯科診療のための内科」第1版、永末書店、2007

野間弘康 編、「標準口腔外科学」第3版、医学書院

宮崎 正 編、「口腔外科学」、医歯薬出版

内山健志 他編、「サクシント口腔外科学」、学建書院

角 保徳他 編、「一からわかる口腔外科疾患の診断と治療」、医歯薬出版

回	授業日	授 業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	口腔医学キーワード
1	4/5 1 限	内 科 学（大星博 明） 総合歯科学（廣藤 卓雄）	ユニット1 歯科診療時の 全身状態の把握	歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。	1) 診察時に貧血および黄疸の有無を判断する。 2) 末梢血検査データを評価できる。 3) 血液生化学検査データを評価できる。 4) 尿検査データを評価できる。 5) 血清学的診断方法が理解できる。	眼瞼結膜、眼球結膜、口唇・爪・手掌の色、舌炎、脈拍数、バイタルサイン 鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、巨赤芽球性貧血、白血病、血小板減少症 肝・腎機能、糖・脂質代謝、逸脱酵素 タンパク尿、血尿、尿糖、ケトン体、尿路感染症 ウイルス性疾患、自己免疫疾患、C R P

回	授業日	授 業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	口腔医学キーワード
2	4/12 1 限	鶴見大学 （子島潤） （小川匠） （濱田良樹）	ユニット2 頭頸部領域の 診断と治療 1	歯科診療上重要な頭 頸部領域の主な疾患 の病因・病態と診 断・治療を学び、歯 科疾患との関わりを 理解する。	1) 睡眠時無呼吸症候群 の病態を説明でき る。 2) 終夜睡眠ポリグラフ 検査結果を評価でき る。 3) 睡眠時無呼吸症候群 に対する各種治療法 を列挙し、口腔内装 置の奏効機序と適応 基準を説明できる。 4) 睡眠時無呼吸症候群 に対する外科的治療 法を説明できる。	いびき、エプワース眠気尺 度、終夜睡眠ポリグラフ検査 P S G、鼻腔通気試験、無呼 吸低呼吸指数A H I、閉塞型 睡眠時無呼吸症候群O S A、 口腔内装置O A、鼻持続用圧 呼吸 n C P A P、口蓋垂軟口 蓋咽頭形成術U P P P、顎変 形症過換気症候群、喘息発 作、肺塞栓症 狭心症、心筋梗塞、解離性大 動脈瘤、自然気胸
3	4/19 1 限	内科学（中島與志 行） 高齢者歯科学（内 藤徹）	ユニット3 歯科診療に影 響する疾患	歯科診療中に遭遇し やすい疾患（common diseases）の概要を 再学習し、その疾患 と関連する歯科治療 上の注意点を理解す る。	1) 主な出血傾向をきた す疾患の概要を説明 し、歯科治療上の注 意点を述べられる。 2) 歯科治療中の虚血性 心疾患の増悪・発作 について説明し、注 意点を述べられる。 3) 歯科治療中の主な不 整脈発作の心電図上 の特徴を説明でき る。 4) 高血圧患者の歯科治 療上の注意点を述べ られる。	特発性血小板減少性紫斑病、 血友病、白血病、肝硬変、播 種性血管内凝固（D I C）、 凝固因子、抜歯後出血、再生 不良性貧血 安定狭心症（労作性、冠攣縮 性）、急性冠症候群（急性心 筋梗塞、不安定狭心症）、心 電図（ST 上昇、ST 低下、異常 Q 波）、 期外収縮、心房細動、心室頻 拍、心室細動、房室ブロック、 心臓ペースメーカー、 白衣高血圧、仮面高血圧、悪 性高血圧
4	4/26 1 限	福岡大学（宮本新 吾） 歯周病学（坂上竜 資） 口腔インプラント科（城戸寛史） 内科（大星博明）			1) 口腔保健状態を良好に 維持するための留意点 とその医学的背景につ いて説明できる。 2) 糖尿病患者の歯科治 療上の注意点を述べ られる。 3) 歯科治療と関連が深 い細菌感染症の病態 を説明できる。 4) 歯科診療時に注意を 要する内分泌疾患に ついて説明できる。	妊娠徴候、つわり、全身の変 化（循環器・呼吸器・泌尿器・ 内分泌）、妊娠中毒症 糖尿病、低血糖症、糖尿病の 慢性合併症（網膜症、腎症、 神経障害）、易感染性、創傷 治癒遅延 レンサ球菌感染症、感染性心 内膜炎、敗血症、弁膜症、一 過性菌血症 副腎不全、副腎クリーゼ、甲 状腺機能亢進症（バセドー 病）、クリーゼ、血管収縮剤
5	5/10 1 限	九州歯科大学（中 島秀彰） 九州歯科大学（高 橋哲） 歯周病学（永井 淳）			1) 担がん患者の歯科治 療上の注意点を説明 できる。 2) 免疫不全状態の患者 とその歯科治療上の 注意点を説明でき る。 3) 歯科診療時に注意を 要するアレルギー性 疾患について説明で きる。	抗がん剤、免疫不全、予後・ 余命、緩和医療 臓器・骨髄移植、免疫抑制剤、 癌終末期、膠原病およびリウ マチ性疾患、ステロイドホル モン、GVHD 薬物アレルギー、歯科用金属 によるアレルギー反応

回	授業日	授 業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	口腔医学キーワード
6	5/17 1 限	内科学（大星博 明、徳本正憲） 高齢者歯科学（内 藤徹）	ユニット4 高齢者	加齢・老化に伴い増 加する疾患を学び、 高齢者の歯科治療上 の注意点を理解す る。	1) 高齢者に多く見られ る全身疾患を列举で きる。 2) 高齢者によく見られ る病態を学び、その 治療と予防を説明で きる。 3) 加齢・老化に伴う臓 器の変化と治療上の 留意点を説明でき る。 4) 高齢者の嚥下障害の 特徴と対応を説明で きる。 5) 認知症の症候、診断 と治療を説明でき る。	高血圧、虚血性心疾患（心筋 梗塞、狭心症）、脳血管障害、 認知症、骨粗鬆症、肺炎、脱 水 誤嚥、転倒、失禁、褥瘡、ADL （日常生活動作能力）低下、 腎機能障害、肝機能障害、視 力・聴力障害、動脈硬化、呼 吸機能低下、運動機能低下、 高齢者の薬物療法、 脳卒中、球麻痺、仮性球麻痺、 認知症、誤嚥性肺炎 アルツハイマー病、アルツハ イマー型認知症、脳血管性認 知症、加齢、認知能
7	5/24 1 限	心療内科学（稲光 哲明） 口腔外科学（池邊 哲郎） 総合歯科学（米田 雅裕）	ユニット5 精神医療と歯 科心身症	歯科診療に必要な精 神疾患や心身症を理 解する。	1) 歯科領域の心身症を 5つあげ、診療にお ける注意点を述べら れる。	舌痛症、顎関節症、口腔異常 感症、非定型口腔顔面痛、義 歯不適応症、心身症、心身医 学、心身相関、口臭症（自臭 症）
8	5/31 1 限	心療内科学（稲光 哲明） 分子機能制御学 （山崎純）			2) 主な精神疾患を6つ あげ、診断法と治療 法を述べられる。	統合失調症、気分障害（躁う つ病）、不安障害、薬物依存、 てんかん、認知症、幻覚、妄 想、抑うつ、自殺、恐怖、不 安、精神依存、身体依存、退 薬徴候、せん妄、見当識、抗 精神病薬、抗うつ薬、抗不安 薬、抗てんかん薬、仮面うつ 病、パニック障害
9	6/7 1 限	心療内科学（稲光 哲明） 麻酔科学（谷口省 吾）			3) 不安と痛みの心理学的 アプローチの方法 について述べられ る。	歯科治療恐怖症、過換気症候 群、神経反射性失神（神経調 節性失神）、慢性疼痛、疼痛 性障害、心因性疼痛
10	6/7 2 限	外科学（篠原徹 男） 形成外科学（萩家 康弘） 口腔外科学（池邊 哲郎）	ユニット6 全身管理 基本的外科手 技・外傷	栄養管理の基礎を理 解する。	1) 栄養状態を簡潔に評 価できる。 2) 経静脈栄養と経腸栄 養の長所・短所を説 明できる。	体重変化、皮下脂肪、BMI 中心静脈栄養、高カロリー輸 液、胃瘻、空腸瘻、経鼻経管 栄養、PEG
				歯科診療に役立つ基 本的な外科手技を理解 する。	1) 外科手技の基本的考 え方について説明で きる。 2) 創傷治癒機転とそれ に関与する因子を説 明できる。	清潔と不潔の区別、器具の清 潔操作 創傷治癒、創縫合、デブリド マン、ドレナージ

回	授業日	授 業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	口腔医学キーワード
1 1	6/14 1 限	分子機能制御学 （山崎純） 内科学（大星博 明）	ユニット7 薬理学・薬剤学 1	歯科診療時に処方する、あるいは他施設において処方されている代表的な薬剤の適応、効能、副作用を学び、特に歯科治療に関連する注意点と対処方法を理解する。	1) 副腎皮質ホルモンの効能と副作用を説明できる。 2) 出血傾向をきたす薬剤を列举し、その効果、必要性、半減期、対処法を述べる。 3) 降圧薬、抗不整脈薬、強心薬の副作用を説明できる。 4) 糖尿病治療薬の副作用を説明できる。 5) 高齢患者の薬物治療における注意点を説明する。	易感染性、高血糖、消化管出血、骨粗しょう症、ステロイド離脱症候群、ワルファリン、アスピリン、クロピドグレル、シロスタゾール、抗凝固療法、抗血小板療法、強心剤
1 2	6/14 2 限	分子機能制御学 （山崎純） 外科学（篠原徹 男）			6) 細菌・真菌・ウイルス感染症治療に使用される代表的な薬剤の適応、効能、副作用を説明する。 7) 非ステロイド性消炎鎮痛剤（N S A I D）の適応、効能、副作用を説明する。 8) 免疫抑制剤の適応、効能、副作用を説明できる。	抗生物質、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、感受性試験、薬剤耐性、菌交代現象、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）、腎障害 シクロオキシゲナーゼ阻害剤、消化管出血、アスピリン喘息、ライ症候群 免疫抑制剤、拒絶反応、易感染性、シクロスポリン、タクロリムス降圧薬、抗不整脈、
1 3	6/21 1 限	分子機能制御学 （山崎純） 口腔外科学（池邊 哲郎）	ユニット8 薬理学・薬剤学 2	口腔症状として副作用が出現する薬剤の適応と効能を理解できる。	1) 歯肉増殖症をきたす薬剤と、その適応となる疾患を列举できる。 2) 顎骨壊死・骨髄炎、治癒不全をきたす薬剤と、その適応となる疾患を列举できる。 3) 歯の着色をきたす薬剤と、その適応となる疾患を列举できる。 4) 口腔ジスキネジアを誘発する薬剤と、その適応となる疾患を列举できる。 5) 口腔乾燥を誘発する薬剤と、その適応となる疾患を列举できる。 6) 局所麻酔薬を投与するときに注意すべき疾患を列举できる。	フェニトイン、シクロスポリンA、カルシウム拮抗薬 ビスフォスフォネート、ステロイド テトラサイクリン 向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬 向精神薬、抗うつ薬、抗ヒスタミン薬、抗コリン薬、精神安定剤、降圧剤 甲状腺機能亢進症、高血圧、狭心症、頻脈性不整脈

回	授業日	授 業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	口腔医学キーワード
1 4	6/21 2 限	口腔外科学（池邊哲郎） 内科学（大星博明） 眼科学（畑快右）	ユニット 9 口腔症状から発見できる全身疾患	口腔症状から発見できる全身疾患を症候別に理解できる。	1) 口腔粘膜のびらん・潰瘍性病変から発見できる全身疾患を列举する。 2) 歯肉出血や抜歯後出血から発見できる全身疾患を列举する。 3) 口腔顎顔面領域の疼痛から発見できる全身疾患を列举する。 4) 口腔顎顔面領域の神経学的異常から発見できる全身疾患を列举する。	ウイルス感染症、悪性リンパ腫、シェーグレン症候群、ベーチェット病、結核、梅毒、 多型滲出性紅斑、尋常性天疱瘡、クローン病 白血病、特発性血小板減少性紫斑病、血友病、抗癌剤による骨髄抑制 三叉神経痛、心身症、帯状疱疹、脳腫瘍、白血病、悪性リンパ腫、帯状疱疹
1 5	6/28 1 限	耳鼻咽喉科学（原田博文） 口腔外科学（大関悟）	ユニット 10 頭頸部領域の診断と治療 2	歯科診療上重要な頭頸部領域の主な疾患の病因・病態と診断・治療を学び、歯科疾患との関わりを理解する。	1) 口腔内癌と併発しやすい癌腫を列举できる。 2) 口腔内の腫瘍から発見できる全身疾患を列举できる。 3) 口腔内の色素沈着から発見できる全身疾患を列举できる。	喉頭癌、咽頭癌、食道癌、中枢型肺癌、扁平上皮癌 悪性リンパ腫、転移性腫瘍、von Recklinghausen 病 von Recklinghausen 病、アジソン病、Peutz-Jeghers 症候群
1 6	6/28 2 限	耳鼻咽喉科学（原田博文） 口腔外科学（池邊哲郎）			4) 中耳疾患と顎関節疾患を鑑別できる。 5) 鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性について説明できる。 6) 咽頭疾患の病因・病態と診断・治療を説明できる。 7) 歯科診療時に診断できる頸部腫瘍を列举できる。	中耳炎、顎関節炎 副鼻腔炎、歯性上顎洞炎、術後性頬部嚢胞、上顎洞癌 咽頭炎、咽頭癌、扁桃周囲炎 頸部正中嚢胞、側頸部嚢胞、頸部リンパ節炎、甲状腺炎、甲状腺腫瘍、転移性リンパ節腫脹、悪性リンパ腫
1 7	7/5 1 限	麻酔科学（谷口省吾） 高齢者歯科学（内藤徹）	ユニット 11 救急医療	歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。	1) AEDを活用することができる。 2) 意識消失した患者の対応と鑑別疾患を列举できる。 3) 呼吸困難を訴える患者の対応と鑑別疾患を列举できる。 4) 胸痛を訴える患者の対応と鑑別疾患を列举できる。	気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ、AED、心室細動 気道確保、気道異物除去、気管支鏡、気管切開、上部消化管内視鏡、バイタルサイン 脳梗塞、脳出血、ハリーコール
1 8	7/5 2 限	総合歯科学（米田雅裕） 内科学（大星博明、徳本正憲） 障害者歯科学（小島寛） 耳鼻咽喉科学（原田博文）	ユニット 12 安全な医療	院内感染防止対策方法を理解する。	1) 院内感染経路および院内感染防止対策を説明できる。 2) 針刺し事故の予防および対処法を説明できる。 3) 流行性呼吸器感染症の伝播と感染予防対	サーバイランス、スタンダードプレコーション、手洗い、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）、菌交代現象・菌交代症、日和見感染症、 歯科医療器具の滅菌・消毒 針刺し事故、B 型および C 型肝炎ウイルス、HIV、スタンダードプレコーション、歯科医療器具の滅菌・消毒、医療廃棄物処理 インフルエンザ、結核、予防接種、新型コロナウイルス（SARS）、新型

回	授業日	授 業 担当教科	ユニット番号 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	口腔医学キーワード
					策を説明できる。	インフルエンザ、感染経路、 パンデミック感染
				医療事故の発生予防 と発生時の対処方法 を理解する。	1) 誤嚥・誤飲時の対応 を説明できる。 2) 医療事故防止対策を 説明できる。	気道閉塞、バイタルサイン、 ハリーコール、気管切開 ヒューマンエラー、インシデ ント・アクシデント報告、ハ インリッヒの法則、ダブルチ ェック、患者誤認、口腔内損 傷

日程	回	学習目標 G I O	表題名		福歯大	鶴見大	九歯大	北医療大	神歯大	福大医	岩手医大	昭 和 大			
				時間	80分	85分	90分	80分	75分	90分	90分	60分			
4/5(月) 1 限	1	歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。	1)医歯学連携演習の目的	5	配信	受講	受講	受講	受講						
			2)バイタルサイン・貧血・黄疸の確認	15											
			3)検査データの評価（末梢血／血液生化学／尿）	30											
			4)血清学的診断が可能な主な疾患	20											
4/12(月) 1 限	2	睡眠時無呼吸症候群	睡眠時無呼吸症候群の病態		受講	配信	受講	受講							
			終夜睡眠ポリグラフ検査結果の評価												
			睡眠時無呼吸症候群に対する各種治療法、口腔内装置の奏効機序と適応基準												
			睡眠時無呼吸症候群に対する外科的治療法												
4/19(月) 1 限	3	要（こ）を再学習し、その疾患と関連する歯科概要	1) 高血圧患者の歯科治療上の注意点	25	配信	受講	受講	受講							
			2) 虚血性心疾患の既往のある患者の歯科治療上の注意点	25											
			3) 出血傾向のある患者の歯科治療上の注意点	20											
4/26(月) 1 限	4		1)口腔保健状態を良好に維持するための留意点とその医学的背景	15	受講	受講	受講	受講	受講	配信	受講				
			2)糖尿病患者の歯科治療上の注意点	20	配信										
			3)弁膜症・心内膜炎患者の歯科治療上の注意点	15											
			4)ステロイド・甲状腺ホルモン治療中の患者の歯科治療上の注意点	20											
5/10(月) 1 限	5		1)担当ん患者の歯科治療上の注意点	10	受講	受講	配信	受講							
			2)免疫不全状態について	15											
			3)免疫不全患者の歯科治療上の注意点	20											
			4)歯科診療時に注意を要するアレルギー性疾患について	15	配信		受講								
5/17(月) 1 限	6		加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。	1)腎疾患を有する患者の歯科治療	25	配信	受講	受講	受講		受講				
				2)慢性期の脳卒中患者の歯科治療	25										
				3)認知症患者の歯科治療上の注意点	20										
5/24(月) 1 限	7		歯科診療症に必要とする精神疾患や心身	1)心身症	20	配信	受講	受講	受講						
				2)口腔心身症1（舌痛症他）	25										
				3)口腔心身症2（自臭症他）	25										
5/31(月) 1 限	8			1)精神疾患の診断	25	配信	受講	受講							
				2)精神疾患の病態と薬物療法	30										
				3)精神疾患の心理療法	15										
6/7(月) 1 限	9			1)歯科診療で見られる不安による疾患	20	配信	受講	受講							
				2)慢性疼痛のペインコントロール（心療内科から）	15										
				3) 慢性疼痛のペインコントロール（ペインクリニックから）	15										
6/7(月) 2 限	10	栄養管理 外科手技		1)経口摂取不能患者の対応法	35	配信	受講	受講							
				2)創傷治癒についての最近の考え方	35										
6/14(月) 1 限	11	治療に副作用的な副作用を理解する。歯科診療時に処方されている薬物の適応・効果がある。		1)抗血栓薬の注意点	20	配信	受講	受講							
				2)降圧薬の注意点	20										
			3)糖尿病治療薬の注意点	20											
			4)高齢者での薬物治療	10											
6/14(月) 2 限	12		1)抗菌薬の使い方と注意点	35	配信	受講									
			2)NSAIDの適応・効能・副作用	35											
6/21(月) 1 限	13		口腔症状として副作用が出現する薬剤の適応と効能を理解する。	1)薬剤と歯肉病変	20	配信	受講	受講							
				2)薬剤と顎骨病変	20										
				3)口腔ジスキネジアとその原因薬剤	10										
				4)ドライマウスとその原因薬剤	20										
6/21(月) 2 限	14		口腔から発見できる全身疾患を症候別に理解する。	1)口腔出血とその原因疾患	25	配信	受講								
				2)口腔粘膜病変とその原因疾患	25										
				3)口腔と眼に発症する全身疾患	20										
6/28(月) 1 限	15	び、病態と診断・治療の関連を学ぶ。	1)口腔癌と併発しやすい癌腫	25	配信	受講	受講								
			2)口腔内の腫瘍から発見できる全身疾患	25											
			3)口腔内の色素沈着から発見できる全身疾患	25											
6/28(月) 2 限	16		1)中耳疾患と顎関節疾患を鑑別	15	配信	受講									
			2)鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性	15											
			3)咽頭疾患の病因・病態と診断・治療	15											
			4)歯科診療時に診断できる頸部腫瘍	25											
7/5(月) 1 限	17		歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。	1)呼吸困難を訴える患者の鑑別と対応	25	配信	受講	受講							
				2)胸痛を訴える患者の鑑別と対応	25										
				3)意識消失した患者への対応	20										
7/5(月) 2 限	18		院内感染防止対策を理解する。 医療事故の発生予防と発生時の対処法を離開する。	1)院内感染防止対策	10	配信	受講								
				2)針刺し事故の予防および対処法	10										
				3)流行性呼吸器感染症	15										
		4)誤嚥・誤飲時の対応		15											
		5)医療事故防止対策		15											

平成二十二年度は参加するとしても録画講義受講または録画講義配信

平成二十二年度は参加するとしても録画講義受講または録画講義配信

大学間で実施する TV 配信授業に関する取り決め事項

1. TV 授業の主管校

- ① TV 授業の実施にあたっては、授業管理を行うため、科目毎に主管校を置く。

2. TV 授業責任者、TV 授業配信調整担当者およびTV 授業事務連絡担当者

- ① 各連携大学は、当該大学での授業遂行を管理するとともに、授業配信に支障が生じたときには授業代行等の対応を行うため、TV 授業責任者を置き、TV 授業に出席させる。
- ② 各連携大学は、当該授業を円滑に行うため、TV 授業装置の操作を担当する TV 授業配信調整担当者を置く。ただし、TV 授業配信調整担当者は TV 授業責任者と同一でも可とする。
- ③ 各連携大学は、TV 授業に関する連携大学間の連絡調整を行うため、TV 授業事務連絡担当者を置く。

3. 授業講師に係る事務手続き

- ① 他大学からの配信による TV 授業を正規の授業として受講する場合、受講大学は当該授業講師を非常勤講師として取り扱う。
- ② 主管校は授業講師の所属大学の承諾ならびに所定の経歴書の交付を受け、授業担当教員一覧を作成する。承諾書及び経歴書は主管校が保管する。
- ③ 各連携大学は、授業担当教員一覧に基づき非常勤講師としての手続きを行う。ただし、非常勤講師手続きに経歴書が必要な大学に対しては、写を提供する。
- ④ 非常勤講師手当は発生しないものとする。
- ⑤ 非常勤講師委嘱状は主管校がまとめて発出する。

4. シラバスへの授業講師名記載

- ① 各連携大学はシラバスに TV 授業講師名を記載する。

5. 授業前のTV 送受信状態の確認

- ① 授業前の送受信状態の確認は、TV 授業配信調整担当者が行う。
- ② 確認作業は授業開始 30 分前からとする。
- ③ とりまとめ役は、主管校の TV 授業責任者とする。

6. 授業資料

- ① TV 授業講師は、当該大学の TV 授業責任者を通じて授業日の 14 日前までに主管校の

TV 授業責任者に授業資料を届ける。ただし、第 1 回目は 7 日前までとする。

- ② 主管校の TV 授業責任者は、受講大学の TV 授業責任者に速やかに資料を届ける。
- ③ 受講大学の TV 授業責任者は授業資料を事前（前回授業時等）に学生に配布する。ただし、第 1 回目は授業当日に資料を配布する。
- ④ 資料の中に他からの引用が含まれる場合、資料中にその旨を記載する。
- ⑤ 受講大学の教員等は、授業資料を無断で転用しない。
- ⑥ 他者に利用されたくない資料は配布しない。または、電子媒体による配布をせず、紙媒体で配布する。
- ⑦ 録画された授業は連携大学の共有財産とする。
- ⑧ 録画された授業の利用は、連携大学内に限る。

7・受講学生の到達度の評価方法

- ① TV 授業講師は別に定める数の客観試験問題を作成し、当該大学の TV 授業責任者を通じて主管校の TV 授業責任者に届ける。主管校の TV 授業責任者は各連携大学の TV 授業責任者に客観試験問題を配布する。
- ② TV 授業への参加の有無にかかわらず、同科目のシラバスに沿った授業を行った大学は TV 授業講師が作成した客観試験問題を利用できるものとする。
- ③ 単位認定の判定は各連携大学に委ねる。

8. 学生による授業評価

- ① 各連携大学は、予定されていた TV 授業受講が終了した段階で、学生による当該科目の授業評価をアンケートにより行う。アンケート用紙は、自己点検・評価委員会が作成する。
- ② オムニバス形式の授業では、①に加えて毎回の授業終了時に学生による授業評価をアンケートにより行う。アンケート用紙は、カリキュラム作成担当者会議が作成する。
- ③ 上記①、②いずれの場合も、受講大学の TV 授業責任者は学生が記入したアンケート用紙を回収し、集計結果を速やかに主管校の TV 授業責任者に届ける。アンケート中の自由記載意見については PDF ファイル等の方法で電子化してメール添付で送る。
- ④ 主管校の TV 授業責任者は、①のアンケート結果については主管校の自己点検・評価委員会委員に届ける。②のアンケート結果については TV 授業講師が所属する大学の TV 授業責任者を通じて TV 授業講師にフィードバックする。

以上

「医歯学連携演習」講義風景写真





医歯学連携演習

TV授業アンケート

平成22年 月 日

1. あなたは受講前に授業資料に目を通しましたか。

- ☐ a.よく読んで関連することを調べた。
- ☐ b.よく読んだ。
- ☐ c.ざっと目を通した。
- ☐ d.ほとんど見なかった。

4. 授業の内容は興味深いものでしたか。

- ☐ a.とても興味深かった。
- ☐ b.興味深かった。
- ☐ c.それほど興味がわかなかった。
- ☐ d.まったく興味がわかなかった。

2. 教員の熱意は伝わってきましたか。

- ☐ a.大いに感じた。
- ☐ b.ある程度感じた。
- ☐ c.あまり感じなかった。
- ☐ d.まったく感じなかった。

5. 授業の内容に触発されましたか。

- ☐ a.かなり触発された。
- ☐ b.ある程度触発された。
- ☐ c.それほど触発されなかった。
- ☐ d.まったく触発されなかった。

3. 授業の内容はわかりやすかったですか。

- ☐ a.とてもわかりやすかった。
- ☐ b.わかりやすかった。
- ☐ c.わかりにくかった。
- ☐ d.まったくわからなかった。

6. パワーポイント、書画カメラなどの使い方は効果的でしたか。

- ☐ a.とても効果的だった。
- ☐ b.効果的だった。
- ☐ c.あまり効果的ではなかった。
- ☐ d.まったく効果的ではなかった。

7. 要望や意見を自由に記入してください。

医歯学連携演習アンケート

今年度実施された医歯学連携演習に関して、あなたの感想をお聞かせください。以下のアンケート項目にお答えください。(該当するものに○を付けてください。記述式の部分はできるだけ記入をお願い致します。)

1. 所属大学名を記入してください。 _____ 大学

2. あなたの学年を教えてください。

a 4年生 b 5年生 c 6年生

3. 講義内容についてお尋ねします。

1) 講義項目は適切でしたか。

- a 非常に適切であったと思う b 適切であったと思う
c あまり適切ではなかった d まったく不適切であった
c または d と回答された方は理由をお聞かせください。

2) 講義内容は適切でしたか。

- a 非常に適切であったと思う b 適切であったと思う
c あまり適切ではなかった d まったく不適切であった
c または d と回答された方は理由をお聞かせください。

3) この講義はこれまで行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか。

- a 非常に役立った b 役立った
- c それほど役に立たなかった d まったく役に立たなかった

c または d と回答された方は理由をお聞かせください。

4) この講義の回数に対してどう思いますか。

- a もっと多い方がよい b 今回の回数で充分である
c もっと少なくてもよい d 不必要である

c または d と回答された方は理由をお聞かせください。

4. TV授業システムについて有効であったと思いますか。

- a とても有効であった b 有効であった
c あまり有効ではなかった d まったく有効でなかった

c または d と回答された方は理由をお聞かせください。

5. 講義より前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか。

- a 何度も聞いたことがあり、十分に理解している。
- b 聞いたことがあり、理解していた。
- c 聞いたことはあるが、あまり理解していなかった。
- d まったく聞いたことがなかった。

6. その他、今回の医歯学連携講義に関して御意見がありましたらお聞かせください。(歯学部学生、医学部学生)

以上で、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

口腔医学自己点検・評価委員会

医歯学連携演習アンケート

アンケート数99名無回答1名 計100名

1		福岡歯科大学
2		5年
3	3-1	講義の内容についてお尋ねします。
	a	2
	b	73
	c	20
	d	4
	c.d理由	項目の幅が広がった 内容が多すぎた。 医学のことも大事だとは思いますが、まずは歯学の事についてしっかり勉強したかった 知識としては興味深い内容でしたが少し発展的すぎて研修医の時に聞きたい内容だった。 専門的すぎた。 時間が短くて、先生が急いでいるよう見えた。 声が小さい。スライドが見えにくい。 なぜ、他校と連携しなければならなかったのか、理解できなかった。 まとまりのない内容だった。 あの時期にTV授業が必要だったか理解できない 内容が詳細すぎて、自分たちは国試に受かるのが目的だから、そのレベルに合わせてほしい。 内容用は大事だから、研修医の時にやればよいと思う。 早口の説明で授業についていけなかった 重複している物が多くもう一步踏み込んだ所を聞きたかった。
	3-2	講義の内容は適切でしたか？
	a	2
	b	68
	c	27
	d	2
	c.d理由	量が多かった 以前に学習した内容と重複する部分が多かったように思う。 もっと歯学を勉強したかった 早口の説明で授業についていけなかった。内容が多いのか、時間が足りないのか先生方が時間に追われながら授業をしているように見え、学生としてもあせって講義を受けることになった 知識としては興味深い内容でしたが少し発展的すぎて研修医の時に聞きたい内容だった。 専門的すぎた。 なぜ、他大学と連携しなければならなかったのか、理解できなかった。 4年時の連携授業の時に組み込んでほしい。その方が効率的だ。 内容が詳細すぎて、自分たちは国試に受かるのが目的だから、そのレベルに合わせてほしい。 内容は大事だから、研修医の時にやればよいと思う。 講義が長い
	3-3	この講義はこれまで行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか
	a	5
	b	70
	c	20
	d	4
	c.d理由	関係のない講義が多かった 解答の棒読みになっているだけの授業に思えた。 講義1回に対して内容が多い 内容にたいしての説明が速すぎた。 CBTや忙しい時期は1コマで良い。CBTの前なのに講義時間が長い。 内容がバラバラで解らなかった。 授業のスピードが速すぎる。 講義の回数が多すぎる。 試験の時に負担が大きい。
	3-4	この講義の回数に対してどう思いますか
	a	2
	b	51
	c	37
	d	9

c.d理由			回数も多いうえに、内容も濃くて大変でした。
			効果的に利用できていなかったと思う。
			重複した授業が多かった。
			他にやるべき事がある。実習時間を増やした方が良い。
			他大学の交流が合ったわけでもないのに有効とは言えない。
			必然性が感じられない。
			他大学とのTV授業の時、聞き取りにくかったり、どこを指しているのか解りにくかった。見にく
			聞き取りにくい。質問がしにくかった。
			CBTの前でなく、もっと余裕のある時ならば、問題なし。
4			TV授業システムについて有効であったと思いますか
	a	2	
	b	45	
	c	39	
	d	13	
c.d理由			わざわざTVシステムを使用してまで行う利点がないと思った。
			複数の大学が合同で行う意義をあまり感じなかった。
			色々とトラブルが多く集中しにくかった。
			声が聞きずらかった。
			家でTVを見ているのと同じ。
			半数以上が当大学の先生方が講義していたので、もっと他大学との交流があっても良かった。
			講義を受けずらかった。
			他大学からの音声聞き取りにくく、何処を説明しているのか解らなかった。
			TV授業にした意義が分からない。もう少し良い活用がありそう。
			他大学からの画像が見ずらかった。
			TV授業でなくてもできる内容だった。
			TV授業にした意義が分からない。もう少し良い活用がありそう。
			先生たちがシステムを使いこなせていなかった。
			半数以上が当大学の先生方が講義していたのでTVにする必要がない。
			TV授業は見たかったが、サテライトである意味はないと思った。他大学の先生での授業の必要性を感じなかった。
			今までの授業がよい。
5			講義より前に口腔医学について話を聞いたことがありますか。また、理解していましたか
	a	3	
	b	51	
	c	39	
	d	6	
6			その他、今回の医歯学連携講義に関して御意見がありましたらお聞かせください。
			音声のボリュームをもっと上げるべきだと思う。
			他の授業を削ってでも増やす価値のある授業だった。
			先生も大変だなと思った。
			自習時間でも良かったのではないだろうか。
			もう少し聞く側の事を考慮してほしい。システムが十分ではなかった。
			必要性を感じなかった。
			学生に対して少し難しとこらがあったので考慮してほしい。
			歯科医師向けだった。自分たちには少し早すぎる。
			内容は良かったがもう少しコンパクトだともっといい。
			レジメとスライドがずれていた所が多々あり、十分ではなかった。
			テストが難しい。
			話が高度過ぎたり、声が聞き取りにくい。TVにするならもっと分かりやすいプリントが良
			他大学の先生の話をもっと聞きたかった。
			授業が当大学の先生方が主だったので良かったが、他大学の先生はリアリティにかけるのではないかと思った。
			回数、内容共に多すぎた。
			音声のボリュームをもっと上げるべき、聞きずらかった。
			CBT前でなく、3・4年の時に行うべきと思う。

医歯学連携演習アンケート集計

1. 所属大学名を記入して下さい。 北海道医療大学

2. あなたの学年を教えてください。 b 5年(73名)

3. 講義内容についてお尋ねします。

1)講義項目は適切でしたか。

a 非常に適切であったと思う	5
b 適切であったと思う	57
C あまり適切ではなかった	8
d まったく不適切であった	3
無回答	0
計	73

2)講義内容は適切でしたか。

a 非常に適切であったと思う	6
b 適切であったと思う	51
C あまり適切ではなかった	12
d まったく不適切であった	3
無回答	1
計	73

3)この講義はこれまでの行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか。

a 非常に役立った	6
b 役立った	52
C それほど役立たなかった	13
d まったく役立たなかった	2
無回答	0
計	73

4)この講義の回数に対してどう思いますか。

a もっと多い方がよい	5
b 今回の回数で充分である	49
C もっと少なくてよい	12
d 不必要である	7
無回答	0
計	73

4. TV授業システムについて有効であったと思いますか。

a とても有効であった	5
b 有効であった	32
C あまり有効ではなかった	29
d まったく有効ではなかった	7
無回答	0
計	73

5. 講義より前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか。

a 何度も聞いたことがあり、十分に理解している	1
b 聞いたことがあり、理解していた	19
C 聞いたことはあるが、あまり理解していなかった	48
d まったく聞いたことがなかった	4
無回答	1
計	73

自由記載意見

3-1)

- ・あまり重要な疾患であるように思えなかったから。
- ・何故連携して内科の講義を、受ける必要があるのか、メリットを感じなかった。
- ・あまり全身医学についてやってもモチベーションが上がらない。
- ・講義内容が断片的すぎて理解しづらかった。
- ・声が聞こえない時があった。

3-2)

- ・あまり重要な疾患であるように思えなかったから。
- ・どうせ新しい事をやるなら国試対策が良かったです。
- ・内容が多すぎてあまり頭に入ってこないから。
- ・ごちゃごちゃ言ってるだけで全く授業になってない時がある。
- ・先生が変わり過ぎているので統一性がない。
- ・TVを使う必要を感じません。
- ・難しかった。
- ・分量が多すぎてスライドを見るだけの内容だった。
- ・あまりに広い範囲を短い時間で行っているから一つ一つが薄く必要である所も削られていると感じた。

3-3)

- ・質問が出来なくて一方的。何大学にも授業していて、その中で質問出来ると思うのか？
- ・よくわからない ・講義がわかりにくかった。
- ・普段の講義の方がわかりやすい。
- ・参考出来る本等の紹介が欲しかった。
- ・今までの知識を役立てるというよりは、新しい物の考え方を増やす事が多かったと思う。
- ・時間が足りないせいか、駆け足すぎたと思う。
- ・各々の大学で行えるレベルだと思う。
- ・進行が早い。・講義のスピードが速すぎて理解まで至らなかった。・進行が早くて無理だった。

3-4)

- ・全部テレビでいいと思います。
- ・もっと無駄を省けるはず。
- ・何のためにやっているのか意味が解らない。
- ・質問しづらい。スライドが速いという事も言えない。
- ・自分の勉強の時間が減るので不必要である。

- ・TVである理由がわからない。逆にTV授業を導入する理由を知りたい。
- ・双方向(講義室の風景等)である必要性は全く感じなかった。
- ・スライドばかりの誰が行っても同じような内容であった為。
- ・わざわざ中継する必要は見出せなかった為。
- ・置いてけぼりの医療大学。
- ・二つの大学のみで授業を行うだけではなく、色々な大学で担当を決めてやればいい。
- ・スライドを読むだけではつまらない。もっとビデオ等が見たかった。
- ・有効というほど活用されていない。
- ・別にTVだからどうか思わないので、必要がないと感じる。
- ・TV授業システム自体は大変有効であるが、今回はそれが生かせていないと思う。
双方向性の機能がほとんど生かされていなかった。せっかく中継でやっているのだから、もう少しそれは生かした授業であつてもよかったと思う。
- ・質問しづらい。
- ・声が小さかった。声が小さい。たまに声が聞こえない。
- ・先生方の準備の手間がかかる割に効果が薄いのではないか？
- ・内容的に特別な講義ではないので。大学で受けている内容と同じだから。
- ・他の大学の先生の話聞くのはおもしろかったけど、おもしろいというだけで、「こうでなきゃ。」と思う程良くなかった。
- ・わかりにくかった。
- ・プリントを配るなら全部のスライドを配ってほしい。
- ・パワーポイントが見えにくかったり、声が聞き取りにくかったりした。
- ・音声聞き取りにくい時があった。
- ・TVを使わなくても良い。
- ・無理にTV授業システムにしなくても良かったのではないだろうか？と思う講義内容であった。
- ・サテライト授業のような形式が嫌いなので、あまり有効ではないと感じた。

- ・全部サテライトが良いと思います。
- ・もっとたくさんの医学部、歯学部が合同で授業出来たら良いと思う。
- ・音量が小さくて始まっている事に気づかない事があった。
- ・プリントを忘れると受講していても悲惨な状態となるので、当日配布してもいいと思った。
- ・時々マイクの音声聞き取りにくい時があった。
- ・本当に必要かどうかわからない。有意義なものあれば、そうでないものもあったように思う。
- ・無いなら無くて良い授業。
- ・とても興味深いテーマが多く、面白かったが、声が小さくて聞こえないなどの設備の不備が残念だった。
- ・このアンケート自体が無意味。学生はアンケートがめんどくさいから理由を答える回答をさせている。
- ・2010/5/24の講義の時スライドにあったように、その日のタイムテーブルの様なものがあると良いと思った。
大学によっては、内容の比率が悪く、急いで講義をこなしていることがあり、学習効果が低かった。
- ・テストはやめて欲しいです。
- ・大学間で同じ内容を学生が理解しておくのが大事なら、歯学部の大学全部同じ講義をして初めて意味があると思います。
- ・あまり意味がないと思います。自習の時間にあてた方が有意義だったように思いました。
- ・スライドは無くして症例写真等を中心にしてはいかでしょうか？
- ・内容としては、今までの講義で聞いたものがほとんどで、わざわざ中継してまでやることは無いかと思えました。
- ・特に必要性を感じない。
- ・もっと他の大学と意見を交換し合うべきだと思った。
- ・連携というわりには、各大学の先生が同じ項目の講義をばらばらにして下さっただけという感じがした。
- ・TVでやる必要性が無かったと思う。
- ・音声をしっかりするべき。プリントの穴埋めがキツイ授業があった。
- ・もっと各先生方が研究している面白い事を話してほしい。
- ・無理に連携する必要はなく感じた。やはり、先生が目の前にいないので、よっぽど良い内容でないと興味がわからない。
- ・どういった意図で連携講義しているのかわからなかった。
- ・一個の大学のみではなく、他大学の状況を一見できる機会であった。
- ・たまに聞き取りづらい時もありましたが、他の大学の学生と一緒に授業を受けて良い刺激になると思います。
- ・歯科診療に必要な医学の勉強が出来てとてもまんぞくしている。
- ・明らかに大学と大学を比較する意図を感じる。教育ではなく、メンツの闘いではないのか？
- ・良かった。でも、定期試験はしないでほしい。
- ・意味がなかった。

医歯学連携演習アンケート結果（平成 22 年度）97 名全員分

カテゴリー選択式

項目 1：神奈川歯科大学

項目 2：5 年生

項目 3 の 1)：a は 5 名 (5.2%)、b は 83 名 (85.6%)、c は 6 名 (6.2%)、d は 2 名 (2.1%)、e は 1 名 (1.0%)

項目 3 の 2)：a は 7 名 (7.2%)、b は 81 名 (83.5%)、c は 7 名 (7.2%)、d は 1 名 (1.0%)、e は 1 名 (1.0%)

項目 3 の 3)：a は 6 名 (6.2%)、b は 80 名 (82.5%)、c は 10 名 (10.3%)、d は 1 名 (1.0%)

項目 3 の 4)：a は 19 名 (19.6%)、b は 60 名 (61.9%)、c は 6 名 (6.2%)、d は 12 名 (12.40%)

項目 4：a は 8 名 (8.2%)、b は 64 名 (66.0%)、c は 16 名 (16.5%)、d は 8 名 (8.2%)、未記入 1 名 (1.0%)

項目 5：a は 8 名 (8.2%)、b は 41 名 (42.3%)、c は 36 名 (37.1%)、d は 7 名 (7.2%)、未記入 5 名 (5.2%)

自由記載部分

項目 3 の 1)

- ・時間が少なかったので身に付いているか不安。
- ・以前に受けた講義と同じ内容であった。2 名
- ・連携する意義がわからない。

項目 3 の 3)：

- ・それぞれの大学で授業方針に差があるのではないか。
- ・他大学より隣接医学の時間が少ないので一度で理解するのが難しかった。

項目 3 の 4)：

- ・TV の画面がちらついて見づらかった。
- ・TV 授業の回数はなくてよい。
- ・連携する意義がわからない。

項目 4：

- ・ポインターを動かしすぎるため目が回る。
- ・改善の余地あり。
- ・授業風景が映っているだけでは意味がない。
- ・通常の授業でよい。

項目 6：

- ・プリントは最初にまとめて配ってほしかった。5 名
- ・連携する意義がわからない。
- ・TV 授業が 2 回だけだったので連携講義について評価しにくい。
- ・回数を増やしていろいろな大学の先生の講義を受けてみたい。
- ・必要性が理解できない。
- ・これからも頑張ってください。
- ・オンライン化を有効に活用してほしい。
- ・斬新で面白かった。
- ・授業のスライドのスピードが速く戻れないのが困る。
- ・以前の講義と同じ内容のところもあり、TV 授業をする意義がわからない。

医歯学連携演習アンケート(口腔医学自己点検・評価委員会)

1. 所属大学名を記入してください。	鶴見大学	
2. あなたの学年を教えてください。	a 4年生	0
	b 5年生	0
	c 6年生	83
	無回答	0
3-1). 講義項目は適切でしたか。	a 非常に適切であったと思う	2
	b 適切であったと思う	43
	c あまり適切ではなかった	23
	d まったく不適切であった	10
	無回答	5
3-2). 講義内容は適切でしたか。	a 非常に適切であったと思う	2
	b 適切であったと思う	44
	c あまり適切ではなかった	25
	d まったく不適切であった	7
	無回答	5
3-3). この講義はこれまで行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか。	a 非常に役立った	1
	b 役立った	42
	cそれほど役立たなかった	28
	d まったく役立たなかった	7
	無回答	5
3-4). この講義の回数に対してどう思いますか。	a もっと多い方がよい	1
	b 今回の回数で充分である	33
	c もっと少なくてよい	26
	d 不必要である	18
	無回答	5
4. TV授業システムについて有効であったと思いますか。	a とても有効であった	1
	b 有効であった	38
	c あまり有効ではなかった	27
	d まったく有効でなかった	12
	無回答	5
5. 講義より前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか。	a 何度も聞いたことがあり、十分に理解している	2
	b 聞いたことがあり、理解していた	35
	c 聞いたことはあるが、あまり理解していなかった	31
	d まったく聞いたことがなかった	9
	無回答	6

医歯学連携演習アンケート(口腔医学自己点検・評価委員会)

記述部分

3-1). 講義項目は適切でしたか。

- ・今必要ではない
- ・6年生のこの時期に必要なでない内容が多く含まれている
- ・他の大学は5年生なのになぜうちだけ6年なのか不明
- ・内容はいいと思うが、6年のこの時期に行くことではないと思う。もっと早い時期に聞きたかった
- ・これまでの授業で同じ事をやった
- ・質というよりも量の問題であり、確かに今迄の復習になった部分や、興味深い事もあったが、これだけの時間は要らないと思う
- ・今やる事ではない
- ・もうすでに勉強した内容
- ・自分の大学の方が良い講義
- ・どうしても项目的に必要なならば5年次までにやるべき

3-2). 講義内容は適切でしたか。

- ・6年生のこの時期に必要なでない内容が多く含まれている
- ・本当に国試に出るのか？
- ・6年生でやることではない
- ・これまでの授業で同じ内容を学んだ
- ・質というよりも量の問題であり、確かに今迄の復習になった部分や、興味深い事もあったが、これだけの時間は要らないと思う
- ・国試に準じていない
- ・もうすでに勉強した内容
- ・どうしても项目的に必要なならば5年次までにやるべき

3-3). この講義はこれまで行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか。

- ・プリントも鶴見のでないので慣れていないしわかりにくい。慣れていない先生の授業の方が良い。授業の途中で質問したい時にできない。
- ・6年生でやることではない
- ・内容、レベルとも今までの講義とほとんど同じだった
- ・復習にはなったが、5年時に受けていたら理解を深めることができたかもしれない
- ・もうすでに勉強した内容

3-4). この講義の回数に対してどう思いますか。

- ・先生方のエゴではないのでは
- ・もっと基礎的な知識が学べる方がよい
- ・この時間を自習にした方が効率的
- ・6年ではなく5年生が受けるべき授業だと思います
- ・質というよりも量の問題であり、確かに今迄の復習になった部分や、興味深い事もあったが、これだけの時間は要らないと思う
- ・6年時で受けるのは、あまり有意義ではなかった
- ・6年という時間の少ない時に自己満足でやるべきじゃない
- ・6年じゃなく5年の段階でやるべき。特にポリクリ時の方が有効だと思う
- ・やる意味がわからない
- ・あえて他の大学とやる必要あるかな？

4. TV 授業システムについて有効であったと思いますか。

- ・とにかくTV授業にする意味がわからない。鶴見の先生の授業の方が良い
- ・エラーが気になる
- ・TV授業を行うメリットが感じられなかった
- ・先生が近くにいないので集中して話を聞くのが難しい気がした
- ・臨床感に欠けてしまうのが問題であり、その欠点を補いうる内容かがポイントになると思われる
- ・システムは斬新だったがエラーが多かった
- ・国試対策の時間が減ってしまって嫌だ。もうすでに学んだ内容なのだから不必要だ
- ・他の大学とやるためにTVになるが、そこまでの必要性があるのか？

6. その他、今回の医歯学連携講義に関して御意見がありましたらお聞かせ下さい。

- ・必要性がよくわからない。他大学も全く参加していないし、最後は鶴見と福岡だけ？この程度の授業なら鶴見の先生に行ってもらえば良い。わざわざ衛星にのる意味がわからない
- ・6年生時に受ける授業ではないと思う。国試対策の授業というよりは臨床的な授業なのだから、研修医が受けた方が効果的では？また、先生方は最初しか居なかったし、教務課も出席を取ったらいなくなって、授業中、鶴見の学生に対して他大学の先生から質問されても何も対応できなかった事があった。最後の方は、参加校はいつも3校だけだし、こんなことに時間を使うなら普通に自分で勉強した方がよい
- ・特に他の大学の先生のお話でなくてもよかったと思います。
- ・色々意見があるだろうけど、基礎が多かったので自分としては楽しかったし役に立ちました。ただ、TVでの授業なのでちょっとダレる

- ・ 5年生がやればいいんじゃないですか。それか4年生
- ・ 必要ない
- ・ 他の大学の専門医の先生方の話を聞けてとても有意義でした
- ・ もっとコンパクトかつ系統的であれば良かった。(若干バラバラな感じがあった) 臨床実習前に受けるべき
- ・ 6年時ではなく、4・5年時にやれば良いと思う
- ・ 自宅から見れるようインターネットにあげてほしい
- ・ 5年生のときが良い
- ・ 音が届いていない学校があったのに授業を進めたのはかわいそうだった
- ・ この講義は、国試がせまった6年で行うより、ある程度余裕のある5年で行った方が効果的であると思う
- ・ 今回の講義は臨床の中でも大変役立つ知識を多く吸収できたと思います。ですが臨床実習が終わり、国家試験の勉強に明け暮れる状態で聞くよりも、臨床実習中もしくは卒後研修中に聞いた方がより効果的だったのではないかと思います
- ・ あまり意味がない気がする。別にいつものように鶴見だけ講義を行えばいいと思う
- ・ 研修医の時期に聞きたい内容だった
- ・ 連携講義を行うのは良いと思うが、行う時期はあまり良くなかったと思う。5年生時に1年間の方が良かったのではないかなと思った
- ・ 6年生という忙しい時期に、どうしてこういうことをするのか不思議でした。この時間も自分のやりたい勉強をしている方が有意義だし、みんなそうしてましたよ
- ・ 4 or 5年次に行ってほしかった
- ・ 本当にやる意味がない。国試対策に時間を費やしてほしい。ただでさえ臨床実習のせいで国家試験対策の授業が少なく、国試合格率が低いことから、もっと国試合格率を上げる努力をすべきだ。国試合格率が90%以上ある東京歯科大学はこれに参加しているのでしょうか？大学の授業がすべてではないが、その役割は重要であると思う。だから、もう今後参加しない方がいいと思う。
- ・ 鶴見大学は臨床実習も長いし、他の大学に比べて国試の勉強スタートが遅いの、わざわざだいたいわかっている内容の講義を半日聞くのは個人的にとっても時間のムダと感じました。来年から参加回数を減らしてもいいと思います。

医歯学連携演習 TV授業アンケート(全体終了後)

質問3.	講義内容についてお尋ねします	
1)	講義項目は適切でしたか	
回答	a. 非常に適切であったと思う	8
	b. 適切であったと思う	69
	c. あまり適切ではなかった	9
	d. まったく不適切であった	1
合計		87

(cまたはdと回答した理由)

- ・今まで聞いたことのある内容であったから
- ・重複が多く感じた
- ・講義内容が重複する部分があった、既に学習した内容の繰り返しなのに話が長い。問題を多くすべき
- ・講師がただプリントを読んでいるだけでつまらない。自分で勉強できる内容だった。
- ・内容が重複している項目があったから
- ・既に別の科目で習っているから
- ・既に習っている教科との重複が多く、必要性が感じられない

2)	講義内容は適切でしたか	
回答	a. 非常に適切であったと思う	8
	b. 適切であったと思う	71
	c. あまり適切ではなかった	7
	d. まったく不適切であった	2
合計		88

(cまたはdと回答した理由)

- ・何度も聞いたことのある内容ばかりだった
- ・4, 5年で1年間半かけて学習した内科・外科と変わらない、あるいは内科・外科のほうが詳しいこともあった。
- ・配付された資料に十分な記述がなされていない。(後で読み返しても理解できない)
- ・メモを取るにも数秒でスライドを進められメモできない。

3)	この講義はこれまで行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか	
回答	a. 非常に役立った	8
	b. 役立った	69
	c.それほど役立たなかった	10
	d. まったく役立たなかった	2
合計		89

(cまたはdと回答した理由)

- ・当たり前の授業すぎる
- ・CBTで勉強したことばかりだった
- ・新しい情報が盛りだくさんではなかった
- ・我が大学の内科学や外科学の講義の方がはるかに優れていると思うため
- ・本学の内科、外科の講義内容で十分理解出来ているところが繰り返されていた。
- ・テーマが毎回バラバラで分かりにくい

4)	この講義の回数に対してどう思いますか	
回答	a. もっと多いほうが良い	7
	b. 今回の回数で充分である	63
	c. もっと少なくてよい	8
	d. 不必要である	10
合計		88

(cまたはdと回答した理由)

- ・同じことを何度も聞くのは疲れる
- ・この講義の利点がありませんから、けど少しはあった方が刺激になると思う。
- ・学校ごとに合ったものがよい、他大学は知らないが、何度も同じ内容で不必要。
- ・内科、外科で十分学習できる
- ・月曜日の朝に最大で2コマ使うには無駄に思えた。
- ・もっと少なくとも医歯の相互知識を深めるには十分だった。歯科関連の医科を様々な分野から切り込んでくれるのは良かったが、分野が偏っていたように思う。
- ・この授業の必要性が感じられない、講義範囲も漠然としており何を中心に勉強すれば良いか分からない。内科等に時間を回したほうがよい。
- ・内容には問題はないと思うが、あえて複数大学でTVを使って行うにしては、何も特殊なことがないと感じた。通常の講義でも、同様の内容はカバーできていると感じた。

質問4.	TV授業システムについて有効であったと思いますか	
回答	a. とても有効であった	9
	b. 有効であった	52
	c. あまり有効ではなかった	20
	d. まったく有効でなかった	7
合計		88

(cまたはdと回答した理由)

- ・目の前に先生がいる方が、分からないときすぐ質問できるし、理解度を私立に合わせる必要はない。
- ・生徒の様子をモニターに映しても全く意味がないと思う。
- ・質問のしづらい雰囲気があった
- ・時間がかかる、トラブルが多い
- ・他の大学とつながっていることもあり、気楽に質問できない。
- ・不具合や見えにくい、質問しにくいなどの点からTVで授業するメリットを学生の立場としてはあまり感じなかった。ただ、先生からすると、講師を呼ぶよりも簡便で一度に多くの生徒に授業ができるのでいいのかなと思う。
- ・TVを使ってしなければならない理由が分からない。有名な先生の講演とかなら意義があると思うけど。
- ・教員と生徒の関係が一方通行となるため
- ・シラバスの準備が不十分な先生の回があり、後で見直しに使えないもの、文字が読み取れないもの、空白が多いのに進行が速く授業を受ける気力が失せたものがあった。このようなシステムでやるからには、後の復習に有用なシラバスを作成してもらいたい。
- ・質問しにくい
- ・眠くなる、講義に緊張感がない
- ・緊張感の欠如、用語の不統一、質問のしにくさ、聞き流すだけに終始している。
- ・実際にその場に先生がおられる方が集中できる
- ・TV授業の意義があまり理解できなかった、音声が届きにくい、通常の講義の方がよい。
- ・複数大学を結んでいるメリットがはっきりしない
- ・むしろ、講義のリズムを落としていると感じた。TVで複数の大学で行う意義が良くわからない。ただ、普通の講義がTVから流れてくるとしか感じられなかった。

質問5.	講義より前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか	
回答	a. 何度も聞いたことがあり、十分に理解している	2
	b. 聞いたことがあり、理解していた	34
	c. 聞いたことはあるが、あまり理解していなかった	43
	d. まったく聞いたことがなかった	8
合計		87

質問6. その他、今回の医歯学連携講義に関してご意見がありましたらお聞かせください。

- ・内科系が多かったので口腔外科系も混ぜて欲しかった。
- 福岡歯科大の先生の授業は新鮮でよかった。
- 他の大学は2時間続けて授業を受けているのに、九歯は1時間しか受けていないのはいけないと思う。
- 無駄としか言えない。九歯にも専門の先生がいるので、そちらに教わる方がためになると思う。
- 大学ごとに授業の質が違うと思うので、統一する必要がある。
- 内科、口腔外科、耳鼻科などひとつの物事に対し様々な科からの観点がみれて面白かった。
- 福岡歯科大の先生方や様々な先生方の授業を受けることができてよかった。
- 私立の大学と連携しても意味がないと思う。
- 他大学との連携した講義は初めてのことでよかったと思う。
- このように、複数の大学で同時に行う意図があまりよく分かりません。同様の講義をおこなうのであれば、各大学でやってほしいと思います。その方が話す立場も聞く立場ももっと真剣になると思います。
- スライドのデジタルデータが配付されたらよかった
- 他大学の学生との意見交換を講義中に取り入れてもよいと思う。
- それぞれの学校の権威の先生方の話を聞けることができるので、よい機会だと思いました。
- プリントの文字、写真、図が読みにくいのをどうにかしてほしい。何度かアンケートに書いても改善されなかった。
- 大学の中の授業でも十分だった
- 予習する際に、どの分野をどの程度やればよいか分かりづらかった。
- 九州歯科大学では講義が(連携で)なかった所が試験にでるのはおかしいと思う。
- すべてのスライドを配付資料として配っていただいた方分かりやすいです。
- 今まで各科目でちょこちょこ習ったことのまとめとしての授業だったので、色々と再確認できて良かったです。
- この講義は我が大学には一切必要ないと考える。むしろ、我が大学の内科学、外科学の講義をさらに充実させた方が有益であると思われる。
- 正直に、下の学年からこの講義が単位としてカリキュラムに組み込まれるなら、かわいそうである。
- 歯学部のみ、医学部のみでも数回に一回専門の講義を行ってもよいと思う。
- この授業の必要性やなぜあえてTV授業なのか分からない。本当に必要かを論議したうえで学生にそれを伝えてほしい。
- 各回の授業間に流れがなかった
- 歯学と医学、歯科医療と医科医療の連携が重要であることは十分理解しているつもりだが、この講義では、主に歯科内容を寄せすぎだと感じた。そもそも医歯学連携と銘打って、医学部の参加が1校だけということが、歯学部内輪でやっているように感じた。講義をされた先生方も、主幹が福岡大ということも関係したとは思いますが、福岡大に偏ったと感じた。講義の内容は、4年次までに学んだものの復習にもなったし、中には初めて聴く内容などもあり、興味深くなかったが、この講義の必要性や特殊性というものを感ずることは、あまりできなかった。
- すこしうがった見方をすると、ただ実験的な講義の仕方の実験台にされたようにも感じた。
- 多くの大学が連携して講義を行うことは重要だと思うし、色々な考え方を知ることができるのかもしれないが、今回のただ参加して普通の講義をTVで受けた、という印象しかなかった。

医歯学連携演習アンケート(平成22年度)

集計:福岡大学

Q1 所属大学名を記入して下さい。

福岡大学

Q2 あなたの学年を教えてください。

a 4年生

Q3 講義内容についてお尋ねします。

1) 講義項目は適切でしたか。

a	非常に適切であったと思う	5
b	適切であったと思う	60
c	あまり適切ではなかった	8
d	まったく不適切であった	1

cまたはdと回答された方は理由をお聞かせください。

・	スライドが分かりやすかった。
・	実際に前に先生が立って講義するわけではないので、臨場感が無く、普通に授業したほうがいいと思った。
・	授業に緊張感がまったくなかったと思うから。
・	歯学との連携性が見えないから。
・	ビデオ学習よりなら、普通の授業でいいと思った。
・	テレビでする意味をほとんど感じなかった。
・	あまりいつもと変わらない。
・	歯科治療が原因で生じる急性疾患に重点を置いた講義があっても良いと思われる。
・	TV講義で行われた講義はすでに授業で聞いたことのある内容でわざわざ連携して授業を行う必要性を感じなかったから。

2) 講義内容は適切でしたか。

a	非常に適切であったと思う	7
b	適切であったと思う	60
c	あまり適切ではなかった	5
d	まったく不適切であった	2

cまたはdと回答された方は理由をお聞かせください。

・	よかった。
・	歯学との連携性が見えないから。
・	まだ産婦人科を習っていなかった。
・	あまりいつもと変わらない。
・	やはり医学科と歯学科の学習内容は異なると思うから。
・	歯科医師が臨床でどのような症状の患者に遭遇した際に病院での診察を勧めるべきかに重点が置かれており、医師がどのような口腔疾患を見かけた際に歯科医師を紹介すべきなのかについてあまり触れられていなかった。
・	TV講義で行われた講義はすでに授業で聞いたことのある内容でわざわざ連携して授業を行う必要性を感じなかったから。

3) この講義はこれまで行われた講義の理解を深めるのに役立ちましたか。

a	非常に役立った	8
b	役立った	52
c	それほど役立たなかった	10
d	まったく役立たなかった	4

cまたはdと回答された方は理由をお聞かせください。

・	内容がなくて、復習にはならなかった。
・	歯学との連携性が見えないから。
・	専門用語を使いすぎ。パワーポイントが見にくかった。
・	他大学の生徒とかもほとんどみえないし、ビデオみてるのと一緒に。
・	やはり医学科と歯学科の学習内容は異なると思うから。
・	内容が基礎的過ぎる。
・	すでに知っている知識ばかりだったから。

4) この講義の回数に対してどう思いますか。

a	もっと多い方が良い	5
b	今回の回数で充分である	52
c	もっと少なくてよい	8
d	不必要である	9

cまたはdと回答された方は理由をお聞かせください。

・	実験的な導入だが、この講義を行う意味が無いと思います。
・	普段の授業時間を削ってまでやる価値があるものとは思えなかった。
・	歯学との連携性が見えないから。
・	必要を感じないから。
・	他大学と連携しているという実感がとくになかった。ので別にいつもの授業でいい気がする。
・	普通の授業とかわらない。
・	1)の理由と同じです。
・	内容が簡単すぎて復習にすらならない。
・	わざわざ連携してまでする必要がないと感じたから。

Q4 TV授業システムについて有効であったと思いますか。

a	とても有効であった	5
b	有効であった	48
c	あまり有効ではなかった	14
d	まったく有効でなかった	7

Q4でcまたはdと回答された方は理由をお聞かせください。

・	ビデオをみているのと同じような感じだから。
・	生の授業のほうが緊張感があってよい。
・	講義している先生と目を合わせることが無いので、臨場感が無かった。
・	音がきこえにくいし必要ない。
・	普通の授業でいいと思う。
・	わかりにくい。
・	普通の講義と比べてメリットがないと思った。
・	テレビである必要を感じない。 質問も他大学の先生から他大学の生徒にされているものを見ているだけだった。
・	他大学と連携しているという実感がとくになかった。ので 別にいつもの授業でいい気がする。
・	普通の授業とかわらない。
・	TV授業でなければならない理由がよくわからない。普通の授業でいいと思う。
・	やはり医学科と歯学科の学習内容は異なると思うから。
・	他大学の学生とのディスカッションをする訳ではないし、授業は教員が学生の反応を見ながらするものであると考えるから。

Q5 講義より前に口腔医学について話を聞いたことはありますか。また、理解していましたか。

a	何度も聞いたことがあり、十分に理解している。	4
b	聞いたことがあり、理解していた。	37
c	聞いたことはあるが、あまり理解していなかった。	31
d	まったく聞いたことがなかった。	2

Q6 その他、今回の医歯学連携講義に関して御意見がありましたらお聞かせください。
(歯学部学生、医学部学生)

・	来年はいらないと思います。
・	高齢者、寝たきり患者への口腔ケアが大事という認識がもてたのは良かったけれども、それはあくまで一般の知識レベルでしかなく、その程度の認識を得るべき授業として時間を割くのはもったいない気がしました。
・	両親が歯科医師だから。
・	好ましい授業体系じゃないから、やめるべきだと思う。
・	とても勉強になりました。
・	特に連帯してると感じなかった。パソコンみているのと同じ感じだった。
・	普通の授業とかわらないため、必要ないと思う。
・	医師と歯科医師が臨床の場において連携すべき項目に講義内容を絞った方が良いと思われる。
・	他大学と同じ授業がうけられて新鮮でよかった。
・	ビデオで十分と思いました。

平成23年度前期 医歯学連携演習（案）

日程	回	学習目標 G I O	表題名	担当		福岡大		鶴見大		九歯大		北医療大		神歯大		岩手医大		昭和 大		福大医							
						80分		85分		90分		80分		80分		90分		60分		90分							
						授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無	授業 担当 可否	参加 の有無						
4/11(月) 1 限	1	歯科診療時に全身状態を把握する習慣を身につける。	1) 医学学連携演習の目的	小島 寛		担当	参加		参加		参加		参加		参加												
			2) バイタルサイン・貧血・黄疸の確認	福岡医科大学 大星博明																							
			3) 検査データの評価（末梢血／血液生化学／尿）	廣藤卓雄																							
4/18(月) 1 限	2	睡眠時無呼吸症候群	睡眠時無呼吸症候群の病態	鶴見大			参加	担当	参加		参加		参加		参加												
			終夜睡眠ポリグラフ検査結果の評価	子島潤																							
			睡眠時無呼吸症候群に対する各種治療法、口腔内装置の奏効機序と適応基準	小川匠																							
4/25(月) 1 限	3	加齢・老化に伴い増加する疾患を学び、高齢者の歯科治療上の注意点を理解する。	1) 腎疾患を有する患者の歯科治療	福岡医科大学 大星博明		担当	参加		参加		参加		参加		参加												
			2) 慢性期の脳卒中患者の歯科治療	徳本正憲																							
			3) 認知症患者の歯科治療上の注意点	内藤 徹																							
5/2(月) 1 限	4	口腔から発見できる全身疾患を症候別に理解する。	1) 口腔出血とその原因疾患	福岡医科大学 池邊哲郎		担当	参加		参加		参加		参加														
			2) 口腔粘膜病変とその原因疾患	大星博明																							
			3) 口腔と眼に発症する全身疾患	川野庸一																							
5/9(月) 1 限	5	歯科診療上重要な救急時の初期対処方法と救命・救急の基本を理解する。	1) 呼吸困難を訴える患者の鑑別と対応	北海道医療大学 三浦美英			参加		参加	担当	参加																
			2) 胸痛を訴える患者の鑑別と対応	高橋伸彦																							
			3) 意識消失した患者への対応	柴田孝典																							
5/16(月) 1 限	6	歯科診療中に遭遇しやすい疾患と歯科治療上の注意点を理解する。	1) 妊婦の口腔保健状態を良好に維持するための留意点とその医学的背景	福岡大学 宮本新吾		担当	参加		参加		参加																
			2) 糖尿病患者の歯科治療上の注意点	福岡医科大学 坂上竜資																							
			3) 出血傾向のある患者の歯科治療上の注意点	城戸寛史																							
5/23(月) 1 限	7		4) ステロイド・甲状腺ホルモン治療中の患者の歯科治療上の注意点	大星博明																							
			1) 高血圧患者の歯科治療上の注意点	岩手医科大学 中居賢司		参加	参加	参加	参加	参加	担当																
			2) 虚血性心疾患の既往のある患者の歯科治療上の注意点																								
3) 不整脈患者の歯科治療上の注意点																											
5/23(月) 2 限	8	栄養管理 外科手技	4) 弁膜症・心内膜炎患者の歯科治療上の注意点																								
			1) 経口摂取不能患者の対応法	福岡医科大学 篠原徹雄		担当	参加					参加															
			2) 創傷治癒についての最近の考え方	萩家康弘 池邊哲郎																							
5/30(月) 1 限	9	歯科診療に必要な精神疾患や心身症を理解する。	1) 精神疾患の診断	神奈川歯科大学 宮岡 等			参加		参加		参加	参加	担当	参加													
			2) 精神疾患の病態と薬物療法																								
			3) 精神疾患の心理療法																								
5/30(月) 2 限	10		1) 心身症	神奈川歯科大学 宮岡 等			参加		参加		参加	参加	担当	参加													
			2) 口腔心身症1（舌痛症他）																								
			3) 口腔心身症2（自臭症他）																								
6/6(月) 1 限	11		1) 歯科診療で見られる不安による疾患	福岡歯科大学 金光芳郎 谷口省吾		担当	参加		参加																		
			2) 慢性疼痛のペインコントロール（心療内科から）																								
			3) 慢性疼痛のペインコントロール（パインクリニックから）																								
6/6(月) 2 限	12	口腔症状として副作用が出現する薬剤の適応と効能を理解する。	1) 薬剤と歯肉病変	福岡歯科大学 山崎純 池邊哲郎		担当	参加		参加																		
			2) 薬剤と顎骨病変																								
			3) 薬剤と歯の着色																								
6/13(月) 1 限	13	歯科診療時に処方する、あるいは他施設において処方される代表的な薬剤の適応、効能、副作用を学び、特に歯科治療に関連する注意点と対処方法を理解する。	4) 口腔ジスキネジアとその原因薬剤			担当	参加		参加																		
			5) ドライマウスとその原因薬剤																								
			6) 局所麻酔薬投与の注意点																								
6/13(月) 2 限	14		1) 副腎皮質ホルモンの注意点	福岡歯科大学 山崎純 大星博明		担当	参加		参加																		
			2) 抗血栓薬の注意点																								
			3) 降圧薬の注意点																								
6/20(月) 1 限	15	び、領域科を歯科疾患と理解する。	4) 糖尿病治療薬の注意点	福岡歯科大学 山崎 純 篠原徹雄		担当	参加		参加																		
			5) 高齢者での薬物治療																								
			1) 抗菌薬の使い方と注意点																								
6/20(月) 2 限	16	び、領域科を歯科疾患と理解する。	2) NSAIDの適応・効能・副作用	福岡歯科大学 山崎 純 篠原徹雄		担当	参加		参加																		
			3) 免疫抑制剤																								
			1) 中耳疾患と顎関節疾患を鑑別																								
6/27(月) 1 限	17	歯科診療中に遭遇しやすい疾患と歯科治療上の注意点を理解する。②	2) 鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性	福岡歯科大学 原田博文 池邊哲郎		担当	参加		参加																		
			3) 咽喉疾患の病因・病態と診断・治療																								
			4) 歯科診療時に診断できる頸部腫瘍																								
6/27(月) 2 限	18	医療事故の発生予防と発生時の対処法を離開する。	2) 針刺し事故の予防および対処法	九州歯科大学 中島秀彰 高橋哲			参加	参加	担当	参加																	
			3) 流行性呼吸器感染症		永井 淳																						
			4) 誤嚥・誤飲時の対応			福岡歯科大学 米田雅裕 大星博明 徳本正憲 小島 寛						担当	参加	参加													
		5) 医療事故防止対策																									

耳鼻咽喉科講義（案）

〇期 12 コマ

評価責任者：

担当教員：

（一般目標）

耳鼻咽喉科領域は解剖学的にも生理学的にも口腔領域ときわめて深い関連性を持っている。したがって、口腔医学を学ぶためには、隣接する耳鼻咽喉科領域を十分に理解することが不可欠である。

聴器、鼻・副鼻腔、咽喉頭、気管・食道の構造と機能を理解し、病理生理を把握する。さらに各疾患の病因、診断、治療に関する知識を獲得する。

（教育方法）

教科書、配布資料、PC を使用しての講義
記録媒体を用いた大型画面による講義

（評 価）

（教 科 書）

（参 考 書）

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	医学コアカリキュラム
1			ユニット1 耳鼻咽喉科学序論	耳鼻咽喉科成立および口腔との関連性を理解する。	1) 取り扱う主な器官を説明する。 2) 口腔との共通性のある疾患を列記する。	
2			ユニット2 口腔	口腔の構造と機能を理解する。	1) 口腔、味蕾、唾液腺を図示し、列記する。	(14)-【構造と機能】 -3) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
				味覚機能および味覚検査を理解する。	1) 鼓索神経、舌咽神経の解剖を説明できる。 2) 定性的味覚検査、濾紙ディスク法、電気味覚検査を説明できる。	(14)-【診断と検査の基本】-2) 味覚・嗅覚検査を説明できる。
				口腔の病因、病態、診断と治療および口腔疾患との関連について理解する。	1) 口内炎、口腔底炎、口腔癌、シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍を病因、病態、診断、治療を説明できる。	(14)-【疾患】-14) 唾液腺疾患を列挙できる 11) 鼻腔・副鼻腔、口腔、咽頭の悪性腫瘍を概説できる。
3			ユニット3 咽頭	嚥下にかかわる咽頭の構造と機能を理解する。	1) 咽頭の構造を図示し、機能を説明できる。	(14)-【構造と機能】 -3) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
				咽頭疾患の病因、病態、診断と治療および口腔疾患との関連について理解する。	1) 咽頭炎、咽頭癌、副咽頭間隙膿瘍、アデノイド、扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群の病因、病態、診断、治療を説明できる。	(14)-【疾患】 -7) 扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる。 -11) 鼻腔・副鼻腔、口腔、咽頭の悪性腫瘍を概説できる。

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	医学コアカリキュラム
4			ユニット4 喉頭	発音にかかわる喉頭の構造と機能を理解する。	1) 甲状軟骨、輪状軟骨、披裂軟骨、喉頭蓋、仮声帯、声帯、上喉頭神経、下喉頭神経の構造を図示し、機能を説明できる。	(14)-【構造と機能】 -3) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 -4) 喉頭の機能と神経支配を説明できる。
				喉頭疾患の病因、病態、診断と治療を理解する。	1) 喉頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープ、喉頭癌、反回神経麻痺、嚥声の病因、病態、診断、治療を説明できる。	(14)-【疾患】 -8) 喉頭癌の症候、診断と治療を説明できる。 -11) 鼻腔・副鼻腔、口腔、咽頭の悪性腫瘍を概説できる。
5			ユニット5 鼻腔	鼻腔の構造と機能を理解する。	1) 鼻腔、嗅上皮、副鼻腔の構造を図示し、機能を説明できる。	(14)-【構造と機能】 -3) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。
6				鼻副鼻腔疾患の病因、病態、診断と治療および口腔疾患との関連を理解する。	1) 鼻出血、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、歯性上顎洞炎、術後性頬部嚢胞、上顎洞癌の病因、病態、診断、治療を説明できる。	(14)-【構造と機能】 -4) 鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。 -5) 副鼻腔炎の病態と治療を説明できる。 -6) アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる。 -11) 鼻腔・副鼻腔、口腔、咽頭の悪性腫瘍を概説できる。
7			ユニット6 頸部	気管、食道等、頸部の構造と機能を理解する。	1) 気管・食道の構造を図示し、機能を説明できる。	(6)-【構造と機能】 -1) 気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。
				気管、食道等、頸部の病因、病態、診断と治療および口腔疾患との関連を理解できる。	1) 気管支異物、食道異物を説明する。 2) 気管切開の適応を説明する。	(14)-【疾患】 -10) 気管切開の適応を説明できる。 -12) 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物を説明し、除去法を説明できる。
8			ユニット7 耳	頸部腫瘍をきたす疾患の病因、病態、診断と治療を理解できる。	1) 頸部正中嚢胞、側頸部嚢胞、頸部リンパ節炎、甲状腺炎、甲状腺腫瘍、転移性リンパ節腫脹、悪性リンパ腫の病因、病態、診断と治療を説明できる。	(14)-【疾患】-11) 鼻腔・副鼻腔、口腔、咽頭の悪性腫瘍を概説できる。
9				外耳、中耳、内耳の構造を理解する。	1) 外耳、中耳、蝸牛、前庭、三半規管、聴神経の構造を図示し、機能を説明できる。	(14)-【構造と機能】 -1) 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 -2) 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	医学コアカリキュラム
10				聴力検査と平衡機能検査を理解する。	1) 純音聴力検査、語音聴力検査、ティンパノメトリー、眼振検査、迷路刺激検査、カロリックテストを説明できる	(14)-【診断と検査の基本】 -1) 聴力検査と平衡機能検査を説明できる。 -2) 味覚・嗅覚検査を説明できる。
11				外耳、中耳、内耳疾患病因、病態、診断と治療および口腔疾患との関連を理解する。	1) 外耳道炎、急性中耳炎、滲出性中耳炎、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、突発性難聴、メニエル病、老人性難聴、薬剤性内耳障害、顔面神経麻痺の病因、病態、診断と治療を説明できる。	(14)-【疾患】 -1) 滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の原因、診断と治療を説明できる。 -2) 伝音難聴と感音難聴、迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療を説明できる。 -3) 末梢性めまいと中枢性めまいを鑑別し、治療を説明できる。
12			ユニット8 口腔医学	口腔医学の観点から耳鼻咽喉科を理解する。	1) 具体的症例を用いて鼻・副鼻腔疾患と口腔疾患との関連性について説明できる。	(14)-【疾患】

眼科講義

一般目標：口腔医学の観点から、眼部の解剖生理および眼疾患の症状・診断・治療を理解する。

回	大項目	中項目	小項目	到達目標	医学コアカリキュラム
1	総論 1	眼解剖	眼球・付属器・ 眼窩の解剖・機能	視覚器としての眼の解剖・機能を説明する。	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。眼球運動のしくみを説明できる。対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。
2	総論 2	視機能	視力・視野	視機能を説明する。	基本的眼科検査（視力検査、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査）を列挙し、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる。
3	各論 1	代表的 眼疾患	屈折異常 白内障 緑内障 斜視・弱視	屈折障害と矯正・視野障害・視能訓練を説明する。白内障・緑内障の成因を列挙する。	屈折異常（近視、遠視、乱視）と調節障害の病態生理を説明できる。白内障の成因、症候、診断と治療を説明できる。緑内障の成因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。
4	各論 2	代表的 眼疾患	角膜疾患 結膜疾患 ドライアイ	角膜疾患・結膜疾患の成因を列挙し、口腔所見との関連について説明する。感染性疾患（単純ヘルペス・梅毒・HIV）の眼症状を列挙し口腔所見と対比する。ドライアイの成因を列挙しドライマウスとの関連を説明する。 Sjogren 症候群につき説明する。	伝染性結膜疾患の症候、診断と治療を説明できる。
5	各論 3	代表的 眼疾患	ぶどう膜炎 網膜硝子体疾患	ぶどう膜炎の原因、症候、診断と治療を説明する。パーチエット病・クローン病・潰瘍性大腸炎の症候を口腔内所見と対比して説明する。糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明する。	裂孔原性網膜剥離の症候、診断と治療を説明できる。糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明できる。ぶどう膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候、診断と治療を説明できる。
6	各論 4	代表的 眼疾患	救急疾患 眼外傷	眼窩底骨折の成因と病態を説明する。化学外傷（アルカリ、酸）の症候と救急処置を説明する。	化学外傷（アルカリ、酸）の症候と救急処置を説明できる。

小兒科講義 (案)

○期 12コマ

評価責任者：

担当教員：

(一般目標)

小児の特徴は、成人と異なり常に成長・発達していることである。口腔医学における生歯、咀嚼、嚥下等も年齢とともに成長・発達する点で小児科と共通しており、小児科と口腔医学はときわめて深い関連性がある。すなわち小児科を十分理解することが不可欠である。さらに、小児では先天性疾患をはじめ、成人領域の疾患にはない疾患特殊性があり、これら疾患の病因、診断、治療に関する知識を獲得する。

(教育方法)

教科書、板書を中心の講義

(評 価)

(教科書)

内山聖（編）標準小児科学（第7版）医学書院

(参 考 書)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	医学コアカリキュラム
1			ユニット1 小児の成長と発達	小児の成長と発達を理解する。	1) 小児の成長と発達の評価と考え方を説明することができる。	D-5 胎児・新生児・乳幼児。小児期から思春期にかけての生理的成長・発達とその以上の特徴および精神・社会的な問題を理解する。
2			ユニット2 小児科診断治療総論 小児の栄養	小児の面接と診察の手法、治療学を理解する。	1) 小児の面接と診察の手法、治療学の基本を説明することができる。	E-3 医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 小児の全身診察の手順を説明できる。 主要疾患の診断・治療計画を立てることができる。
				小児栄養の意義を理解する。	1) 母乳・人工栄養、離乳、ビタミン欠乏症について説明することができる。	D-5 乳幼児の栄養法の基本を概説できる。
3			ユニット3 先天異常	遺伝性疾患と染色体異常、先天奇形、奇形症候群を理解する。	1) 遺伝形式、代表的な染色体異常症を説明することができる。 2) 環境因子による奇形、代表的な奇形症候群を説明することができる。	B-3 遺伝子・染色体異常と発生発達異常や疾患の発生との関連を理解する。
4			ユニット4 新生児	新生児の特殊性を理解する。	1) 新生児の生理を理解し、主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	D-5-(1) 胎児・新生児の生理的特徴、先天性疾患、黄疸、呼吸困難について説明できる。
5			ユニット5 血液、免疫	小児の血液疾患、免疫疾患を理解する。	1) 主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる	C-1-(4) 小児の血液疾患について説明できる。 B-2-(2) 先天性免疫不全を概説できる。
6			ユニット6 小児のアレルギー、呼吸器、膠原病	小児のアレルギー、呼吸器疾患、膠原病を理解する。	1) 主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	B-2-(2) アレルギー発症の機序を概説できる D-3 免疫アレルギー疾患

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	医学コアカリキュラム
						患の病態を理科し、症候、診断と治療を学ぶ。
7			ユニット7 内分泌、代謝	小児の内分泌疾患を理解する。	1) 小児の内分泌機能を理解し、主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	C-12 内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病院、病態生理、小児、診断と治療を学ぶ。
				小児の代謝疾患を理解する。	1) 主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	
8			ユニット8 感染症	小児の感染症を理解する。	1) 小児期感染症の特徴、予防接種、代表的な感染症の診断、治療、予後を説明することができる。	D-1 主な感染症の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
9			ユニット9 循環器	小児の循環器疾患を理解する。	1) 小児の循環器疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	C-5 循環器系に構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 D-3 川崎病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
10			ユニット10 神経、精神	小児の神経疾患を理解する。	小児の神経疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	C-2 神経系の正常構造と機能を理科し、主な神経疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 C-15-(3) 精神遅滞と広汎性発達障害、多動性障害を概説できる。
				小児の精神疾患を理解する。	小児の精神疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	
11			ユニット11 腎	小児の腎疾患を理解する。	小児の腎疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	C-8 腎・尿路系の構造と機能を理解し、主な腎・尿路系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
12			ユニット12 消化器、小児外科、小児救急	小児の消化器疾患を理解する。	1) 小児の代表的な消化器疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	C-7 消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 (
				小児の小児外科疾患を理解する。	1) 代表的な小児外科疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	
				小児の救急疾患を理解する。	1) 小児救急疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	

精神医学・心身医学(案)

前期 10コマ

評価責任者：

担当教員：

(一般目標)

代表的な精神疾患と心身症（歯科領域を含む）について、疾患の病態・診断法・治療法を学び、心の病について身体面、心理面、社会面から考える能力を養う。

(教育方法)

講義

(評価)

(教科書)

(参考書)

現代臨床精神医学 第11版 大熊輝雄著、金原出版、2008年

コア・ローテーション精神科 改定2版 武田雅俊、鹿島晴雄編、金芳堂、2007年

標準精神医学 第4版 野村総一郎、樋口輝彦、尾崎紀夫編、医学書院、2009年

学生のための精神医学 第2版 上野武治、太田保之編、医歯薬出版、2006年

TEXT精神医学 第3版 加藤進昌、神庭重信編、南山堂、2007年

心身医学標準テキスト 第3版 久保千春編、医学書院、2009年

歯科心身医学 日本歯科心身医学会編、医師薬出版、2003年

回	授業日	授業 担当者	ユニット番 号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コアカリキュラム
1			ユニット1 精神医学総論	精神医療の歴史と現状 を理解する	1)精神医学の歴史を述べる。 2)精神医療の現状について述べる。(ノー マライゼーション、脱施設化、精神保健福 祉法、自立支援法、措置入院) 3)精神疾患の分類と疫学について述べる。 (多軸診断、ICD-10、DSM-IV)	F-4-5)心因性疾患 C-2-2)保健医療福 祉制度
2				精神疾患の診断と治療 を理解する。	1)精神疾患の病因について述べる。(脆弱 性-ストレス-対処モデル、神経伝達物質で あるドパミン、セロトニン、ノルアドレナ リン、GABA) 2)心理面接と心理テストについて述べる。 (心理的正常と異常、病識、自我意識) 3)精神疾患でみられる症状について説明す る。(幻覚、妄想、不安、恐怖、抑うつ、 そう状態、失見当識、記憶障害、知的障害、 せん妄) 4)臨床検査について述べる。(脳波、脳画 像検査、髄液検査) 5)薬物療法と心理療法について述べる。 (精神分析療法、行動療法、認知療法、来 談者中心療法)	F-4-5)心因性疾患
3			ユニット2 精神障害各論 1	統合失調症の概念、症 状、病型、治療法につ いて理解する。	1)病型(妄想型、解体型、緊張型、残遺型) と症状(陽性症状と陰性症状、被害妄想、 幻覚(幻聴))について述べる。 2)ドパミン仮説について述べる。 3)治療について抗精神病薬と心理療法、社 会復帰について述べる。	F-4-5)心因性疾患

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番 号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コアカリキュラム
4				気分障害（うつ病、そ ううつ病）の概念、症 状、病型、治療法につ いて理解する。	1) 病型(単極型と双極型)について述べる。 2) そう病相とうつ病相の症状について述べ る。 3) 病因について述べる。(アミン仮説、病 前性格、喪失体験) 4) うつ病の亜型(仮面うつ病、初老期うつ 病、産後うつ病、季節性感情障害) 5) 治療について薬物療法(三環系抗うつ薬、 SSRI、抗そう薬)、心理療法について述べ る。	F-4-5) 心因性疾患
5				不安障害（神経症）と 関連疾患の概念、症状、 病型、治療法について 理解する。	1) 不安障害の病型について述べる(パニック 障害、特定恐怖、社会不安障害、強迫性 障害、心的外傷後ストレス障害) 2) 不安障害関連の疾患について述べる。 (身体表現性障害、解離性障害、虚偽性障 害、(人格障害)、睡眠障害) 3) 病因について述べる。(GABA、セロトニ ン、性格) 4) 薬物療法(抗不安薬)と心理療法(行動療 法、精神分析、森田療法)について述べる。	F-4-5) 心因性疾患
6			ユニット3 精神疾患各論 2	物質関連障害、依存症 の概念、症状、病型、 治療法について理解す る。 てんかん、身体疾患に 伴う精神疾患について 理解する。	1) 物質関連障害について種類と症状を述べ る。(アルコール、あへん、大麻、覚せい 剤、ニコチン) 2) 依存について述べる。(精神依存、身体 依存、離脱症候群、耐性) 3) てんかんの発作分類(全般発作と部分発 作、特発性と症候性)、症状、治療(抗てん かん薬)について述べる。 4) 一般身体疾患に伴う精神疾患について述 べる。(甲状腺や副腎皮質の病気、薬剤性)	F-4-5) 心因性疾患
7				老年期精神障害につ いて理解する。	1) 高齢者の心理、行動の特徴を述べる。 2) せん妄、認知症をきたす疾患や病態をあ げ、症状、治療法を述べる。(アルツハイ マー型認知症、レビー小体型認知症、前頭 側頭葉型変性症、脳血管性認知症) 3) 高齢者への対応、介護保険制度について 述べる。	F-4-5) 心因性疾患
8			ユニット4 精神疾患各論 3	小児期・思春期・青年 期の精神疾患の概念、 症状、治療法について 理解する。	1) 小児期の精神疾患をあげ、症状、診断、 治療を述べる。(チック、吃音症、学習障 害、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障 害) 2) 精神遅滞をきたす疾患をあげ、特徴を述 べる。(ダウン症候群) 3) 思春期・青年期に見られる精神疾患をあ げ、症状、診断、治療を述べる。(摂食障 害、過敏性腸症候群、不登校、リストカッ ト)	F-4-5) 心因性疾患
9				心身症、ならびに歯科 領域の心身症の概念、 症状、治療法について 理解する。	1) 心身症、心身医学、心療内科について説 明し、代表的な心身症をあげて、心身医学 的側面を説明する。(心身相関、心理社会 的因子) 2) 歯科心身症をあげて、症状、診断、治療 法を説明する。(舌痛症、顎関節症、口腔 異常感症、非定型口腔顔面痛、自己臭症、 歯科治療恐怖症、過換気症候群、神経反射 性(調節性)失神)	F-4-5) 心因性疾患

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番 号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コアカリキュラム
10			ユニット5 リエゾン精神 医学とメンタ ルヘルス	コンサルテーション・リエゾン精神医学の領域について理解する。 メンタルヘルス、自殺について理解する。	1) コンサルテーション・リエゾン精神医学について説明できる。 2) ストレスモデルについて述べる。(ライフイベント、社会的支援、対処行動) 3) 学校・職場のメンタルヘルスについて述べる。(スクールカウンセラー、学校保健、産業保健) 4) 自殺について疫学、原因、予防を述べる。(自殺企図、希死念慮、いのちの電話)	F-4-5) 心因性疾患 D-5-2) 薬物連用の影響

注

1. 小児期の精神障害は小児科と重複している？
2. 歯科領域の心身症は別のカリキュラムがある？
3. メンタルヘルスを追加した
4. 歯科心身症を含める場合に、表題は「精神医学・心身医学」とした。

コース	皮膚科		
学年	第4学年または第5学年	単位	単位
科目担当責任者	*（*講座 *学・教授）	オフィスアワー	毎週*曜日 17:00～18:00（研究室） メールアドレス？
一般目標 (G10)	正常皮膚の構造と機能を理解し、そのうえで口腔粘膜病変を全身との関連から理解する。		

講義ユニット	一般目標 (G10)
皮膚・粘膜の基本構造と機能	皮膚と口腔粘膜の構造について理解する。
色素異常 母斑、母斑症	皮膚と口腔粘膜に出現する色素異常と母斑、母斑症について理解する。
角化症 炎症性角化病変	口腔粘膜に出現する炎症性角化病変ならびに口腔粘膜の角化異常を理解する。
水疱、びらん形成病変	口腔粘膜に水疱、びらんを形成する自己免疫性疾患や薬剤アレルギーを理解する。
潰瘍形成病変	口腔粘膜に潰瘍を形成する疾患について理解する。
感染症 ウイルス感染症	各種ウイルス感染症と口腔粘膜病変について理解する。
感染症 細菌感染症	口腔粘膜に見られる細菌感染症について理解する。
その他の皮膚・口腔粘膜疾患	自己免疫疾患や免疫不全症に伴う口腔粘膜疾患や歯科用金属アレルギーを理解する。

授業計画＜講義＞

回	ユニット	行動目標（SB0s）	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ
					国試出題基準
1	皮膚・粘膜の基本構造と機能	1. 皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。 2. 上皮を形態的、機能的に分類できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書する。		D-2-3)-(1)-①②
					総Ⅲ-1-F
2	色素異常 母斑、母斑症	1. 口腔粘膜の色素の異常を起こす疾患を説明できる。 2. メラニン色素沈着症、外因性色素沈着、色素性母斑、Peutz-Jeghers症候群、Albright症候群、von Recklinghausen病、を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書する。		F-2-4)-(2)-①⑨
					各Ⅳ-(Ⅰ)-6-1-U～Z
3	角化症 炎症性角化病変	1. 口腔粘膜疾患の角化の異常を起こす疾患と治療法を説明できる。 2. 口腔扁平苔癬、白板症を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書する。		F-2-4)-(2)-①⑨
					各Ⅳ-(Ⅰ)-6-Q, S

4	水疱、びらん形成病変	1. 口腔粘膜の水疱、びらんを形成する疾患の種類、特徴、治療法を説明できる。 2. 天疱瘡、類天疱瘡、表皮水疱症、多形滲出性紅斑、Stevens-Johnson症候群、中毒性表皮壊死症、全身性紅斑性狼瘡を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書きする。		F-2-4)-(2)-①⑨
					各IV-(Ⅰ)-6-E
5	潰瘍形成病変	1. 潰瘍形成疾患の種類、特徴、治療法を説明できる。 2. 慢性再発性アフタ、Behcet病、壊死性潰瘍性歯肉口内炎を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書きする。		F-2-4)-(2)-①⑨
					各IV-(Ⅰ)-6-L
6	感染症 ウイルス感染症	1. 口腔のウイルス感染症の種類、特徴、治療法を説明できる。 2. 単純疱疹、疱疹性口内炎、帯状疱疹、ヘルパンギーナ、手足口病を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書きする。		F-2-4)-(2)-①⑨
					各IV-(Ⅰ)-6-A～D 各IV-(Ⅱ)-6-A
7	感染症 細菌感染症	1. 口腔の細菌感染症の種類、特徴、治療法を説明できる。 2. 口腔カンジダ症を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書きする。		F-2-4)-(2)-①⑥⑨
					F-2-4)-(7)-② 各IV-(Ⅰ)-6-R
8	その他の皮膚・口腔粘膜疾患	1. 口腔粘膜疾患と関連する膠原病、免疫不全の種類と特徴を説明できる。歯科用金属アレルギーに係る病変の診断と治療法を説明できる。 2. Sjogren症候群の特徴、症状、治療法を説明できる。	スライド、ビデオを使い要点を概説する。ポイントを板書きする。		F-2-4)-(2)-①⑥⑨⑩
					F-2-4)-(7)-⑦
					各IV-(Ⅲ)-1-G～H
評価法 (EV)		多肢選択式試験、口頭試問など			

産婦人科学 (担当 医学部産婦人科学講座)

第5学年 後期

後期

講義
9時間

一般目標 (講義)

歯科医師として女性を診察する際に留意すべき、性周期に伴う変化や妊娠、分娩、産褥に伴う身体的、精神的変化にたいする知識を深めることを目的とする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
9月9日(水) 3限	小山理恵助教	産婦人科学診断 産婦人科内分泌学	1. 女性性器の主な疾患について病態、診断、治療を説明できる。 2. 女性性器における構造と機能、および内分泌との関連を説明できる。
9月16日(水) 3限	小山理恵助教	産科 正常妊娠	1. 正常な妊娠、分娩、産褥、胎児、新生児における形態学的、生理学的推移を説明できる。 2. 歯科治療との関連を知る。
9月30日(水) 3限	小山理恵助教	産科 異常妊娠	1. 妊娠の異常、分娩、胎児、新生児の異常について説明できる。
10月7日(水) 3限	小山理恵助教	婦人科総論	1. 女性性器の良性疾患の診断、治療を説明できる。 2. 女性性器の悪性疾患の診断、治療を説明できる。
10月21日(水) 3限	小山理恵助教	産科 分娩	1. 正常分娩の過程と母体変化について説明できる。
10月28日(水) 3限	小山理恵助教	産科 産褥	1. 産褥における母体変化について説明できる。 2. 正常と異常の違いを見極めることができる。

主な参考書 (※教科書として指定)

書 名	著者氏名	発行所	発行年
New エッセンシャル産科学・ 婦人科学 第3版 標準産科婦人科学 第3版	池ノ上 克ほか編 丸尾猛、岡井崇編	医歯薬出版 医学書院	2004年 2004年

成績評価方法

試験成績と出席率で評価する。

オフィスアワー

氏 名	方式	曜日	時間帯	備 考
小 山 理 恵	A-i	水	13:00～14:30	不在のときは課題についてレポート提出

医科隣接6科目(精神医学・小児科学・耳鼻咽喉学・眼科学・産婦人科学・皮膚科学) WG(案)

各授業科目別ワーキンググループ 候補者							
科目	確認		氏名	役職	所属	授業担当教科	備考
精神医学	○	主任	稲光 哲明	教授	福岡歯科大学	心療内科学	精神医学シラバス作成・授業担当者
	○	コーディネーター	小島 寛	教授	福岡歯科大学	障害者歯科学	
	○	メンバー	安彦 善裕	教授	北海道医療大学	口腔内科	
	○	メンバー	豊村 研吾	助教	福岡歯科大学	心療内科学	
	○	メンバー	晴佐久 悟	講師	福岡歯科大学	公衆衛生学	
小児科学	○	主任	廣瀬 伸一	教授	福岡大学	小児科学	小児科学シラバス作成・授業担当者
	○	コーディネーター	柳田 憲一	講師	福岡歯科大学	小児歯科学	
	○	メンバー	千田 勝一	教授	岩手医科大学	小児科学	
	○	メンバー	板橋 家頭夫	教授	昭和大学	小児科学	
耳鼻咽喉科学	○	主任	八尾 和雄	教授	神奈川歯科大学	耳鼻咽喉科学	
	○	コーディネーター	池邊 哲郎	教授	福岡歯科大学	口腔外科学	
	○	メンバー	原田 博文	教授	福岡歯科大学	耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学シラバス作成・授業担当者
		メンバー			九州歯科大学		
眼科学	○	主任	畑 快右	教授	福岡歯科大学	眼科学	
	○	コーディネーター	向野 利一郎	助教	福岡歯科大学	眼科学	
	○	メンバー	黒坂 大次郎	教授	岩手医科大学	眼科学	
	○	メンバー	尾崎 弘明	診療教授	福岡大学	眼科学	
		メンバー			鶴見大学	眼科学	
産婦人科学	○	主任	福島 明宗	准教授	岩手医科大学	産婦人科学	産婦人科学シラバス作成校
	○	コーディネーター	大星 博明	教授	福岡歯科大学	内科学	
	○	メンバー	宮本 新吾	教授	福岡大学	産婦人科学	
	○	メンバー	大槻 克文	講師	昭和大学	産婦人科学	
皮膚科学	○	主任	秋山 正基	准教授	昭和大学	皮膚科学	
	○	コーディネーター	萩家 康弘	講師	福岡歯科大学	皮膚科学	
	○	メンバー	中山 樹一郎	教授	福岡大学	皮膚科学	
	○	メンバー	今福 信一	准教授	福岡大学	皮膚科学	
	○	メンバー	赤坂 俊英	教授	岩手医科大学	皮膚科学	
	○	メンバー	高橋 和宏	准教授	岩手医科大学	皮膚科学	

耳鼻咽喉科学(案)

〇期 16 コマ

評価責任者：

担当教員：

(一般目標)

耳鼻咽喉科学の領域は解剖学的にも生理学的にも複雑で繊細な器官が多い。その疾患は患者の日常生活の質を著しく低下させる。その点を十分理解する。聴器、平衡器、咽頭、喉頭の構造と機能を理解し、病理生理を把握した上で、各疾患の病因、診断、治療に関する知識を獲得する。

(教育方法)

プリント、スライドなどによる講義

(学習方法)

予習の項目やキーワードを教科書で調べておく。特に解剖と生理はすでに習得した内容を復習しておく。

(評価)

(教科書)

(参考書)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	予習の項目	キーワード
1			ユニット1 総論	耳鼻咽喉科学の成り立ちとその領域を理解する。	1) 耳鼻咽喉科で扱う器官を列挙できる。	・外耳、中耳、内耳、鼻。副鼻腔、咽頭、喉頭の解剖を復習する。	頭頸部の解剖学
2			ユニット2 耳科学	聴覚・平衡覚 (外耳、中耳、内耳) の構造と検査法を理解する、	1) 耳 (聴覚・平衡覚) の構造と伝導路を説明できる。 2) オージオグラム、聴力検査を説明できる。 3) 平衡機能検査を説明できる。	・外耳、中耳、内耳、三半規管の解剖を復習すること。 ・聴力検査の目的は何か。 ・平衡機能検査の目的は何か。	側頭骨の解剖、外耳、中耳、内耳、聴器、平衡器官、聴力検査

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
3				中耳疾患を理解する。	1) 中耳炎と滲出性中耳炎を説明できる。	・中耳の解剖を復習する。 ・中耳炎の原因と症状を調べる。	中耳炎、滲出性中耳炎、急性中耳炎、慢性中耳炎
4				内耳疾患と平衡障害を理解する。	1) 伝音難聴と感音難聴を説明できる。 2) めまいの鑑別とメニエール病を説明できる。	・難聴の定義、症状を調べる。 ・めまいの原因を調べる。	伝音難聴、感音難聴、メニエール病、人工内耳
5			ユニット3 鼻科学	鼻・副鼻腔の構造と検査法を理解する。	1) 鼻、副鼻腔の構造を説明できる。 2) 鼻、副鼻腔 X 線検査所見を理解できる。 3) 嗅覚検査を理解できる。	鼻・副鼻腔の解剖を復習する。 ・鼻・副鼻腔の CT 像を調べる。 嗅覚の生理学を復習する。	副鼻腔 X 線検査、嗅覚検査、内視鏡検査、鼻鏡検査
6				副鼻腔炎の診断と治療法を理解する。	1) 副鼻腔炎の病態と治療を説明できる。	・副鼻腔炎の原因を調べる。 ・鼻性上顎洞炎と歯性上顎洞炎との鑑別を調べる。 治療法の種類を調べる。	副鼻腔炎、上顎洞炎、篩骨洞炎、前頭洞炎、上顎洞癌との鑑別
7				鼻の代表的な疾患を理解する。	1) アレルギー性鼻炎の病態と治療を説明できる。 2) 鼻出血とその止血法を説明できる。	・一般的なアレルギーのメカニズムを免疫学教科書で調べる。 ・鼻出血の好発部位と鼻の解剖を調べる。 ・止血法を調べる。	鼻アレルギー、アレルギー性鼻炎、花粉症、キーゼンバツハ、鼻出血
8			ユニット4 咽頭科学と喉頭科学	咽頭・喉頭の構造と機能を理解する。	1) 咽頭・喉頭の構造を説明できる。	・咽頭・喉頭の解剖を復習する。	咽頭・喉頭の解剖と生理、ワルダイエル輪、扁桃、声帯

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
9				1. 咽頭と喉頭の代表的な症候を理解する。 2. 扁桃炎を理解する。	1) 咽頭痛を示す疾患を列举できる。 2) 嚥声をきたす疾患とその原因を説明できる。 3) 扁桃炎の病態を説明できる。	・声帯と反回神経の関係を調べる。 ・咽頭炎の原因は何か。 ・扁桃の種類と場所と機能を調べる。	咽頭痛、反回神経麻痺、嚥声、扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、アデノイド
10				咽頭と喉頭の腫瘍を理解する。	1) 咽頭癌の診断と治療を説明できる。 2) 喉頭癌の診断と治療を説明できる。	・癌の一般的な特徴と治療法（外科手術、放射線療法、化学療法）を調べる。	咽頭癌、喉頭癌、喉頭摘出
11				1. 咽頭、喉頭の異物の診断法と除去法を理解する。 2. 睡眠時無呼吸症候群への耳鼻科的アプローチを説明できる。	1) 咽頭、喉頭、気管支、食道の代表的な異物を説明し除去法を説明できる。 2) 睡眠時無呼吸症候群の診断と手術法を説明できる。	・誤嚥した異物が繫留しやすい部位はどこか。 ・睡眠時無呼吸症候群とは何か。	異物、誤飲、誤嚥、睡眠時無呼吸症候群
12			ユニット5 頭頸部・気管・食道・唾液腺	頭頸部の腫瘍性病変を理解する。	1) 頭頸部の腫瘍性病変を列举できる。 2) 頭頸部の腫瘍性病変の診断法を説明できる。	・頸部の解剖を復習する。 ・頸部の腫脹や腫瘍の原因、特に嚢胞、リンパ節疾患について調べる。 ・頸部の画像（CT、MRI）の見方を調べる。	頭頸部の嚢胞、リンパ節疾患、悪性リンパ腫
13				1. 頭頸部の外傷を理解する。 2. 気管切開の方法を理解する。	1) 頭頸部の外傷・骨折を説明できる。 2) 気管切開の適応を説明できる。	・頭頸部の外傷の部位や種類を調べる。 ・なぜ気管切開が必要になるのか。	頭頸部の外傷、骨折、鼻骨骨折、気管切開
14				1. 耳下腺疾患を理解する。 2. 味覚障害を理解する。	1) 唾液腺（特に耳下腺）疾患を列举できる。 2) 味覚検査を理解し味覚障害をきたす疾患を列举できる。	・耳下腺と顔面神経の解剖学を復習する。 ・味覚のメカニズムを調べる。	耳下腺腫瘍、耳下腺炎、顔面神経麻痺、味覚障害、味覚異常

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
15			ユニット6 嚥下障害	嚥下と音声のメカニズムを理解する。	1) 嚥下と音声の解剖・生理を説明できる。 2) 嚥下のメカニズムを説明できる。	・嚥下に必要な器官を調べる。 ・発音、構音に必要な器官を調べる。 ・構音障害の種類を調べる。	開鼻声、閉鼻声、鼻咽腔閉鎖機能、構音障害、嚥下障害、誤嚥、喉頭挙上、舌骨、
16				嚥下障害を理解する。	1) 嚥下障害の病態・診断法を説明できる。 2) 嚥下障害のリハビリと手術法を説明できる。	・嚥下障害の原因は何か。	嚥下障害、誤嚥、VF、誤嚥性肺炎

眼科学モデルシラバス（案）

○期 ○コマ

評価責任者：

 担当教員： 畑快右
 中尾新太郎
 向野利一郎
 大場久美代

（一般目標）

総論として、臨床医として必要な眼科学の基礎的知識の習得を目的とし、眼科学各論においては各疾患につき、従来の古典的な眼科学の観点ばかりでなく、今現在の眼科医療の問題点や今後の発展性などについて触れる。

（教育方法）

講義（プリント、スライド）による。

（学習方法）

授業前後に下記教科書の該当部分を学習すること

（評価）

論述試験、もしくは多枝選択試験による。

（教科書）

イラスト眼科（著者：渡辺郁緒、新美勝彦）文光堂

（参考書）

丸尾敏夫 他 編集「眼科学」文光堂 2002 （眼科学の代表的教科書）
 大野重昭 他 編集「標準眼科学」医学書院 2007

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
1		畑	ユニット1 構造と機能	眼の解剖と各組織の生理機能を理解する。	1) 視器とその付属器の構造と役割を説明することができる。 2) 明視を得るための生理的機能（調節、屈折など）を説明することができる。		眼瞼、角膜、虹彩、毛様体、水晶体、硝子体、網膜、脈絡膜、視神経、強膜、結膜、ぶどう膜、視交叉、外側膝状体、視放線、視覚野、直接対光反射、間接対光反射、輻輳反射
2		畑	ユニット2 主要症候と検査	眼疾患の主要症候と検査法について理解する。	視器に対する生理的、解剖学的、臨床的検査法を説明することができる。		動的視野検査、静的視野検査、中心暗点計、細隙灯顕微鏡、眼圧検査、倒像鏡検査
3		畑	ユニット3 屈折異常と白内障	視器および付属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	1) 近視、遠視、乱視、老視それぞれの病態を説明する。 2) 白内障の病態及び治療法をする。		近視、遠視、乱視、老視、調節麻痺、調節痙攣 核白内障、皮質白内障、水晶体超音波乳化吸引術、眼内レンズ挿入術

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
4		大場	ユニット4 伝染性結膜疾患 と角膜疾患	視器および附属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	1) 流行性角結膜炎の症状と治療を説明する。 2) 角膜ジストロフィの病態、診断について説明することができる		プール熱、濾胞、充血、眼脂、流涙、耳前リンパ節腫脹顆粒状角膜ジストロフィ、格子状角膜ジストロフィ、斑状角膜ジストロフィ、膠様滴状角膜ジストロフィ
5		畑	ユニット5 加齢黄斑変性	視器および附属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	1) 加齢黄斑変性の病態、診断について説明することができる。 2) 加齢黄斑変性の治療について説明することができる。		滲出型、萎縮型、抗 VEGF 抗体、光線力学療法
6		中尾	ユニット6 緑内障	視器および附属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	1) 緑内障の病態を閉塞隅角、開放隅角に分けて説明する。 2) 緑内障発作を誘発する薬剤について説明する。 3) 緑内障の治療について説明することができる。		開放隅角、閉塞隅角、急性緑内障発作、アトロピン、抗コリン剤
7		畑	ユニット7 糖尿病網膜症及び高血圧性網膜症	視器および附属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	1) 糖尿病網膜症の診断・病態について説明する。 2) 糖尿病網膜症の治療について説明する。 3) 高血圧性網膜症の診断・病態について説明する。		糖尿病網膜症、高血圧性網膜症、軟性白斑、硬性白斑、綿花様白斑、Keith-Wagner 分類
8		畑	ユニット8 網膜剥離	視器および附属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	裂孔原性網膜剥離の症状、病態を説明し、その治療法の説明をする。		飛蚊症、光視症、網膜光凝固術、強膜内陥術、硝子体手術
9		向野	ユニット9 全身疾患・歯科と眼	全身疾患・歯科と眼に関連する疾患について理解する	1) 代表的ぶどう膜炎の原因疾患を列挙する。 2) ベーチェット病の病態と治療について説明することができる。 3) シェーグレン症候群の病態と治療について説明することができる。		サルコイドーシス、ベーチェット病、フォークト・小柳・原田病、飛蚊症、ステロイドパルス療法、口腔内アフタ、陰部潰瘍、ドライアイ、角膜びらん

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
10		畑	ユニット 10 眼科救急疾患	視器および附属器の機能、疾患を各部位別組織別に理解する。	1) アルカリと酸の違いによる病態の違いと応急処置法を説明する。 2) 急性緑内障発作の症候、診断と治療を説明する。		組織浸透性、持続洗眼、角膜混濁、急性緑内障発作、頭痛、眼痛、嘔吐、高浸透圧利尿剤、レーザー虹彩切開術

小児科学モデルシラバス（案）

〇期 〇コマ

評価責任者：

担当教員：

（概要）

小児の特徴は、成人と異なり、常に成長・発達していることである。口腔医学における生歯、咀嚼、嚥下等も、年齢とともに成長・発達する点で小児科と共通しており、小児科と口腔医学はときわめて深い関連性がある。すなわち小児科を十分理解することが不可欠である。さらに、小児では先天性疾患をはじめ、成人領域の疾患にはない疾患特殊性があり、これら疾患の病因、診断、治療に関する知識を獲得する。

（一般目標）

小児の口腔医学を実践するために、小児の特殊性と疾患を理解する。

（教育方法）

教科書に基づく、板書を中心の講義（パワーポイント併用）

（学習方法）

予習：教科書を読む。分からない医学用語はあらかじめ調べておく。

講義：要点をつかみ、ノートを取り理解する。

復習：教科書・ノートで確認し、理解を深める。

（評価）

筆記試験による。

（教科書）

“内山聖（編）標準小児科学（第7版）医学書院” 2009 年

*シラバス完成後「歯科医学生のための小児科学」の仮題を作成予定。

（参考書）

“内山聖（編）小児科学（第3版）医学書院” 2008 年*

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
1			ユニット1 小児の成長と発達	小児の特殊性を知るために、小児の成長と発達を理解する。	1)小児の成長と発達の評価と考え方を説明することができる。 2)二次性徴を説明することができる。	胎児期、新生児期、乳幼児期、から思春期にかけての生理的成長・発達とその以上の特徴および精神・社会的な問題を理解する。	成長と発達
2			ユニット2 小児科診断治療総論 小児の栄養	円滑な診療を開始するために、小児の面接と診察の手法、治療学を理解する。	1)小児の面接と診察の手法、治療学の基本を説明することができる。 2)小児の薬剤投与量の基本的な考え方を説明することができる。 3)薬剤の副作用、薬剤投与の禁忌を説明することができる。	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。小児の全身診察の手順を説明できる。主要疾患の診断・治療計画を立てることができる。	小児の面接と診察 薬物療法
				小児の発育を促すために、小児栄養の意義を理解する。	1)母乳・人工栄養、離乳、ビタミン欠乏症について説明することができる。 2)小児の栄養所要量の特徴を説明することができる。	乳幼児の栄養法の基本を概説できる。	栄養

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
					る。		
3			ユニット3 先天異常	先天異常疾患を治療するために、遺伝性疾患と染色体異常、先天奇形、奇形症候群を理解する。	1) 遺伝形式、代表的な染色体異常症を説明することができる。 2) 環境因子による奇形、代表的な奇形症候群を説明することができる。 3) 顎、歯牙、口腔の異常を伴う先天性疾患を説明することができる。	主な先天性疾患を列挙する。	遺伝子、染色体、先天異常
4			ユニット4 新生児	生直後の治療に対応するために、新生児の特殊性を理解する。	1) 新生児の生理を理解し、説明することができる。 2) 主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	胎児・新生児の生理的特徴、先天性疾患、黄疸、呼吸困難について説明できる。	胎児、新生児
5			ユニット5 血液、免疫	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の血液疾患、免疫疾患を理解する。	1) 主な血液、免疫疾患の診断、治療、予後を説明することができる	小児の血液疾患、免疫疾患の診断法と治療法における特徴を概説できる。	血液、免疫
6			ユニット6 アレルギー、呼吸器、膠原病	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児のアレルギー、呼吸器疾患、膠原病を理解する。	1) 主なアレルギー。呼吸器疾患、膠原病の診断、治療、予後を説明することができる。	小児のアレルギー疾患、呼吸器疾患、膠原病の診断法と治療法における特徴を概説できる。	アレルギー、呼吸器、膠原病
7			ユニット7 内分泌、代謝	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の内分泌疾患を理解する。	1) 小児の内分泌機能を理解し、主な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	小児の内分泌疾患と代謝疾患の診断法と治療法における特徴を概説できる。	内分泌
				合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の代謝疾患を理解する。	1) 主な小児の代謝疾患の診断、治療、予後を説明することができる。		代謝
8			ユニット8 感染症	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の感染症を理解する。	1) 小児の感染症の特徴と代表的な感染症の診断、治療、予後を説明することができる。 2) 予防接種の必要性について説明することができる。	小児の感染症の診断法と治療法における特徴を概説できる。 小児保健における予防接種の異議を説明できる。	感染症、予防接種
9			ユニット9 循環器	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の循環器疾患を理解する。	1) 小児の循環器疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	小児の循環器疾患の診断法と治療法における特徴を概説できる。	循環器
10			ユニット10 神経、精神	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の神経疾患を理解する。	小児の神経疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	小児の神経疾患の診断法と治療法における特徴を概説できる。	神経

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
				合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の精神疾患を理解する。	小児の精神疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	小児行動異常（注意欠陥多動障害、自閉症、学習障害、チック）の診断法と治療法における特徴を概説できる。	精神疾患、行動異常
11			ユニット 11 腎	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の腎疾患を理解する。	小児の腎疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	小児の腎疾患の診断法と治療法における特徴を概説できる。	腎
12			ユニット 12 消化器、小児外科、小児救急	合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の消化器疾患を理解する。	1) 小児の代表的な消化器疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。	小児の消化器疾患、外科疾患、救急疾患の診断法と治療法における特徴を概説できる。	消化器、外科、救急
				合併疾患を持つ小児を治療するために、小児の小児外科疾患を理解する。	1) 代表的な小児外科疾患の診断、治療、予後を説明することができる。		
				小児救急診療に携わるために、小児の救急疾患を理解する。	1) 小児救急疾患の特徴を理解し、代表的な疾患の診断、治療、予後を説明することができる。		

精神医学・心身医学モデルシラバス（案）

○期 14 コマ

評価責任者：

担当教員：

(一般目標)

代表的な精神疾患や心身症（歯科領域の疾患を含む）について、病態・診断法・治療法を学ぶ。
疾患を身体面、心理面、社会面から統合的に考える能力を養う。

(教育方法)

講義

(学習方法)

講義のポイントとなるキーワードについて授業前に調べておくこと。

(評価)

定期試験（60％）、客観試験（40％）

(教科書)

指定なし

(参考書)

現代臨床精神医学（第11版） 大熊輝雄著、金原出版、2008年
コア・ローテーション精神科（改訂2版） 武田雅俊、鹿島晴雄編、金芳堂、2007年
標準精神医学（第4版） 野村総一郎、樋口輝彦、尾崎紀夫編、医学書院、2009年
学生のための精神医学（第2版） 上野武治、太田保之編、医歯薬出版、2006年
TEXT精神医学（第3版） 加藤進昌、神庭重信編、南山堂、2007年
心身医学標準テキスト（第3版） 久保千春編、医学書院、2009年
歯科心身医学 日本歯科心身医学会編、医歯薬出版、2003年

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	予習の項目	キーワード
1			ユニット1 精神医学総論	精神医学の歴史と現状 を理解する。	1) 精神医学の歴史を説明 する。 2) 精神保健の基礎的概念 とシステムの現状を説明 する。 3) 精神疾患の診断法を説 明する。 4) コンサルテーション・ リエゾン精神医学につ いて説明する。	・ 精神疾患には どのような疾 患があるか ・ 障害者自立支 援法とは何か	ヒポクラテス、フ ロイト、ノーマラ イゼーション、脱 施設化、精神保健 福祉法、措置入 院、医療保護入 院、ICD-10、DSM- IV、多軸診断
2				精神疾患の病因と診断 法を理解する。	1) 精神疾患の病因につ いて説明する。 2) 代表的な精神症状を説 明する。 2) 代表的な心理テストを 説明する。 3) 脳波、画像検査を説明 する。	・ 脆弱性-ストレ ス-対処モデ ル、神経伝達 物質を用いて 精神疾患の病 院を説明する ・ 精神症状には どのようなも のがあるか ・ 精神疾患の診 断に用いられ る検査にはど のようなもの があるか	病識、自我境界、 見当識、幻覚、妄 想、せん妄、抑う つ、そう気分、不 安、恐怖、強迫観 念、心気症、離人 症、記憶障害、精 神遅滞、健忘、 CMI、SDS、STAI、 MMPI、YG 性格検 査、ロールシャッ ハ検査、知能検 査、人格検査、質 問紙法、投影法

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
							脳波、CT・MRI・SPECT・PET、髄液検査
3			ユニット2 精神医学各論	面接技法と心理療法を理解する。	1) 良好な患者-医師関係について説明する。 2) 心理面接の方法と意義を説明する。 3) 心理療法について説明する。	・心理療法にはどのようなものがあるか ・薬物療法に用いられる薬にはどのようなものがあるか	受容、傾聴、共感、来談者中心療法、行動療法、オペラント条件付け法、モデリング、系統的脱感作法、認知療法、シェイピング、精神分析療法、森田療法
4				精神疾患の病態と薬物治療を理解する。 その他の治療法を理解する。	1) 精神疾患の病態と薬物療法を説明する。 2) その他の治療法について説明する。	・薬物療法に用いられる薬にはどのようなものがあるか	ドパミン、モノアミン、セロトニン、ノルアドレナリン、ドパミン、アセチルコリン、GABA、電気痙攣療法、光療法
5				統合失調症、人格障害について理解する。	1) 統合失調症の特徴、病態、症状、治療法を説明する。 2) 人格障害の特徴、症状、治療法を説明する。	・統合失調症はどのような疾患か	精神分裂病、ドパミン仮説、陽性症状と陰性症状、抗精神病薬、妄想型、解体型、緊張型、残遺型、悪性症候群、パーキンソン病様症状、ジスキネジア、アカシジア、社会技能訓練（SST）、境界型人格障害
6				気分障害（うつ病・躁うつ病）について理解する。	1) うつ病、躁うつ病の特徴、病態、病前性格、症状、診断、治療法を説明する。 2) 単極型と双極型、特殊なうつ病について説明する。	・気分障害とはどのような疾患か	循環気質、執着性格、ノルアドレナリン、セロトニン、仮面うつ病、産後うつ病、抗うつ薬、SSRI、SNRI、三環系抗うつ薬、炭酸リチウム、気分安定薬
7				不安障害とその関連疾患について理解する。	1) 不安障害の各病型（パニック障害、特定の恐怖症、社交不安障害、強迫性障害、全般性不安障害、心的外傷後ストレス障害）について説明する。 2) 不安障害の関連疾患（身体表現性障害、虚偽性障害、解離性障害など）の特徴、病態、症状、治療法を説明する。	・パニック障害とはどのような疾患か	神経症、パニック発作、広場恐怖、高所恐怖、対人恐怖、強迫観念、トラウマ、フラッシュバック、心気症、身体化障害、転換性障害、疼痛性障害、多重人格、行動療法、森田療法、精神分析療法、抗不安薬、GABA 神経、睡眠薬

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
8				物質関連障害、依存症、てんかん、一般身体疾患による精神疾患、精神発達遅滞について理解する。	1) アルコール、アヘン、大麻、覚せい剤、幻覚剤、ニコチンなどの依存症の特徴、病態、症状、治療法を説明する。 2) てんかんの分類、検査、について説明する。 3) 器質性精神病、症状精神病について代表的なものを説明する。 4) 精神発達遅滞について述べ、代表的な疾患について説明する。	・ 依存症とはどのような状態か ・ 内科的疾患で精神症状をきたすものにはなにがあるか	精神依存と身体依存、耐性、離脱症状、薬物乱用、振戦せん妄、ウェルニッケ脳症、コルサコフ精神病、アルコール関連問題、嫌酒薬、断酒会、アヘン、大麻、コカイン、覚せい剤、シンナー、ニコチン、全般発作と部分発作、特発性と症候性てんかん、熱性けいれん、光過敏てんかん、脳波、甲状腺機能低下症と亢進症、副腎皮質機能低下症と亢進症、インターフェロン、抗ウイルス薬、ダウン症候群、脳性麻痺、高次機能障害
9				老年期精神障害と認知症について理解する	1) 高齢者の心理を説明する。 2) 認知症の特徴、原因、病態、症状、治療法を述べる。について説明する。 3) 介護保険制度について説明する。	・ せん妄とはなにか ・ 認知症を起こす疾患にはなにがあるか	せん妄、認知障害、失見当識、失認、失行、失歩、徘徊、中核症状と周辺症状、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、若年性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型変性症、狂牛病、海馬、老人斑、アミロイドタンパク、アルツハイマー、狂牛病、プリオン病
10			ユニット3 心身症総論	心身症の概念について理解する。	1) 心身症、心身医学、心療内科を説明する。 2) 心身症の病態について心身相関に基づき説明する。 3) 心身症の治療法を説明する。	・ 心身症とはなにか ・ 心療内科と精神科の違いはなにか	心身相関、全人的医療、心身一如、Bio-Psycho-Social model、過剰適応、タイプA行動、アレキシサイミア、自律訓練法、交流分析、行動療法
11			ユニット4 心身症各論	一般診療科でみられる心身症を呈する疾患について理解する。	1) 代表的な心身症をあげ、病態、診断、治療を説明する。	・ 心身症にはどのような疾患があるか	気管支喘息、冠動脈疾患、過敏性腸症候群、片頭痛、緊張型頭痛、糖尿病、アトピー性皮膚炎

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	予習の項目	キーワード
1 2				小児期、思春期に特徴的な、および女性に特有な精神疾患／心身症について理解する。	代表的な小児期、思春期および女性に特徴的な精神疾患／心身症をあげ、特徴、病態、治療法を説明する。	- 小児期精神疾患／心身症にはどのような疾患があるか - 広汎性発達障害とはどのような疾患か	夜尿症、吃音症、チック、異食症、夜驚症、不安障害、周期性嘔吐症、起立性調節障害、不登校、注意欠陥/多動性障害、学習障害、広汎性発達障害、アスペルガー障害、月経前症候群、摂食障害、マタニティブルー、更年期障害
1 3			ユニット5 歯科領域心身症	歯科心身症について理解する。	1) 歯科心身症について、特徴、病態、治療法を説明する。 2) 歯科領域の不安障害について特徴、病態、症状、治療法を説明する。	歯科心身症にはどのような疾患があるか	舌痛症、顎関節症、非定形口腔顔面痛、口臭症、口部ジスキネジア、口腔異常感症、義歯不適応症、歯科治療恐怖症、神経反射性（調節性）失神、血管迷走反射、過換気症候群
1 4			ユニット6 メンタルヘルス	学校、職場のメンタルヘルスについて理解する。自殺について理解する。	1) ストレスモデルについて説明する。 2) 自殺の疫学、原因と予防について説明する。	ストレスモデルについて調べる	ストレッサー、ストレス反応、社会的支援、個人的要因、対処行動、セルフコントロール、スクールカウンセラー、学校保健、産業保健、危機介入、いのちの電話、自殺企図、自殺念慮、自傷行為、リストカット

皮膚科学モデルシラバス（案）

後期 12 コマ

評価責任者：

担当教員：

（一般目標）

皮膚疾患全般の基本的事項を理解し、そのうえで口唇、口腔粘膜病変をさらに理解する。

（教育方法）

教科書・プリント・カラスライドなどを用いて臨床講義形式で行う。

（学習方法）

授業前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること

（評価）

定期試験および出席率

（教科書）

（参考書）

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	キーワード	コアカリキュラム
1				1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。 3) 皮膚の免疫防御能を説明できる。 4) 皮脂分泌・発汗・経皮吸収を説明できる。 5) 口腔粘膜と皮膚との構造の違いを説明できる。	歯科医療における皮膚科学の意義を理解する。 皮膚の構造・機能を理解し口腔粘膜との違いを説明できる。	表皮・真皮・皮下組織・皮膚付属器、角化・メラニン形成	（1）構造と機能
2				1) 皮膚検査法を概説できる。 2) 皮膚アレルギー検査法を説明できる。 3) 微生物検査法を概説できる。	臨床における皮膚検査法とその意義を説明できる。	原発疹、続発疹、アレルギー検査法、内服療法、外用法、理学的療法、病理学的診断（炎症性皮膚疾患、良性・悪性腫瘍）	（2）診断と検査の基本
3				1) 湿疹反応を説明できる。 2) 湿疹・皮膚炎群の疾患（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹、自家感作性皮膚炎）を列挙し、概説できる。	湿疹・皮膚炎群の病態を理解し説明できる。	湿疹反応、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎	（3）疾患 ①湿疹・皮膚炎群

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	キーワード	コアカリキュラム
4				1) じんま疹の病態、診断と治療を説明できる。 2) 紅斑症と紅皮症の病因と病態を説明できる。 3) 皮膚掻痒症の病因と病態を説明できる。	蕁麻疹・紅斑症に伴う皮膚疾患の病態を理解し説明できる。	蕁麻疹、紅斑症、紅皮症、痒疹	②じんま疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症
5				皮膚血流障害と血管炎の病因、症候と病態を説明できる。	紫斑・血管炎・血行障害・壊疽について理解し説明できる。	紫斑、血管炎、血行障害、壊疽	③紫斑・血流障害と血管炎
6				1) 薬疹や薬物障害の発生机序、症候と治療を説明できる。 2) 薬疹を起こしやすい主な薬物を列挙できる。	薬剤アレルギーの種類・治療を理解し説明できる。	薬疹、中毒疹、金属アレルギー	④薬疹・薬物障害
7				1) 母斑・母斑症の種類を列挙できる。 2) 白斑の種類と病態を説明できる。	色素異常症・母斑・母斑症の種類・病態・治療を理解し説明できる。	色素異常症・母斑・母斑症	⑤母斑、腫瘍と色素異常
8				1) 皮膚良性腫瘍、前癌状態と悪性腫瘍の種類と見分け方を説明できる。 2) 悪性黒色腫の症候と対応の仕方を説明できる。 3) 皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫と組織球症を説明できる。	皮膚腫瘍の種類・治療を理解し説明できる。	皮膚良性腫瘍、悪性腫瘍	⑤母斑、腫瘍と色素異常
9				1) 皮膚細菌感染症を列挙し、概説できる。 2) 皮膚表在性と深在性真菌症の症候と病型を説明できる。	皮膚感染症の種類・病態・治療を理解し説明できる。	細菌・真菌感染症	⑥皮膚感染症
10				3) ウイルス感染症の症候、病型と病因ウイルスを説明できる。 4) 梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。	皮膚感染症の種類・病態・治療を理解し説明できる。	ウイルス感染症、性感染症	⑥皮膚感染症

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	キーワード	コアカリキュラム
11				全身性疾患（代謝異常、悪性腫瘍）の皮膚症状を 列挙できる。	膠原病・代謝異常症の種 類・治療を理解し説明でき る。	膠原病、代謝性皮 膚疾患、物理化学 的皮膚障害、肉芽 腫 内臓疾患と皮膚	⑦全身疾患
12				口腔内病変の種類・治療 を理解する。	口腔内病変の種類・治療を 説明できる	粘膜症状を呈す る皮膚疾患	⑧口腔内病変

産婦人科モデルシラバス（案）

○期 ○コマ

評価責任者：

担当教員：

（一般目標）

女性は思春期、性成熟期、更年期などで大きな内分泌学的変化をみとめ、また妊娠・分娩・産褥など女性特有の経験をする。歯科医師として女性を診療する上で必要なこれらの身体的変化、精神的変化に対する知識を深める。

（教育方法）

教科書・スライド・プリントによる講義形式

（学習方法）

教科書により事前の予習および復習に励む

（評価）

記述試験および出席率

（教科書）

桑原慶紀・丸尾猛編集 標準産科婦人科学 第3版 医学書院（2004年）

池ノ上克 他編集 New エッセンシャル産科学・婦人科学 第3版 医歯薬出版（2006年）

（参考書）

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	キーワード	コアカリキュラム
1			ユニット1 女性生殖器の形態と機能	女性生殖器の形態と機能を理解する。	1) 女性性器の構造、生理的特徴を説明できる。 2) 視床下部一下垂体一卵巣系内分泌機構を説明できる。	女性生殖器、視床下部、下垂体、卵巣	女性生殖系の構造と機能、検査方法
2			ユニット2 女性生殖系の診断と検査	女性生殖器、性周期発現と排卵の機序を理解する。	1) 基礎体温の所見を説明できる。 2) 女性ホルモン測定値を評価できる。	基礎体温、女性ホルモン	女性生殖系の診断と検査
3			ユニット3 女性生殖系の症候	婦人科に特有の徴候や診断方法を理解する。	1) 婦人科に特有の徴候や診断方法を列挙する。	不正性器出血	女性生殖系の症候

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	キーワード	コアカリキュラム
4			ユニット4 女性生殖系の良 性疾患	女性内分泌疾患に関し て理解する。	1) 卵巣機能障害、月経異 常、不正性器出血の原 因、診断法、治療法を 説明できる。 2) 不妊/不育症の原因、診 断法、治療法を説明で きる。 3) 更年期障害の原因、診 断法、治療法を説明で きる。	女性内分泌疾 患、不妊、不育 症、更年期障害	女性生殖系の疾患
5				婦人科良性腫瘍、婦人科 感染症に関して理解す る。	1) 子宮筋腫、子宮腺筋 症、子宮内膜症の症 候、診断と治療を概説 できる。 2) 性感染症の概念、症 状、治療法に関して説 明できる。	婦人科良性腫 瘍、婦人科感染 症	
6			ユニット5 女性生殖系の悪 性疾患	婦人科悪性疾患に関し て理解できる。	1) 子宮頸癌の徴候、進行 期、治療法を概説でき る。 2) 子宮体癌の徴候、進行 期、治療法を概説でき る。 3) 卵巣癌の徴候、進行 期、治療法を概説でき る。	子宮悪性腫瘍、 卵巣悪性腫瘍	女性生殖系の疾患
7			ユニット6 妊娠の診断と検 査法、正常妊娠	妊娠の診断法、妊娠に伴 う母体の解剖学的生理 的变化の概要、胎児の発 育、胎児胎盤検査法の意 義を理解する。	1) 妊娠診断法を説明でき る。 2) 妊娠に伴う身体的生理 的变化、胎児の発育に ついて説明できる。 3) 産科超音波画像診断、 分娩監視装置による検 査法の意義を説明でき る。	妊娠診断、妊娠 性変化、超音波 診断法、胎児心 拍数陣痛図	妊娠と分娩の診断 と検査 正常妊娠・正常分 娩・産褥
8			ユニット7 正常分娩・産褥	正常分娩・産褥経過を理 解する。	1) 正常妊娠経過を説明で きる。 2) 正常産褥経過を説明で きる。	正常妊娠、正常 分娩、正常産褥	正常妊娠・正常分 娩・産褥
9			ユニット8 妊娠、分娩、産 褥の疾患	主な異常妊娠を理解す る。	1) 流産、子宮外妊娠、妊 娠高血圧症候群、多胎 妊娠を説明できる。	異常妊娠褥	妊娠と分娩の疾患

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ・ 項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	キーワード	コアカリキュラム
10				主な異常分娩・産褥の病態を理解する。	1) 早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、胎児回旋異常、分娩時損傷、異常出血について説明できる。 2) 子宮復古不全、産褥精神病、乳腺炎について説明できる。	異常分娩、異常産褥	
11			ユニット9 産科手術	主な産科手術とその適応について理解する。	1) 帝王切開術、鉗子、吸引分娩術とその適応について説明できる。	帝王切開	産科手術
12			ユニット10 母子保健	母子保健に関して理解する。	1) 妊娠届、妊婦健康診査制度について説明できる。 2) 妊娠中における口腔内ケアについて説明できる。 3) 妊婦授乳婦に対する薬剤投与法、X線撮影法の注意点について説明できる。	母子保健、口腔内ケア	

基礎医学科目 WG (案)

モデルシラバス検討担当者				
科目		氏名	役職	所属
組織学	メンバー	白澤専二	教授	福岡大学医学部
	メンバー	柴田俊一	教授	北海道医療大学
	メンバー	中村雅典	教授	昭和大学
	メンバー	高橋理	教授	神奈川歯科大学
	メンバー			九州歯科大学
	メンバー	原田 英光	教授	岩手医科大学
	メンバー	佐藤秋絵	准教授	鶴見大学
	メンバー	稲井哲一朗	教授	福岡歯科大学
	コーディネーター	敦賀英知	准教授	福岡歯科大学

科目名:組織学総論
学習目標:

参考:福岡歯科大学

基礎医学 2.

医学コアカリキュラム		行動目標 (理想型案)	キーワード (理想型案)	必修(◎) 一般(○) 高度(●)	講義	実習	実習内容	他科で 講義実施	他科と共同 講義
細胞	細胞の基本構造を説明できる。	細胞の基本構造を説明する。	核、小胞体、リボソーム、ゴルジ装置、リソソーム、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、プロテアソーム、エンドソーム 細胞骨格、細胞膜	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ	細胞生物学	
組織・各臓器の構造と機能	1)上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。	1.上皮組織の特徴について説明できる。	細胞の極性	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		2.上皮の種類と分布について説明できる。	単層上皮、多列上皮、重層上皮、移行上皮	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		3.細胞間、細胞－基質間接着装置について説明できる。	基底膜、密着結合、接着結合、ギャップ結合、接着分子、カドヘリン、インテグリン、微絨毛、纖毛	◎	○	×			
		4.腺組織の性状、形態および分泌機構にもとづいて分類し、説明できる。	部分分泌、離出分泌、全分泌、腺組織の分類、外分泌腺、内分泌腺	○	○	×			
	2)支持組織を構成する細胞と細胞間質(線維成分と基質)を説明できる。	1.結合組織の種類について説明できる。	疎性結合組織、密性結合組織、脂肪組織、膠様組織(臍帯)、細網組織(リンパ節)	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		2.結合組織の細胞成分と線維成分について種類と形態的特徴、機能を説明できる。	膠原線維、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、コラーゲン、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、脂肪細胞、肥満細胞、大食細胞、形質細胞、リンパ球、好酸球	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		3.結合組織の特徴と分布を説明できる。	細胞、細胞間質	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		4.軟骨の組織構成、硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨、骨端成長軟骨の組織学的特性を説明できる。	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨、軟骨細胞、骨端軟骨板 (メタクロマジー)	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		5.軟骨細胞の分化、軟骨内骨化と膜内骨化の組織学的特性、軟骨と骨の置換過程を説明できる。	軟骨性骨化、骨端軟骨板、膜内骨化、PTH	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		6.骨の肉眼像と解剖学的分類を説明できる。	長管骨、扁平骨、含気骨、または骨髓、骨髓腔、海綿骨、緻密骨、骨端、骨幹	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		7.骨組織の微細構造、分類、代謝を説明できる。	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨基質、骨層板、ハバース管	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		8.骨芽細胞の微細構造と機能、骨形成過程を説明できる。	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨基質、骨層板、ハバース管	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		9.骨細胞の構造と機能、細胞間結合と3次元の細胞構築を説明できる。	骨細胞、骨層板、ハバース管、フォルクマン管、骨細管、ギャップ結合	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		10.破骨細胞の分化、微細構造と機能を説明できる。	破骨細胞、ハウシップ窩	◎	×	○	顕微鏡/スケッチ		
	3)血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。	1.脈管の基本的構造について説明できる。	内膜、中膜、外膜、弾性血管、筋性血管	◎	×	×			
		2.動脈と静脈の構造的違いを説明できる。	弾性血管、筋性血管、毛細血管中膜	◎	×	×			
		3.毛細血管の種類と機能を説明できる。	毛細血管、内皮細胞、周皮細胞、洞様毛細血管	◎	×	×			
		4.心臓壁の組織学的構造を説明できる。	心内膜、心筋層、心外膜、心膜腔	◎	×	×			
	4)神経組織の微細構造を説明できる。	1.神経細胞の形態的特徴について説明できる。	神経細胞、ニューロン、軸索、髄鞘、樹状突起	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		2.軸索突起と樹状突起の違いについて説明できる。	軸索突起、樹状突起	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		3.神経線維の種類と構造について説明できる。	単極神経、双極神経細胞、多極神経細胞、神経細胞、ニューロン、軸索、髄鞘、ランヴィエの絞輪、シュミットランターマン切痕	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		4.中枢神経と末梢神経における神経膠細胞について説明できる。	神経膠細胞、グリア細胞、膠細胞、星状膠細胞、稀突起膠細胞、上衣細胞、小膠細胞、シュワン細胞、衛星細胞	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		5.神経終末、シナプスの構造について説明できる。	シナプス、シナプス小胞、神経終末	◎	×	×			
		6.脊髄の組織学的な構造を説明できる。	脊髄神経節	◎	×	×			
		7.脳皮質の細胞構築について説明できる。	白質、灰白質、神経核	◎	○	×			
	5)筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。	1.平滑筋組織、骨格筋組織、心筋組織の成り立ち、各細胞の微細構造と収縮・弛緩のメカニズムを説明できる。	平滑筋、骨格筋、心筋、筋節、I帯、A帯、Z線、筋線維、アクチン/ミオシンフィラメント	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		2.骨格筋細胞のL系、T細管の構造と機能、アクチンとミオシンの架橋メカニズムを説明できる。	I帯、A帯、Z線、筋線維、アクチン/ミオシンフィラメント	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		3.神経筋接合部の構造と刺激の伝達機構を説明できる。	シナプス、シナプス小胞、神経終末	◎	×	×			
		4.心筋細胞の構造、特殊心筋の分布、構造と機能を説明できる。	心筋、介在板、Z線、筋線維、刺激伝導系	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		5.平滑筋細胞の分布、微細構造と収縮機構を説明できる。	平滑筋、筋線維、アクチン/ミオシンフィラメント、トロポニン	◎	○	○	顕微鏡/スケッチ		
		6.一次平滑筋と多元平滑筋および平滑筋細胞の亜型を説明できる。	一元平滑筋、多元平滑筋、周皮細胞、筋上皮細胞	○	×	×			
	6)組織の再生の機序を説明できる。		幹細胞	◎	×	×			

科目名:組織学総論
学習目標:

基礎医学 3.

医学コアカリキュラム		行動目標 (理想型案)	キーワード (理想型案)	必修(◎) 一般(○) 高度(●)	講義	実習	実習内容	他科で 講義実施	他科と共同 講義
細胞	細胞の基本構造を説明できる。	細胞の基本構造を説明する。	核、小胞体、リボソーム、ゴルジ装置、リソソーム、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、プロテアソーム、エンドソーム 細胞骨格、細胞膜						
組織・各臓器の構造と機能	1) 上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。	1.上皮組織の特徴について説明できる。	細胞の極性						
		2.上皮の種類と分布について説明できる。	単層上皮、多列上皮、重層上皮、移行上皮						
		3.細胞間、細胞－基質間接着装置について説明できる。	基底膜、密着結合、接着結合、ギャップ結合、接着分子、カドヘリン、インテグリン、微絨毛、纖毛						
		4.腺組織の性状、形態および分泌機構にもとづいて分類し、説明できる。	部分分泌、離出分泌、全分泌、腺組織の分類、外分泌腺、内分泌腺						
	2) 支持組織を構成する細胞と細胞間質(線維成分と基質)を説明できる。	1.結合組織の種類について説明できる。	疎性結合組織、密性結合組織、脂肪組織、膠様組織(臍帯)、細網組織(リンパ節)						
		2.結合組織の細胞成分と線維成分について種類と形態的特徴、機能を説明できる。	膠原線維、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、コラーゲン、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、脂肪細胞、肥満細胞、大食細胞、形質細胞、リンパ球、好酸球						
		3.結合組織の特徴と分布を説明できる。	細胞、細胞間質						
		4.軟骨の組織構成、硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨、骨端成長軟骨の組織学的特性を説明できる。	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨、軟骨細胞、骨端軟骨板 (メタクロマジー)						
		5.軟骨細胞の分化、軟骨内骨化と膜内骨化の組織学的特性、軟骨と骨の置換過程を説明できる。	軟骨性骨化、骨端軟骨板、膜内骨化、PTH						
		6.骨の肉眼像と解剖学的分類を説明できる。	長管骨、扁平骨、含気骨、または骨髓、骨髓腔、海綿骨、緻密骨、骨端、骨幹						
		7.骨組織の微細構造、分類、代謝を説明できる。	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨基質、骨層板、ハバース管						
		8.骨芽細胞の微細構造と機能、骨形成過程を説明できる。	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨基質、骨層板、ハバース管						
		9.骨細胞の構造と機能、細胞間結合と3次元の細胞構築を説明できる。	骨細胞、骨層板、ハバース管、フォルクマン管、骨細管、ギャップ結合						
		10.破骨細胞の分化、微細構造と機能を説明できる。	破骨細胞、ハウシツプ窩						
	3) 血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。	1.脈管の基本的構造について説明できる。	内膜、中膜、外膜、弾性血管、筋性血管						
		2.動脈と静脈の構造的違いを説明できる。	弾性血管、筋性血管、毛細血管 中膜						
		3.毛細血管の種類と機能を説明できる。	毛細血管、内皮細胞、周皮細胞、洞様毛細血管						
		4.心臓壁の組織学的構造を説明できる。	心内膜、心筋層、心外膜、心膜腔						
	4) 神経組織の微細構造を説明できる。	1.神経細胞の形態的特徴について説明できる。	神経細胞、ニューロン、軸索、髄鞘、樹状突起						
		2.軸索突起と樹状突起の違いについて説明できる。	軸索突起、樹状突起						
		3.神経線維の種類と構造について説明できる。	単極神経、双極神経細胞、多極神経細胞、神経細胞、ニューロン、軸索、髄鞘、ランヴィエの絞輪、シュミットランターマン切痕						
		4.中枢神経と末梢神経における神経膠細胞について説明できる。	神経膠細胞、グリア細胞、膠細胞、星状膠細胞、稀突起膠細胞、上衣細胞、小膠細胞、シュワン細胞、衛星細胞						
		5.神経終末、シナプスの構造について説明できる。	シナプス、シナプス小胞、神経終末						
		6.脊髄の組織学的な構造を説明できる。	脊髄神経節						
		7.脳皮質の細胞構築について説明できる。	白質、灰白質、神経核						
	5) 筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。	1.平滑筋組織、骨格筋組織、心筋組織の成り立ち、各細胞の微細構造と収縮・弛緩のメカニズムを説明できる。	平滑筋、骨格筋、心筋、筋節、I帯、A帯、Z線、筋線維、アクチン/ミオシン－フィラメント						
		2.骨格筋細胞のL系、T細管の構造と機能、アクチンとミオシンの架橋メカニズムを説明できる。	I帯、A帯、Z線、筋線維、アクチン/ミオシン－フィラメント						
		3.神経筋接合部の構造と刺激の伝達機構を説明できる。	シナプス、シナプス小胞、神経終末						
		4.心筋細胞の構造、特殊心筋の分布、構造と機能を説明できる。	心筋、介在板、Z線、筋線維、刺激伝導系						
		5.平滑筋細胞の分布、微細構造と収縮機構を説明できる。	平滑筋、筋線維、アクチン/ミオシン－フィラメント、トロポニン						
		6.一次平滑筋と多元平滑筋および平滑筋細胞の亜型を説明できる。	一元平滑筋、多元平滑筋、周皮細胞、筋上皮細胞						
	6) 組織の再生の機序を説明できる。		幹細胞						

科目名:組織学総論

医学コアカリキュラム		行動目標	キーワード
細胞	細胞の基本構造を説明できる。	細胞の基本構造と機能を説明できる。	核、小胞体、リボゾーム、ゴルジ装置、リソソーム、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、プロテアソーム、エンドソーム 細胞骨格、細胞膜
組織・各臓器の構造と機能	1) 上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。	1.上皮組織の特徴について説明できる。	細胞の極性、微絨毛、不動毛、線毛
		2.上皮の種類と分布について説明できる。	単層上皮、多列上皮、重層上皮、移行上皮
		3.細胞間、細胞－基質間接着装置について説明できる。	密着結合、接着結合、ギャップ結合、デスモソーム、ヘミデスモソーム、フォーカルアドヒージョン、細胞接着分子、カドヘリン、インテグリン、基底膜
		4.腺組織を形態、分泌物の性状、および分泌機構にもとづいて分類し、説明できる。	内分泌腺、外分泌腺、粘液腺、漿液腺、混合腺、漿液半月、筋上皮細胞、全分泌、離出分泌、漏出分泌、透出分泌
	2) 支持組織を構成する細胞と細胞間質（線維成分と基質）を説明できる。	1.結合組織の特徴、種類、分布について説明できる。	疎性結合組織、密性結合組織、脂肪組織、細網組織、胎児性結合組織、特殊結合組織
		2.結合組織の細胞成分と細胞外基質について説明できる。	膠原線維、細網線維、弾性線維、コラーゲン、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、ラミニン、フィブロネクチン、線維芽細胞、脂肪細胞、肥満細胞、大食細胞、形質細胞、リンパ球、好酸球、好中球、好塩基球
		3.軟骨の種類と分布を説明できる。	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨
		4.骨組織の微細構造を説明できる。	骨膜、緻密骨、海綿骨、骨髓腔、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、ハバース系（骨単位）、ハバース管、フォルクマン管、骨小腔、骨小管
		5.骨の発生と成長を説明できる。	膜内骨化、軟骨内骨化、骨端軟骨板
		6.骨の改造現象を説明できる。	リモデリング
		7.血液について説明できる。	血漿、赤血球、単球、リンパ球、好酸球、好中球、好塩基球、血小板
		8.造血について説明できる。	骨髓、造血幹細胞、コロニー形成単位
	3) 神経組織の微細構造を説明できる。	1.神経細胞の形態的特徴について説明できる。	神経細胞（ニューロン）、軸索、髄鞘、樹状突起、シナプス、ランヴィエの絞輪、シュミットランターマン切痕
		2.ニューロンの分類を説明できる。	単極性神経細胞、双極性神経細胞、多極性神経細胞
		3.中枢神経と末梢神経における神経膠細胞について説明できる。	神経膠細胞、グリア細胞、星状膠細胞、稀突起膠細胞、上衣細胞、小膠細胞、シュワン細胞、衛星細胞
		4.シナプスの構造について説明できる。	シナプス、シナプス小胞、神経伝達物質、シナプス前膜、シナプス間隙、シナプス後膜
		5.脊髄の組織学的な構造を説明できる。	脊髄神経節、白質、灰白質
		6.大脳の細胞構築について説明できる。	白質、灰白質、神経核
	4) 筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。	1.平滑筋組織、骨格筋組織、心筋組織の微細構造と収縮・弛緩のメカニズムを説明できる。	平滑筋、骨格筋、心筋、筋節、筋細胞膜、筋形質、筋小胞体、I帯、A帯、Z線、筋線維、アクチンフィラメント、ミオシンフィラメント
		2.骨格筋細胞の収縮・弛緩のメカニズムを説明できる。	I帯、A帯、Z線、筋線維、筋節、アクチンフィラメント、ミオシンフィラメント、トロポニン、横細管、筋小胞体、筋紡錘、腱紡錘
		3.神経筋接合部の構造と刺激の伝達機構を説明できる。	運動終板、シナプス小胞、神経伝達物質
		4.心筋細胞の構造、特殊心筋の分布、構造と機能を説明できる。	心筋、介在板、刺激伝導系
		5.平滑筋細胞の分布、微細構造と収縮機構を説明できる。	平滑筋、暗調小体、カルモジュリン、ミオシン軽鎖キナーゼ、アクチンフィラメント、ミオシンフィラメント
		6.一次平滑筋と多元平滑筋および平滑筋細胞の亜型を説明できる。	一元平滑筋、多元平滑筋、周皮細胞、筋上皮細胞
	5) 組織の再生の機序を説明できる。	幹細胞を説明できる。	幹細胞

基礎医学科目 病理学

モデルシラバス検討担当者				
科目		氏名	役職	所属
病理学	メンバー	竹下盛重	教授	福岡大学医学部
	メンバー	西村学子	講師	北海道医療大学
	メンバー	立川哲彦	教授	昭和大学
	メンバー	槻木恵一	教授	神奈川歯科大学
	メンバー			九州歯科大学
	メンバー	武田泰典	教授	岩手医科大学
	メンバー	美島健二	准教授	鶴見大学
	コーディネーター	岡村和彦	准教授	福岡歯科大学

海外大学の授業カリキュラム(分類別)

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tufts University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
一般教養	Medical Science			Medicine I, II		Basic medical Science				
	Biology	Oral Biology	Introduction to Oral Biology		Oral Biology		Biolgy and Genetics	Medical Biology and Ecology	Cell Biology	Oral Biology
										Pulp Biology
	Biophysics						Biophysics	Medical Physics, Biophysics		
	Chemistry						Medical Chemistry	General Chemistry and Dental Materials Bioorganic Chemistry		
	Ecology						Human Ecology	General Hygiene, Human Ecology		
	Psychology						Medical Psychology	Medical Psychology and Pedagogies		
	Terminology						Latin and Greek Terminology	Latin Language with Medical Terminology		
	Law and Ethics		Current Legal Issues for the New Dentist	Ethics & Professionalism		Law and Ethics	Medical Ethics	Bioethics	Introduction to Ethics and Professionalism	Social and Ethical Issues in Dental Practice
				Ethics Seminar I, II				Law Fundamentals	Applied Ethics	Ethical and Legal Aspects of Dental Practice
									Dental Jurisprudence and Ethics	
	Physical Education		Physical Evaluation I, II			Health Education and Community	Physical Education	Physical Training		
	History							History of World Culture and History of Medicine		
	Philosophy							Philosophy		
	Sociology Economics							Sociology Economics		
	Mathematics							Higher Mathematics		
	informatics	Informatics								
	Ergonomics	Ergonomics								
	Communication	Communication Skills			Communication in the Dental Health Care Setting					Behavior, Communication and Culture: Child/ Adolescent and Adult/The Elderly
	Health Science		Behavioral Sciences I, II						Dental Behavioral Science I, II	
	others	Professionalism and Community Service			Patients, Dentists and Society I				Introduction to Dental Literature	
		Doug Waterfield								

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
基礎医学	Anatomy	Assesment of Periodontal Structures & Teeth	Oral Anatomy I(Lecture)	Cranio Facial Function I, II, III	Combined Histology and Oral Micro Anatomy		Anatomy	Human Anatomy	Human Gross Anatomy I, II	Gross Anatomy
		Dental Morphology	Oral Anatomy I(Lab)	Dental Anatomy/Occlusion	Dental Gross Anatomy and Embryology		Anatomy Dissections	Anatomy of Head and Neck	Dental Morphology I (Lec/Lab)	Dental Anatomy
			Gross Anatomy for Dental Students	Gross Anatomy	Dental Neuroanatomy		Clinical Anatomy for Stomatologists	Pathological Anatomy		
				Neuroanatomy	Normal Human Growth and Development			Pathoanatomy of Head and Neck		
					Principles of Dental Anatomy,			Topographic Anatomy and Operative Surgery		
					Principles of Dental Anatomy, Morphology and Occlusion Laboratory					
	Embryology		Oral Histology & Embryology & Medical Genetics	Histology			Histology and Embryology	Histology, Embryology and Cytology	Histology I	Growth and Development
			Human Histology					Histology of Mouth Cavity Organs		Applied Growth and Development
										Microscopic Anatomy
	Pathology	Oral Medicine/ Oral Pathology	General & Systemic Pathology	Basic Human Pathology I, II	General Pathology for Student Dentist	Oral Pathology	Pathology		Histopathology (Lecture/Lab)	Pathology I, II
			Oral & Maxillofacial Pathology	Oral and Maxillofacial Pathology Seminar	Oral Pathology I, II, III		Integrated Block-Pathology and Microbiology		Pathology(Lecture)I, II, III	Systemic Pathology
				Oral and Maxillofacial Pathology						Clinical Pathology Conference
	Biochemistry		Biochemistry	Biochemistry	Dental Biochemistry		Biochemistry and Molecular Biology	Biological Chemistry	Biochemistry and Nutrition	Biochemistry
			Topics in Dental Biochemistry				Clinical Biochemistry	Biochemistry of Mouth Cavity		
							Pathobiochemistry			
	Microbiology		Microbiology for Dental Students	Microbiology/ Oral Health Promotion			Microbiology	Microbiology, Immunology and Virology	Microbiology	Dental Microbiology
								Microbiology of Mouth Cavity		Clinical Microbiology
	Epidemiology		Dental Care Delivery and Oral Epidemiology	Epidemiology			Hygiene and Epidemiology	Epidemiology and Prevention of Stomatological Diseases		Epidemiology and prevention I
								Infectious Diseases, Tropical Diseases, Epidemiology and Phtysiopulmonology		
	Infectious Diseases	Infection Control		Infectious Diseases			Infectious Diseases			
	Parasitology						Parasitology for foreign students			
	Immunology			Immunology	Immunity, Infection and Disease for the Student Dentist		Immunology	Clinical Immunology		

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
基礎医学	Physiology		System Physiology	Physiology	Dental Physiology		Physiology	Normal Physiology	Physiology Lecture	Physiology
							Pathophysiology	Physiology of Maxillofacial Area		
								Pathological Physiology		
								Pathophysiology of Maxillofacial Area		
	Pharmacology		Pharmacology	Pharmacology	Dental Pharmacology and Therapeutics		Pharmacology	Pharmacology	Pharmacology Lecture	Basic Pharmacology
					Drug Misuse, Abuse and Dependency: What Dentists Need to Know		Introduction to Toxicology	Clinical Pharmacology	Therapeutics	Clinical Pharmacology
	Neurology		Neuroscience for Dentistry Students				Neurology	Neurology	Applied Neuroscience	
	Forensic Medicine						Forensic Medicine	Forensic Medicine(Stomatology)		
	Biomaterial	Biomaterials	Introduction to Dental Biomaterials	Biomaterials I, II	Dental Biomaterials				Dental Biomaterials Lecture	Dental Materials Science
			Applied Dental Biomaterials							

[illegible]

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
齒科系 授業	Orthodontics	Orthodontics	Orthodontics I, II	Orthodontics Patient Stimulation	Orthodontics I, II	Introduction to Orthodontics		Orthodontics	Orthodontics: Growth and Development	Biomechanics and Preclinical Orthodontics
				Orthodontic Case Presentation	Clinical Orthodontics	Orthodontics		Modern Orthodontic and Orthopaedic Method	Orthodontics(Lecture) I, II	Clinical Orthodontics Treatment
									Orthodontics(Lab) I	
	Implant	Implant Module	Introduction to Clinical Implant Dentistry Lecture	Implant Dentistry	Dental Implantology	Implantology – (Restorative Dentistry)			Implant Dentistry	Dental Implants
			Introduction to Clinical Implant Dentistry Laboratory			Restorative Dentistry and Materials Science				Dental Implant Elective
						Restorative Dentistry				
	Pediatric Dentistry	The Child	Pediatric Dentistry Pre-Clinic	Pediatric Dentistry/Growth Development	Clinical Pediatric Dentistry	Introduction to Paediatric Dentistry			Pediatric Dentistry I	Clinical Pediatric Dentistry
		Pediatric Dentistry	Clinical Pediatric Dentistry		Pediatric Dentistry I, II	Paediatric Dentistry			Pediatric Dentistry Seminar	G&D IV-Advanced Pediatric Dentistry
					Clinical Pediatric Dentistry I					
	Radiology	Oral and Maxillofacial Radiology	Oral and Maxillofacial Radiology	Oral and Maxillofacial Radiology	Oral and Maxillofacial Radiology and Diagnostic Imaging	Oral Radiology	Radiobiology	Radiodiagnostics and Radiotherapy	Oral Radiology Lecture	Introduction to Radiology
			Oral Radiology Preclinical Laboratory	Oral Diagnosis/Treatment	Clinical Oral Diagnosis I, II, III		Radiodiagnostics and Radiotherapy		Radiographic Interpretation I, II	Clinical Radiology
			Patient Management and Radiographic Interpretation				Nuclear Medicine			Radiologic Interpretation
										Management of Radiologic Environment
										Introduction to Oral Diagnosis
	Stomatology						Stomatologic Propaedeutics	Physiotherapy in Stomatology		
							Stomatologic Praeclinics	Children's Stomatology –Children's Oral Surgery		
							Conservative Stomatology	Geriatrics in Stomatology		
							Stomatological Surgery			
							Stomatology			
							Orthopaedic Stomatology			
							Therapeutic Stomatology			
							Stomatologic Surgery – Final			

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
齒科系 授業	Oral and Maxillofacial Surgery	Oral Mucosal Disease	Oral and Maxillofacial Surgery Clinic Rotation	Oral and Maxillofacial Surgery I, II	Oral Surgery I, II	Introduction to Oral Surgery(extraction)		Oral and Maxillofacial Surgery; Rehabilitation	Oral Surgery (Lecture) I, II, III	Introduction to Oral and Maxillofacial Pathology
		Oral Surgery	TMJ disorders		Oral Surgery Rotation I	Oral Surgery		Children's Oral Surgery		Orientation Oral & Maxillofacial Surgery
			Oral Surgery I, II							TMJ and Craniomandibular Disorders
	Oncology						Orofacial Oncology		Oral Oncology	
							Oncology			
	Neurostomatology							Neurostomatology		
	Special care dentistry			Geriatric Dentistry	Gerontology/ Geriatric Dentistry	Special care dentistry			Dentistry for the Special Patient	Geriatric Dentistry
				Apecial Care Orientation	Preclinical Esthetic Dentistry I					Urgent Care Service
					Esthetic Dentistry I					Clinical Geriatric Dentistry
					Advanced Esthetics in Restorative Dentistry					Specialty Care in the Generalist Practice
					Management of the Medically Compromised Patient					
					Preclinical Restorative Dentistry II Laboratory					
	Dental practice		Management & Supervision of a Dental Practice	Practice Management I, II, III, IV	Dental Practice and Field Experience					Dental Practice management
					Dental Practice Management II					
					Preclinical Complete Denture Prosthodontics Laboratory					
	Oral Medicine	Oral Medicine Bridge				Oral Medicine			Oral Diagnosis and Oral Medicine	Oral Medicien I, II
						Oral Science and Medicine 1, 2				

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
医科系 授業	Internal Medicine			Cardio Pulmonary IV			Propaedeutics in internal medicine	Internal Diseases	Principles of Meidicine and Physical Diagnosis	Internatl Medicine for Dentists
							Internal Medicine final	Propedeutics of Internal Diseases		
	Surgery						Propaedeutics in Surgery	General Surgery		Surgery
							Surgery – Clinic	Topographic Anatomy and Operative Surgery –Clinical Anatomy of Head and Neck		
							Orthopaedic Surgery	Surgerical Diseases		
	Anaesthesia	TMD and Orofacial Pain	Pain and anxiety Control	Anesthesiology	Local Anesthesia	General Anaesthesia and Sedation in Dentistry			Anesthesiology(Lecture)I	
		Local Anesthesia		Nitrous Oxide Sedation	Conscious Sedation	IV Sedation			Dx.&Mgt./Orofacial Pain	
		Minimal Sedation			Diagnosis and Management of Facial Pain				Anxiety/Pain Control in Dentistry	
	Emergency	Vital Signs	Emergency Clinic			Medical Emergencies	Emergency Medicine		Medical Emergencies in the Dental Office	Medical Emergencies/ Local Anesthesia
						Royal Accident and Emergency	First Aid			Treatment of Pediatric Emergencies
	Patient Care	Intro to Patient Care	Patient Management and Radiographic Interpretation				Patient Care		Introduction to Comprehensive Patient Care	Introduction to Patient Management
		Introduction to Patient Assessment	Patient Management II, III, IV, V				Primary Medical Care		Clinical Assisting	Treatment Planning I
			Patient Care:Special Issue						Treatment Planning	Diagnosis and Treatment Planning Service
										Patient Management
										Comprehensive Treatment Planning
	Otorhinolaryngology						Otorhinolaryngology	Otorhinolaryngology		
	Ophthalmology						Ophthalmology	Ophthalmology		
	Pediatrics						Pediatric Propaedeutics	Pediatrics		
							Pediatrics			

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
医科系 授業	Dermatovenerology						Dermatovenerology	Skin and Venereal Diseases		
	Neurosurgery						Neurosurgery			
	Psychiatry and Narcology						Psychiatry and Sexology	Psychiatry and Narcology		
	Psychotherapy						Psychotherapy			
	Obstetrics and Gynaecology						Gynaecology and Obstetrics	Obstetrics and Gynaecology		
	Urology						Urology			
	Pneumology						Pneumology			
	Physiotherapy							Physiotherapy		
	Traumatology and Disaster medicine							Traumatology and Disaster medicine		
	Medical Informatics						Medical Informatics	Medical Informatics		

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
齒學系 臨床實習	Clinical Practice		Oral Radiology Clinic	Rotation (Emergency, Geriatric, Medicine, New Patient Encounter, Oral And Maxillofacial Radiology, Oral and Maxillofacial Surgery, Orthodontics, Pediatric Dentistry, Community Service Learning Externship)	Oral Surgery Rotation	Introduction to Clinical Practice		Preventive Dentistry (practical Training)	Review of Pre-Clinical Dentistry	Information Mangement for Clinical Practice
			Pediatric Dentistry Clinic	Rotation(Emergency, New Patient Encounter, Oral and Maxillofacial Surgery, Pediatric Dentistry, Periodontology, Special Care)		Special Dental Module (Clinical Skills)		Dentist 's Assistant (Conservative Dentistry, Oral Surgery, Prosthodontics, Pedodontics) (practical Training)	Clinic	DISC Rotation Program
			Fixed Prosthodontics Clinic I/II/III/IV						Review of Clinical Dentistry I, II	
			Removable Prosthodontics Clinic I, II, III, IV						Grand Rounds I, II, III, IV	
			Orthodontic Clinic Rotation						Practice Administration I, II	
			Operative Dentistry Clinic							
			Oral Medicine/Diagnosis Clinic I, II, III							
醫學系 臨床實習	Clinical Practice		Treatment Planning & Patient Care Clinic(only)				Internal Medicine- Internal Clinic			
			Comprehensive Care Clinic I, II				Summer Clerkship- Internal Medicine			
			Treatment Planning Clinic I, II				Summer Clerkship- Gynaecology and Obstetrics			
							Summer Clerkship- Patient Care			
							Summer clerkship - Surgery			

分類	Subject	University of British Columbia	University of Minnesota	Tuft's University	University of Kentucky	University of Liverpool	Charles University in Prague	Medical Academy of Moscow	University of Missouri-Kansas City	University of North Carolina
		Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Medicine	Doctor of Dental Medicine	Bachelor of Dental Surgery	Stomatology	Doctor of Stomatology	Doctor of Dental Surgery	Doctor of Dental Surgery
保健	Social Medicine						Introduction to Social Medicine			
							Social Medicine – Health Politics			
	Oral Health		Prevention and Oral Health Promotion			Introduction to Oral Health				
						Child Dental Health				
						Dental Public Health and Primary Dental Care				
	Public Health	Preventive and Community Dentistry		Community Service Forum	Fundamentals of Dental Public Health			Public Health, Medical Administration and Economics	Preventive Dentistry	Prevention II
					Advanced Concepts in Dental Public Health				Dental Public Health	Health Care Systems
										Preventive Recall Service
その他	Professional Problem Solving		Professional Problem Solving	Intro to Clinical Experience	Profession of Dentistry I, II, III					
	Dental Auxiliary Utilization Clinic		Dental Auxiliary Utilization Clinic (DAU)							
			Dental Auxiliary Utilization Clinic (DAU-II)							
	Medical Study						Introduction to Medical Study			
	Sports Medicine						Sports Medicine			
	Occupational						Occupational Medicine			
	Rehabilitation						Rehabilitation Medicine			
	Tropical Medicine						Tropical Medicine for Foreign students			
	Other subjects	Intro to Patient Assessment	Summer Student Selectives or summer Research	Operative Board Preparation	Management III: Clinical Patient Management	Clinical Allocations	Elective I	Nursing Practice	Community-Based Education I, II	PRU Rotation
		Diagnosis and Treatment Seminars	Summer Research(elective)	Nutrition	Management IV: Clinical Patient Management	Elective Project	Elective II		Case Presentation	Substance Abuse
		Critical Thinking	Role of Dentistry in the Hospital Setting	Board Review II	Management I: Introduction to Management for the	Outreach Programme				Special Topics in Dentistry
		Integrated Clinical Care		ADA Success Seminar	Introduction to Clinical and Community Practice	VT training and Career Development				Team Dentistry Concepts
				Group Practice Meeting	Introduction to Oral Diagnosis and Planning					
				Interdisciplinary Seminar	Management II: Introduction to Clinical Patient					
				Porcelain Esthetic						

平成 21 年 2 月 26 日

欧州歯科大学視察報告

九州歯科大学 柿木保明
 北海道医療大学 安彦善裕
 福岡歯科大学 鴻江俊治

＊ EU が結成されて以来、欧州統合に収束する流れは医療とて例外ではない。
 歯科医師免許さらに歯科教育の取得単位が相互共有化に向かっているから、それに対応して各国は歯科医療と歯科教育を急速に改革しなければならなかった。現在、改革が具現化しつつある。

King's College (ロンドン)

1. 概要

King's には歯学部を含め 9 学部がある。学生数は約 20,000 人、うち 20% が留学生。他の 3 カレッジを併せて、全体を Univ. London と称する。大学教員の評価は世界トップ 10 で 5 つ星を獲得している。

2. 歯学部教育

✓教育のモットーは「Innovative teaching and learning」

✓1 学年の定員は 180 名

①標準コース（5 年） 128 人

②生物系大学卒後の 4 年コース 25 人

③医学部卒後の 3 年コース 7 人

2-1. カリキュラム（標準コース）

✓GDC（後述）が作成した教育指針に従って、各大学がカリキュラムを作成する。

現行の第 2 版の指針は 2004 年に発刊され、2010 年まで有効。第 3 版は 2008 年に発刊された。今回の改訂では、指針は学生の達成目標を具体的に示しているが、その達成方法は各大学に任され、カリキュラムの作成にあたっては、個々の大学の自主性が尊重されている。

✓2 年生から実習開始。

✓一般教養科目はわずか（倫理、生物統計、コミュニケーション、図書館利用法）

✓医科系講義・実習は全体の 7～8 %。

✓オスキーは 1993 年から開始され、17 ステーション（各学年で 3 つのステーション）で実施している。

✓学外実習(Outreach teaching)が充実しており（数週間から 1 年間）、医科系実習も院外にて行われる（ただし、教育する医師側があまり熱心ではないのが問題）。

✓標準コースは 5 年と短い、40 時間／週の授業があり、フランスの 7 年に相当。

3. 卒後教育

①実地歯科

②病院研修 1 年＋勤務 1 年、それから一般歯科

③病院研修 1 年＋勤務 1 年、それから専門歯科医（3 年で専門医、5 年でコンサルタント）

✓歯学部を卒業して医学部 3 年コースに進み、医師の資格を取ることも可能。

✓大学院には Clinical PhD コースと Basic PhD コースがある。

4. 英国の歯科医療事情

✓General Dental Council (GDC)という評議員会が英国の歯科医療従事者の登録と規制、歯科教育方針策定を決めている。構成は 15 人の歯科医、4 人の歯科衛生士、10 人の有識者からなる。

✓'70 年代に 2 校が閉鎖され、現在 13 校。近年、歯科医はやや不足し、特に分布の地域格差が生じている。その格差是正の目的もかねて 3 校が新設予定。ただし、教員は兼任がほとんどで専任は少ないとのことであった。

✓英国の人口 7000 万人に対して、年間約 900 名の歯科医師が養成されている。

✓今後の方向性は、専門医と研究者の充実。

✓Oral medicine 医になるには、医師・歯科医師の両方のライセンスを修得しなくては行けない（近々、見直しが検討されている）。

✓歯科衛生士以外に、歯科看護師（Dental nurse）（Oral medicine や sedation をする患者の介補、血圧測定や採血などが主体）がいる。歯科看護師は衛生士と違い、正式な学校を卒業してなるものではなく、夜間のパートタイムのコースを履修することでなれる。

✓歯科医師は Oral physician であるべきだが、時代はむしろ逆行。卒後、インプラントや矯正を目指す学生が多い。歯学部卒前教育でも、学術重視から技術重視へ向かう傾向にある。

Charles University (プラハ)

1. 概要

Charles University の創設は、神聖ローマ帝国皇帝であったボヘミア王カール 4 世の 14 世紀であり、医学部はヨーロッパで最も歴史ある大学のひとつ。

2. 歯学部教育

①旧カリキュラム：Stomatology 6 年間（03 年入学生まで、09 年終了）

②新カリキュラム：Dentistry (Odontology) 5 年間（04 年入学生から）

✓歯学部入学までの初等および高等教育は計 16 年間

2-1. カリキュラム

①旧カリキュラム

✓初めの 2 年間は医学部と共通授業。3 年進級時に試験があり相互交流が可能だった。

- ✓医科系講義・実習が全体の約 50%。
- ✓学位は MUDr であり、医学部卒と同じ（医学博士）。
- ②新カリキュラム
- ✓欧州全体で共通化しつつある 5 年間プログラム。
- ✓一般教養科目はない。
- ✓1, 2 年生の 50%は医科系科目で、4~5 年生は、臨床実習になる。
- ✓学位は MDDr（歯科医学博士）。

3. 卒後教育

- ① 旧カリキュラムは、3 年間のレジデントコース（内科 3 ヶ月、外科 3 ヶ月、麻酔科 1 ヶ月を含む）の後に 1st grade 試験。この時点で開業できる。さらに 3 年間の専門コースを選べば、2nd grade 試験がある。2nd grade 試験合格の後に主任歯科医師や大学教授への道へ 3 年間のコースがある。
- ② 新カリキュラムは、1 年半のレジデント、そして 2 年間の専門コース。

4. チェコの歯科医療事情

- ✓チェコが EU に加入して以来、医歯学教育プログラムは EU 共通化の方向に従わざるを得なくなっている。EU 圏内では、歯科医師免許さらに歯科教育の取得単位までも共通化に向かっているから、従来のチェコ独自のシステムを維持できなくなった。
- ✓旧カリキュラムで教育された現在の教官は、むしろ従来のシステムの方が良かったと感じている。これまでチェコの歯科医師の地位は高かった。
- ✓共産主義時代には各学校に校歯科医、各職場に産業歯科医が配置されていたので、その名残で歯科医師数は人口 10 万あたり約 70 人の歯科医がいる。
- ✓無免許の歯科医師も存在するが、優れた教育を受けたチェコの歯科医は海外（ドイツ、英国、スペインなど）で活躍している。

Strasbourg University（ストラスブール）

1. 概要

16 世紀に創設された歴史ある大学である Louis Pasteur Univ.他、ストラスブールの 3 大学が統合され、2009 年 1 月から Strasbourg Univ.となった。

2. 歯学部教育

- ①旧カリキュラム：6 年間
- ②新カリキュラム：6 年間（医学部は 7 年、薬学部 6 年）（09 年入学生から）
- ✓歯学部入学までの初等および高等教育は計 12 年間

2-1. カリキュラム

- ①旧カリキュラム
- ✓初めの 1 年間は医歯薬学部の共通授業（医科系科目のみ）。パリでは 3 年から臨床前歯科教育であるが、ストラスブールでは 2 年生から開始。4~6 年は臨床歯科教育。

②新カリキュラム

- ✓2009 年 9 月から国が作成した教育指針に従って、各大学がカリキュラムを作成する。指針は学生の達成目標を具体的に示しているが、その達成方法は各大学に任せられ、カリキュラムの作成にあたっては、個々の大学の自主性が尊重されている。
- ✓初めの 1 年間は医歯薬学部の共通授業（ストラスブールの場合 1,600 人が受講。2 年進級時に試験があり、医学部 240 人、歯学部 61 人、薬学部 125 人、助産師 30 人が選抜される）。
- ✓医科系講義・実習は従来から多くない。
- ✓一般教養科目はない。
- ✓2 年生から実習開始。6 年生は学外のクリニックにて計 200 時間の実習。日本の臨床研修医制度の内容に近い。
- ✓3～4 年生は歯学教育コースで、50%は実習（主にファントム実習）、50%は授業にあてられる。臨床の授業以外に口腔解剖、口腔生理学などの口腔基礎科目も含まれる。ただし、一般医科教育はわずか。
- ✓5～6 年生は臨床トレーニングコースとなっている。

3. 卒後教育

- ✓大学の 6 年目を含めて 3 年間のコースで大学独自の **Internal Dentist**（内科歯科医）と **Orthopedic Dentist**（整形外科歯科医）のコース制度を有している。ただし、これを修得しても正式な専門医認定があるわけではなく、名誉（履歴書が充実する）だけである。
- ✓歯周病の専門医コースは 4 年間（週 4 日）必要であるが、これも正式な専門医制度ではない。メリットが少ない。
- ✓近々、口腔粘膜疾患の専門医を養成すべく **Oral pathology & Surgery** のコースができる。これは、全国で年間 10 人程度の定員になる予定。

4. フランスの歯科医療事情

- ✓フランス全土で、歯科医師の 93%が開業歯科医師、7%が病院歯科や大学勤務。
- ✓補綴物の保険単価が日本と比較して 10 倍ほどで、保険診療自体が日本と若干異なるようである。
- ✓現在の歯科医の平均年齢は 47.8 歳。女性比率は 36%と増加中。特に矯正歯科医の 80%は女性である。
- ✓歯科医師養成数は国が決める。現在、フランスの歯学部学生数は 1,047 人/年。
したがって、現時点ではフランスと日本の人口比に対する歯科医師数に大差はないものの、フランスでは今後、歯科医師不足になることが懸念されている。
- ✓歯科医の分布の地域格差、診療科の偏りが、改善すべき問題。
- ✓他の欧州諸国と異なり、専門医の認定システムがない。
- ✓今後の方向性は専門医制度の充実。

第3回口腔医学カリキュラム作成担当者会議

海外大学視察報告

米国中部地区

- 訪問校
1. School of Dentistry, Univ. of Missouri (Kansas City)
 2. School of Dentistry, Univ. of North Carolina (Chapel Hill)
 3. College of Dentistry, Univ. of Kentucky (Lexington)

参加者

森實敏夫（神奈川歯科大学教授・副学長・内科学）
片岡竜太（昭和大学歯学部教授・歯科医学教育推進室室長・口腔外科学）
稲光哲明（福岡歯科大学教授・心療内科学）

期 間

平成 21 年 2 月 8 日～14 日

1 年生 biomedical science と歯科の基本的な知識・技術を習得する

basic science は general を医学部教官が、oral を歯科教官が教える

biology, biochemistry, physiology, anatomy, histology, pathology

2 年生 biomedical science の続きと、歯科の基本的な技能を習得する

実習 : operative dent., prosthodont. (fixed & removable), endodont.

講義 : periodontics, oral diagnosis, oral radiology, oral surgery

3・4 年生 病院実習中心、朝 1 限に講義 (8 : 00-8 : 50)

病院実習 : 患者が割り当てられて診断から治療までの total care を実践

competence と critical thinking を重視しており、卒業時の判定も competence を評価する

口腔医学の教育

- ・ 医学部教官は、心血管系、外科、法律？老人病学など専門分野の一部を教えているが、common disease に関しては歯科 (pathology、periodontics) 教官が担当し実践的な教育をしている
- ・ Special pt care program 合併症のある患者のケアプログラム (DM、癌・・・)
- ・ clinical record management system CMS : 病院の患者の診療記録と学生の実習内容をコンピュータ管理している

○ Principles of Medicine & Physical Diagnosis (2 年生春期) : 前半に講義、後半に online で家庭学習したことを発表する。内容 : 心血管 (4 回)、呼吸器・腎臓・肝臓・胃腸・内分泌、筋骨、血液、SAS。実践に近い合併症をもつ歯科の患者をどのように評価するか、専門医への紹介状の書き方 (症例報告書) をフォーマットに沿って書かせる

○ Oral Diagnosis / Oral Medicine (3 年生秋期) 前半に講義、後半に実践的な症例をプレゼンする。内容 : 栄養、口腔医学 (口腔、舌の疾患、感染粘膜病変、アレルギー、色素沈着、血液疾患、唾液疾患、内分泌、骨代謝、膠原病)

○ Periodontics 1 (2 年生春期) のなか、5 コマで全身疾患と歯周病の関わりを教える。(糖尿病、白血病、心血管病、妊娠、AIDS など)。(4 年生春期) セミナー形式の case-based learning: 20 人程度のグループで PC スライドにより症例を提示し討論させる

- ・ 学生実習の患者は 50% の治療費でみており、企業から多額の寄付 donation があり教育や奨学金などにも利用
- ・ 1 年生秋期 early exposure で Clinical Assisting: 病院で 3・4 年生の手伝い

Curriculum (four year program) of University of Missouri Kansas City School of Dentistry

First Year

Fall Semester

	Hours
BIO 203 Cell Biology	3.0
BMS 9300 Human Gross Anatomy I	5.0
LSBIOC 304 Biochemistry and Nutrition	4.0
BMS 9308 Histology I	2.5
DENT 6306 Introduction to Ethics and Professionalism	1.0
DENT 6310C Clinical Assisting	3.0
DENT 6316 Dental Morphology I (Lec/Lab)	3.0
DENT 6328 Introduction to Dental Literature	1.0
Total Hours	22.5

Spring Semester

	Hours
BMS 9301 Human Gross Anatomy II	5.0
LSPHYS 401 Physiology Lecture	5.0
DENT 6305 Operative Dentistry I Lecture	1.0
DENT 6305L Operative Dentistry I Lab	2.0
DENT 6314C Introduction to Oral Diagnosis	3.0
DENT 6317 Dental Occlusion (Lecture/Lab)	3.0
DENT 6335 Applied Neuroscience	2.0
DENT 6350 Histopathology (Lecture/Lab)	2.5
Total Hours	23.5

Second Year

Fall Semester

	Hours
LSMCRB 4180 Microbiology	4.0
DENT 6410 Operative Dentistry II Lecture	1.0
DENT 6410L Operative Dentistry II Lab	2.0
DENT 6412 Anesthesiology I Lecture	1.0
DENT 6414 Pathology I Lecture	4.0
DENT 6416 Complete Removable Prosthodontics I Lecture	1.0
DENT 6416L Complete Removable Prosthodontics I Lab	2.0
DENT 6422 Fixed Prosthodontics I Lecture	1.0
DENT 6422L Fixed Prosthodontics I Lab	2.0
DENT 6426 Oral Radiology Lecture	2.0
DENT 6430C Preventive Periodontics	3.0
DENT 6435 Endodontics I Lecture	1.0
DENT 6436 Orthodontics: Growth and Development	1.0
Total Hours	25.0

Spring Semester

	Hours
DENT 6312 Dental Behavioral Science I	1.0
DENT 6411 Operative Dentistry III Lecture	1.0
DENT 6415 Pathology II Lecture	2.0
DENT 6417 Removable Partial Prosthodontics	3.0
DENT 6420 Periodontics I and II	2.0
DENT 6423 Fixed Prosthodontics Lecture	1.0
DENT 6423L Fixed Prosthodontics Lab	2.0
DENT 6431 Pediatric Dentistry I	1.0
DENT 6439 Medical Emergencies in the Dental Office	1.0
DENT 6440 Oral Surgery I Lecture	1.0
DENT 6441C Treatment Planning	2.0
DENT 6442 Endodontics II Lecture	1.0
DENT 6442L Endodontics II Lab	2.0
DENT 6524 Principles of Medicine and Physical Diagnosis	2.0
DENT 6526 Orthodontics I Lecture	1.0
DENT 6526L Orthodontics I Lab	2.0
DENT 6556 Radiographic Interpretation	0.5
Total Hours	25.5

Third Year

Summer Term

	Hours
DENT 6537 Oral Oncology	0.5
DENT 6501C Introduction to Comprehensive Patient Care	8.0
Total Hours	8.5

Fall Semester

	Hours
DENT 6312 Dental Behavioral Science I	1.0
DENT 6318 Dental Biomaterials Lecture	1.0
DENT 6424 Oral Diagnosis and Oral Medicine	2.0
DENT 6460C Review of Pre-Clinical Dentistry	2.0
DENT 6502 Grand Rounds I	1.0
PHARM 5507 Pharmacology Lecture	3.0
DENT 6515 Periodontics III Lecture	1.0
DENT 6521 Oral Surgery II Lecture	1.0
DENT 6538 Orthodontics II	1.0
Clinic	9.0
Total Hours	22.0

Spring Semester

	Hours
DENT 6522 Oral Surgery III Lecture	1.0
DENT 6526C Preventive Dentistry	1.0
DENT 6527 Therapeutics	2.0
DENT 6534 Advanced Prosthodontics	1.0
DENT 6559 Dx & Mgt./Oral Facial Pain	1.0
DENT 6595 Implant Dentistry	1.0
DENT 6602 Grand Rounds II	1.0
DENT 6633 Dental Public Health	1.0
DENT 6634 Community-Based Education I	1.0
Clinic	14.0
Total Hours	24.0

Fourth Year

Summer Term

	Hours
DENT 6558 Radiographic Interp. II	0.5
DENT 6650 Applied Ethics	0.5
Clinic	9.0
Total Hours	10.0

Fall Semester

	Hours
DENT 6429 Behavioral Science II	1.0
DENT 6514 Pathology III Lecture	1.0
DENT 6584 Case Presentation	0.5
DENT 6603 Grand Rounds III	1.0
DENT 6610 Anxiety/Pain Control in Dentistry	1.0
DENT 6613 Periodontal Treatment Planning	1.0
DENT 6617 Pediatric Dentistry Seminar	0.5
DENT 6630 Practice Administration I Lecture	1.0
DENT 6635 Community-Based Education II	1.0
Clinic	10.0
Total Hours	18.0

Spring Semester

	Hours
DENT 6600 Review of Clinical Dentistry	1.0
DENT 6604 Grand Rounds IV	1.0
DENT 6605 Review of Clinical Dentistry II	1.0
DENT 6614 Dentistry for the Special Patient	2.0
DENT 6618 Dental Jurisprudence and Ethics	1.0
DENT 6631 Practice Administration II Lecture	1.0
Clinic	16.0
Total Hours	23.0

	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50
M O N D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Anatomy II Lecture Thomas, C. BMS 9301 Rm. 202	Applied Neurosciences Peters, R. D6335 Rm. 202	
T U E S D A Y	Histopathology Lecture Singh, A. D6350 Rm. 202			Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202
W E D N E S D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Anatomy II Lecture Thomas, C. BMS 9301 Rm. 202	Anatomy II Lab Thomas, C. BMS 9301L Rm. 249	
T H U R S D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Intro. Oral Diagnosis Rice, C. D6314C Rm. 202		
F R I D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Anatomy II Lecture Thomas, C. BMS 9301 Rm. 202	Anatomy II Lab Thomas, C. BMS 9301L Rm. 249	

1:00-1:50	2:00-2:50	3:00-3:50	4:00-4:50
		稻光 3 1 年生	
Dental Occlusion Lecture Petrie, C. D6317 Rm. 202	Dental Occlusion Lab Petrie, C. D6317L Rm. 281 & 286		
Oper. Dent I Lec Williams, D. D6305 Rm. 202	Operative Dent I Lab Williams, D. D6305L Rm. 281 and 286		
Intro Oral Diagnosis Clinic Rice, C. D6314C Clinic			

 SPRING SEMESTER 2009
 CLASS SCHEDULE - FIRST YEAR

 UNIVERSITY OF MISSOURI-KANSAS CITY
 SCHOOL OF DENTISTRY

See reverse for final exam schedule

	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50
M O N D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Anatomy II Lecture Thomas, C. BMS 9301 Rm. 202	Applied Neurosciences Peters, R. D6335 Rm. 202	
T U E S D A Y	Histopathology Lecture Singh, A. D6350 Rm. 202			Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202
W E D N E S D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Anatomy II Lecture Thomas, C. BMS 9301 Rm. 202	Anatomy II Lab Thomas, C. BMS 9301L Rm. 249	
T H U R S D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Intro. Oral Diagnosis Rice, C. D6314C Rm. 202		
F R I D A Y	Physiology Lecture Huang, C. LSPHYS 401 Rm. 202	Anatomy II Lecture Thomas, C. BMS 9301 Rm. 202	Anatomy II Lab Thomas, C. BMS 9301L Rm. 249	

1:00-1:50	2:00-2:50	3:00-3:50	4:00-4:50
Dental Occlusion Lecture Petrie, C. D6317 Rm. 202	Dental Occlusion Lab Petrie, C. D6317L Rm. 281 & 286		
Oper. Dent I Lec Williams, D. D6305 Rm. 202	Operative Dent I Lab Williams, D. D6305L Rm. 281 and 286		
Intro Oral Diagnosis Clinic Rice, C. D6314C Clinic			

CLASS SCHEDULE - SECOND YEAR

SCHOOL OF DENTISTRY

See reverse for final exam schedule

	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	1:00-1:50	2:00-2:50	3:00-3:50	4:00-4:50
M O N D A Y	Orthodontics I Lecture Reed, I. D6526 Rm. 209	Orthodontics I Lab Reed, I. D6526L Rm. 281 and 286			Rem. Part. Pros. Lec Eshelman, G. D6417 Rm. 209	Pathology II Lecture Dunlap, C. D6415 Rm. 209	Principles of Medicine & Physical Diagnosis Moghadam, B. D6524 Rm. 209	稲光 4 2年生
T U E S D A Y	Periodontics I Lecture Rapley, J. D6420 Rm. 209		Operative Dentistry III Purk, J. D6411 Rm. 209	Fixed Pros. II Lec Deines, D. D6423 Rm. 209	Endo II Lab Lee, C. D6442L Rm. 281 & 286			Endo II Lec Dryden, J. D6442 Rm. 209
W E D N E S D A Y	Removable Partial Pros Lab Eshelman, G. D6417 Rms. 281 & 286				Medical Emergencies Shultz, R. D6439 Rm. 209	Pathology II Lecture Dunlap, C. D6415 Rm. 209		
T H U R S D A Y	Fixed Pros II Lab Deines, D. D6423L Rm. 281 and 286				Oral Surgery I Bellome, J. D6440 Rm. 209			
F R I D A Y	Radiographic Interp Kumar, V. D6556 Rm. 217A	Dental Pharmacology Brockmann, W. Course D6564 Rm. 209		Pediatric Dentistry Bohaty, B. D6431 Rm. 209	Help Lab Staff Rm. 281 & 286			

SPRING SEMESTER 2009

CLASS SCHEDULE - SECOND YEAR

UNIVERSITY OF MISSOURI-KANSAS CITY

SCHOOL OF DENTISTRY

See reverse for final exam schedule

	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	1:00-1:50	2:00-2:50	3:00-3:50	4:00-4:50
M O N D A Y	Orthodontics I Lecture Reed, I. D6526 Rm. 209	Orthodontics I Lab Reed, I. D6526L Rm. 281 and 286			Rem. Part. Pros. Lec Eshelman, G. D6417 Rm. 209	Pathology II Lecture Dunlap, C. D6415 Rm. 209	Principles of Medicine & Physical Diagnosis Moghadam, B. D6524 Rm. 209	
T U E S D A Y	Periodontics I Lecture Rapley, J. D6420 Rm. 209		Operative Dentistry III Purk, J. D6411 Rm. 209	Fixed Pros. II Lec Deines, D. D6423 Rm. 209	Endo II Lab Lee, C. D6442L Rm. 281 & 286			Endo II Lec Dryden, J. D6442 Rm. 209
W E D N E S D A Y	Removable Partial Pros Lab Eshelman, G. D6417 Rms. 281 & 286				Medical Emergencies Shultz, R. D6439 Rm. 209	Pathology II Lecture Dunlap, C. D6415 Rm. 209		
T H U R S D A Y	Fixed Pros II Lab Deines, D. D6423L Rm. 281 and 286				Oral Surgery I Bellome, J. D6440 Rm. 209			
F R I D A Y	Radiographic Interp Kumar, V. D6556 Rm. 217A	Dental Pharmacology Brockmann, W. Course D6564 Rm. 209		Pediatric Dentistry Bohaty, B. D6431 Rm. 209	Help Lab Staff Rm. 281 & 286			

CLASS SCHEDULE - THIRD YEAR
SCHOOL OF DENTISTRY

See reverse for final exam schedule

	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	12:00-1:00	1:00-1:50	2:00-2:50	3:00-3:50	4:00-4:30
M O N D A Y	Implant Dentistry Woolsey, J. D6595 Rm. 217A	CLINIC				CLINIC			稻光 5 3 年生
T U E S D A Y	Advanced Pros. Petrie, C. D6534 Rm. 217A	CLINIC			Team Meetings Jones, J.; Houston, G.; Prine, R. Team 1 - Rm. 202 Team 2 - Rm. 209 Team 3 - Rm. 217A	CLINIC			
W E D N E S D A Y	Diag/Mgmt Orofacial Pain Lausten, L. D6559 Rm. 209	CLINIC				CLINIC			
T H U R S D A Y	Oral Surgery III Ferguson, B. D6522 Rm. 209	CLINIC				CLINIC			
F R I D A Y	Grand Rounds II Overman, P. (by assignment) D6602	CLINIC				Intro Dental Public Health Hong, L. D6633 Rm. 209	Therapeutics Brockmann, W. D6527 (Rm. 209)		

SPRING SEMESTER 2009
UNIVERSITY OF MISSOURI-KANSAS CITY
CLASS SCHEDULE - THIRD YEAR
SCHOOL OF DENTISTRY

See reverse for final exam schedule

	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	12:00-1:00	1:00-1:50	2:00-2:50	3:00-3:50	4:00-4:30
M O N D A Y	Implant Dentistry Woolsey, J. D6595 Rm. 217A	CLINIC				CLINIC			
T U E S D A Y	Advanced Pros. Petrie, C. D6534 Rm. 217A	CLINIC			Team Meetings Jones, J.; Houston, G.; Prine, R. Team 1 - Rm. 202 Team 2 - Rm. 209 Team 3 - Rm. 217A	CLINIC			
W E D N E S D A Y	Diag/Mgmt Orofacial Pain Lausten, L. D6559 Rm. 209	CLINIC				CLINIC			
T H U R S D A Y	Oral Surgery III Ferguson, B. D6522 Rm. 209	CLINIC				CLINIC			
F R I D A Y	Grand Rounds II Overman, P. (by assignment) D6602	CLINIC				Intro Dental Public Health Hong, L. D6633 Rm. 209	Therapeutics Brockmann, W. D6527 (Rm. 209)		

CLASS SCHEDULE - FOURTH YEAR				SCHOOL OF DENTISTRY		See reverse for final exams schedule	
	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	12:00-1:00	1:00-4:30	
M O N D A Y		CLINIC				CLINIC	稲光 6 4 年生
T U E S D A Y		CLINIC			Team Meetings Jones, J.; Houston, G.; Prine, R. Team 1 - Rm. 202 Team 2 - Rm. 209 Team 3 - Rm. 217A	CLINIC	
W E D N E S D A Y		CLINIC				CLINIC	
T H U R S D A Y	Practice Mgmt II Thein, D. D6631 Rm. 217A	CLINIC				CLINIC	
F R I D A Y	Grand Rounds IV Gottman, E. D6604 Rm. 209	Jurisprudence Lec. Eplee, H. D6618 Rm. 217A	Rev. Of Clinical Dent. Parkinson, J. D6600 Rm. 217A			CLINIC	

SPRING SEMESTER 2009 CLASS SCHEDULE - FOURTH YEAR				UNIVERSITY OF MISSOURI-KANSAS CITY SCHOOL OF DENTISTRY		See reverse for final exams schedule	
	8:00-8:50	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	12:00-1:00	1:00-4:30	
M O N D A Y		CLINIC				CLINIC	
T U E S D A Y		CLINIC			Team Meetings Jones, J.; Houston, G.; Prine, R. Team 1 - Rm. 202 Team 2 - Rm. 209 Team 3 - Rm. 217A	CLINIC	
W E D N E S D A Y		CLINIC				CLINIC	
T H U R S D A Y	Practice Mgmt II Thein, D. D6631 Rm. 217A	CLINIC				CLINIC	
F R I D A Y	Grand Rounds IV Gottman, E. D6604 Rm. 209	Jurisprudence Lec. Eplee, H. D6618 Rm. 217A	Rev. Of Clinical Dent. Parkinson, J. D6600 Rm. 217A			CLINIC	

アメリカ歯科医学教育視察

2009.2.18

森實敏夫

時期および訪問校

- 期間

– 2009年2月8日～2月14日

- 訪問校

– University of Missouri-Kansas City, School of Dentistry

– University of North Carolina, School of Dentistry

– University of Kentucky, College of Dentistry

Nancy N. Mills, PhD
Interim Dean



John N. Williams, DMD, MBA
Dean



Sharon P. Turner, DDS, JD
Dean



UMKC, Oral Biology

- Dr. Michael J. Reed, B.D.S., Ph.D. (Dean Emeritus)

- Clinical competencyが早く身に付いた学生は、試験を早く受けられる。
- 医科系科目はカリキュラムの中にばらばらに配置されており、学生が自分で統合する必要がある。
- 医学部付属病院のClinical clerkshipはしていないが、医学部学生および歯学部学生が相互にCCを体験させるとよいと思っている。



UMKC, Periodontics

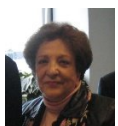
- Dr. John W. Rapley, D.D.S., M.S.

- Case-based learningで高血圧、糖尿病、腎移植患者、AIDS患者などの口腔病変と治療について教えている。歯科の立場からの全身疾患へのアプローチ。

UMKC, Oral Pathology, Medicine and Radiology

- Dr. Behjat K. Moghadam, D.Sc.D., D.D.S.

- General clinicを担当している。
- 全身疾患40症例をBlackboard(イーラーニングシステム)に掲載し2年生の学生が、週に3症例勉強する。
- 患者への質問(dialogue)、危険因子、医学的問題、医科へのコンサルテーションなどを宿題としてやらせる。
- 医科からのコメント、質問状などの実例を掲載。
- American Heart AssociationのGuidelineに沿って教えている。



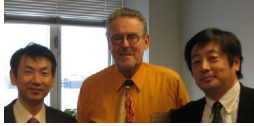
'continued

- Oral Medicine

- 口腔病変を見せ、所見を記述させ(description)、患者への質問、鑑別診断、危険因子、治療計画などを書かせる。(3年生、4年生)
- 実戦的な内容。
- 講義ごとに質問を出し、次の週に正解を提示する。
- クラスでも、所見の記述をやらせる。

Many thanks!

- John W. Killip, DDS (Assistant Dean, Student Programs)



- Pamela R. Overman, Ed.D. (Associate Dean for Academic Affairs)



UNC, Dental Ecology, Dental Research

- Dr. James D. Beck, PhD. (Associate Dean)



- Clinical Research Programは医学部との共同研究が多い。
- アメリカでは医師過剰で歯科医師が不足している。
- 基礎科学を減らす傾向がある。80人の学生のうち、研究職を希望するのは、1 - 2名のみ。
- 歯科医療は保険外であり、あったとしても医科疾患の治療のために必要なものだけに限定。

UNC, Oral & Maxillofacial Surgery

- Dr. Raymond White, Jr., D.D.S., Doctor of Dental Surgery, PhD.
 - 外科など他の医科と同じことをする必要があった。
 - ヨーロッパの影響を受けた。
 - 1974年当時、レジデント1年目麻酔科を3 - 4か月ローテーション、1年目の最後に医学部3年生の勉強を始める、3年後にMDのDegreeをとれる、その後一般外科を6か月、1 - 3年歯科をする。

UNC, Dental Ecology

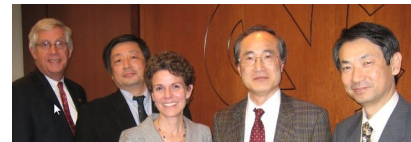
- Dr. Rick Mumford, DMD, MPH, Clinical Associate Professor
 - 夏に学生がいろいろな医療現場をローテーションする。
 - 75%のアメリカ人は歯周病を持っている。
 - Medicareのカバーは限定的。
 - Healthcare safety net providers
 - State Children's Health Insurance

UNC, Dental Ecology

- Dr. John N. Williams, DMD, MBA, BA (Dean)
 - アメリカには146の医学部と57の歯学部がある。
 - NCには、4つの医学部と1つの歯学部のみ。
 - 歯科医は、161,000人、患者の増加に対して歯科医数は横ばいである。
 - いくつかの活動
 - Into The Mouths of Babies スクリーニング、フッ素塗布など小児科医、家庭医にやらせよう。
 - NC Extramural rotations (Dentistry in Service to Communities-DISC program) 1年生から4年生までの歯学生にいろいろな医療現場を経験させる。夏にローテーションを組む。

UNC, School of Dentistry

- Dr. Janet Guthmiller, DDS, PhD (Associate Dean for Academic Affairs)



- Dr. Albert D. Guckes, DDS, MSD (Assistant Dean for Admissions and Predoctoral Education Academic Affairs)
- Dr. Matthew M. Morano, PhD, LPC (Director of Academic Services)

UK, College of Dentistry



- Dr. Sharon P. Turner, DDS, JD, (Dean)
 - Marylandで医学のStomatologyとして始まり、その後、別になった。
 - UKの歯学部は50年の歴史がある。
 - State Health Insuranceでは歯科治療もカバーされるようになってきた。
 - 新しい教育モデルを採用。全人的、内科的、家庭医的。
 - Oral-facial painはMedicalな要素が多い。世界的権威のDr. Jeffrey P. Okeson, DMDがいる。
 - Accreditation of educationを受けるのは随意であるが、これに受からないとFundingもらえず、免許もらえない。カリキュラム、スタッフ、臨床など6つの分野で基準を満たしているかオンサイトでチェックを受ける。
 - Competency-based curriculumについて、オープンコメントが求められる。

UK, College of Dentistry



- Dr. Karen Novak, DDS, MS, PhD, (Associate Professor)
 - フルタイムスタッフ75名、パートタイム、ボランティア、地域の歯科医など78名。
 - 各教科の期間は学期と必ずしも一致しない。
 - Redundancyを除くように、学生からのフィードバック(内容、教え方)も活用。
 - 臨床をできるだけ早く始めるよう、Diagonal Curriculumとなっている。
 - 2年生9月に検診車で小学生の治療に出向く。
 - 基礎の講義の中に、臨床家の講義を挟んで、基礎との関係を理解させる。
 - スタッフは25時間/週学生とのコンタクトがある。さらに、Scholarship(研究、臨床研究)も行う。
 - FDは教え方、研究手法、などについて行う。
 - カリキュラム委員会には学生も参加している。
 - すべての講義の評価はコンピュータベースである。4年終了時にはFocus groupで評価を行う。

'continued

- American Dental Education Association (ADEA)がCompetency Listを作成。
- Patients with special needsに関する教育の中に全身疾患が含まれる。

UK, Microbiology

- Dr. Jeffrey L. Ebersole, PhD
 - 心理学、薬理学、医学、生物学などは他の学部頼んでいる。
 - 他の学部の研究担当副学長とポートフォリオを共有している。
 - 共同研究を奨励している。

UK, Restorative Dentistry



- Dr. Fonda G. Robinson, DMD, Associate Professor (Assistant Dean, Predoctoral Clinical Operation)
 - Team leader conceptで学生に患者を配当
 - 15人のTeam leaderはGeneral dentistでスクリーニングする。
 - 4人のTeam coordinatorがいる。
 - Endo 7 casesなど必要。
 - 口腔外科と口腔病理は3年生で2週間、4年生で2週間、Working clerkとして学生が働き、給料もらえる。

UK, OHS/Pediatric Dentistry



- Dr. David A. Nash, DMD, MS, EdD (Emeritus Dean)
 - DMDとDDSは同じ意味で用いられている。
 - 1, 2, 3年は医学部と同じ、4年でClinical clerkship, 5年で歯科というコースを立案したが、実現しなかった。現在でも反対が多い。
 - 経済の悪化に伴い、歯学部を医学部の一部にしようという動きがある。
 - 年収: 一般歯科医20万ドル、口腔外科医30万ドル
 - 歯学校が新設される一方、伝統校が閉鎖されたりしている。
 - 新設校では研究部門を持たないところもある。
 - Dental therapist(歯科治療師)を2年で養成し、小児を主に診ることにしたらどうか。
 - Over-educated for what dentists actually do, under-educated what dentists should be.

Many thanks!

- Dr. Jeffrey P. Okeson, DMD (Professor, Chair, Dept. of Oral Health Science, Director, Orofacial Pain Program)



まとめ

- アメリカでは歯科医療に対するニーズが高く、歯科医は不足している。
- 歯科医の給与は高く、歯学部を希望する学生が多く、少なくとも10倍の競争率で、成績優秀な学生が入学する。
- 卒業後すぐに歯科診療ができることを目標にしている。基礎医学に進む者はほとんどいない。
- 3,4年生では、実際の患者の診療を行う。学生の診療を希望する患者には、料金が安く設定されている。
- 大学スタッフの給与は他より低いので、歯科医学教育の担い手は少ない。
- 米国歯科医学協会(ADEA)が歯科医のコンピテンシーを定めており、それを実現するようカリキュラムが設計されている。
- 医学部付属病院や一般病院などにおける臨床クラークシップはほとんど行われていないが、教育についてスタッフの支援は行われている。
- 歯科医学を医学と統一する計画が提案されたが、反対の方が多く、実現されていない。

今後のステップ(案)

- 歯科医療に対する社会のニーズのアセスメント。
 - 高齢化などによる疾病構造の変化。
 - 歯科医学、医学の進歩によるニーズの変化。
- 歯科医を対象とした、医療ニーズに対する評価のアセスメント。
 - 歯科医療の現場で起きている医療ニーズの変化を具体的に、全国レベルで調査する。
- 歯科医師に必要なコンピテンシーの設定。
 - 米国の歯科医師コンピテンシーなどを参考に、医学的コンピテンシーをどこまで入れるか検討する。
- コンピテンシーに基づくカリキュラムの作成。
 - コンピテンシーを獲得するために必要な、知識と技能、(態度)。
 - 1年の臨床研修も視野に入れた、学部6年間のカリキュラムの作成。

Competencies for the new dentist

General Skills

- 1 Apply ethical principles to professional practice.
- 2 Provide empathetic care for all patients, including members of diverse and vulnerable populations.
- 3 Apply the principles of jurisprudence to the practice of dentistry.
- 4 Continuously analyze the outcomes of patient treatment to improve that treatment.
- 5 Evaluate scientific literature and other sources of information to make decisions about dental treatment.
- 6 Manage oral health based on an application of scientific principles.
- 7 Participate in professional organizations.

Information Management—Currency of Skills

- 8 Assess his or her level of skills and knowledge and take steps to improve areas of deficiency.
- 9 Evaluate social and economic trends and their impact on oral health care.

Practice Management

- 10 Evaluate career options, practice location, and reimbursement mechanisms.
- 11 Educate staff in professional, governmental, legal, and office policies and professional responsibilities.
- 12 Coordinate and supervise the activity of allied dental health personnel.
- 13 Maintain patient records.
- 14 Use business systems in dental practice settings for scheduling, record-keeping, reimbursement, and financial arrangements.
- 15 Implement and monitor infection control and environmental safety programs according to current standards.
- 16 Practice within the scope of one's competence and make referrals to professional colleagues.
- 17 Use information technology and information management systems for patient care, practice management, and professional development.

Communication

- 18 Assess patient goals, values, and concerns to establish rapport and guide patient care.
- 19 Communicate orally and in writing with peers, other professionals, staff, patients or guardians, and the public at large.

Community Resources

20 Participate in improving the oral health of individuals, families, and groups in the community through diagnosis, treatment, and education.

Debt Management

21 Use professional debt management and financial planning skills.

PATIENT CARE COMPETENCIES

Diagnosis

22 Establish rapport and identify patients' general needs and expectations.

23 Identify patients' chief complaints.

24 Obtain medical, dental, psychosocial, and behavioral histories.

25 Perform head and neck and intraoral examinations.

26 Select, obtain, and interpret clinical, radiographic, and other diagnostic information and procedures.

27 Obtain medical and dental consultations when appropriate.

28 Recognize signs of abuse or neglect and report and refer as necessary.

29 Recognize predisposing and etiologic factors that require intervention to prevent disease.

30 Use clinical and epidemiological data to diagnose and establish prognosis for dental abnormalities and pathology.

31 Recognize the normal range of clinical findings and significant deviations that require monitoring, treatment, or management.

32 Monitor therapeutic outcomes and re-evaluate and modify initial diagnoses or therapy.

33 Develop treatment alternatives based on clinical and supporting data.

Treatment Planning

34 Integrate multiple disciplines into an individual, comprehensive, sequenced treatment plan using diagnostic and prognostic information.

35 Discuss etiologies, treatment alternatives, and prognoses with patients and educate them so they can participate in the management of their own care.

36 Develop and implement a sequenced treatment plan that incorporates patients' goals, values, and concerns.

37 Obtain informed consent from patient, parent, or guardian.

Treatment

38 Anticipate, diagnose, and provide initial treatment and follow-up management for medical emergencies that may occur during dental treatment.

- 39 Perform basic cardiac life support.
- 40 Recognize and manage acute pain, hemorrhage, trauma, and infection of the orofacial complex.
- 41 Manage patient with pain and anxiety by the use of nonpharmacological methods.
- 42 Select and administer or prescribe pharmacological agents in the treatment of dental patients.
- 43 Anticipate, prevent, and manage complications arising from the use of the therapeutic and pharmacological agents employed in patient care.
- 44 Provide patient education to maximize oral health.
- 45 Manage preventive oral health procedures.
- 46 Perform therapies to eliminate local etiologic factors to control caries, periodontal disease, and other oral diseases.
- 47 Manage patients with advanced periodontal diseases and conditions.
- 48 Manage patients with pulpal and periradicular diseases.
- 49 Perform uncomplicated endodontics procedures.
- 50 Perform uncomplicated oral surgical procedures.
- 51 Manage patients who have complicated oral surgical problems.
- 52 Manage patients requiring modification of oral tissues to optimize restoration of form, function, and esthetics.
- 53 Manage patients with occlusal and temporomandibular disorders.
- 54 Manage dental care for disabled and special care patients.
- 55 Manage patients in the hospital setting.
- 56 Manage a comprehensive maintenance plan following the active phase of periodontal treatment.
- 57 Manage patients requiring minor tooth movement or space maintenance.
- 58 Manage patients who have complex orthodontic problems.
- 59 Restore single defective teeth.
- 60 Restore partial or complete edentulism with uncomplicated fixed or removable prosthetic restorations.
- 61 Manage the restoration of partial or complete edentulism using implant procedures.
- 62 Manage patients with oral esthetic needs.
- 63 Communicate case design with laboratory technicians and evaluate the resultant prosthesis.

Source: American Association of Dental Schools (now American Dental Education Association). Competencies for the new dentist.

Proceedings of the 1997 AADS House of Delegates, Appendix 2. J Dent Educ 1997;71:556-8.